

2024（令和 6）年度事業報告書

学校法人 湘南ふれあい学園

目 次

I	学校法人湘南ふれあい学園の概要	1
II	学校法人湘南ふれあい学園教育指針に関する報告	7
III	学校法人湘南ふれあい学園中長期計画に関する報告	21
IV	2024年度各学校の事業計画の概要に関する報告	23
V	財務状況	50
VI	施設・設備報告	60
VII	生涯学習事業報告	61
VIII	収益事業報告	61
IX	監査報告	62
	別添資料（湘南医療大学 卒業時学生アンケート）	67

I 学校法人湘南ふれあい学園の概要

■ 基本情報

名称	学校法人 湘南ふれあい学園		
理事長	大屋敷 英志枝		
主たる事務所 住所	神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16 番 48 号		
電話番号	045-828-4322	FAX 番号	045-828-4323
ホームページ	http://www.fureai-g.ac.jp/		

■ 建学の理念

「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」

その考えのもとに保健・医療・福祉・教育を担当しそして、社会へ奉仕する事をめざすものです。

わたしたちは、すべての人々のしあわせに、今、役立ちたいと願っています。

1 やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践

2 生命を全うしていただくための知識・技術の習得

3 その人らしさと個性を尊重し敬愛す

わたしたちは、理念の実践者になります。

■ 教職員の行動基準

1 使命

ふれあいグループの理念を基本として、地域の人々の幸せに役立つ保健・医療・福祉・教育を保障するために、専門職的で倫理的な医療と教育を行なうべく最大限の努力を尽くす。

2 地域社会への貢献

ふれあいグループの医療と教育機能を地域の医療・教育体系に連携し、効率的な地域サービスの成果を挙げることに努める。

3 研修と教育

教育者としての研修に励み、ふれあいグループとして提供できる医療教育水準の向上と後進の教育に努める。

4 記録と守秘義務

記録を完備し確実に管理するとともに、職務上知り得た個人の秘密は厳守する。

5 管理運営

学生中心の教育の心構えを堅持し、ふれあいグループが地域社会に必須の医療並びに教育施設として存続できるよう、公正で合理的な管理運営に努める。

■ 事業基本方針

1 私たちは、PDC 活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します。

2 私たちは、学生・園児に最適な教育サービスをタイムリーに提供します。

3 私たちはやさしさ、思いやりと気配りのある態度で仕事をします。

■ 全教職員参加

1 PDC 活動の推進（部門・個人 PDC の精度向上）

2 安全管理体制の強化（委員会活動の活性、規程類の再点検）

3 FD・SD 活動、研修活動の推進（授業内容、職務内容の改善による教育水準の向上）

4 業務改善運動の推進及び 6 S 活動の実践

5 業務遂行の効率アップによる時間外削減及び時間の有効活用、整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法の取り組み強化

■ 法人及び設置校の沿革

年 月		沿革
平成 6 年 (1994)	1 月	準学校法人 湘南ふれあい学園設置
	4 月	茅ヶ崎看護福祉専門学校創立
平成 10 年 (1998)	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校創立
平成 12 年 (2000)	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校社会福祉専攻科設置
平成 13 年 (2001)	1 月	学校法人横浜アカデミーより 2 幼稚園、2 専門学校、1 予備校を継承 湘南ふれあい学園を準学校法人から学校法人へ変更
平成 14 年 (2002)	4 月	専門学校横浜外語ビジネスアカデミー日本語研修科設置
平成 16 年 (2004)	4 月	下田看護専門学校創立 専門学校横浜外語ビジネスアカデミー美容学科・診療情報管理学科・臨床工学学科設置
平成 17 年 (2005)	4 月	専門学校横浜外語ビジネスアカデミーをふれあい横浜専門学校に校名変更
平成 18 年 (2006)	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校社会福祉学科を精神社会福祉学科へ名称変更 ふれあい横浜専門学校美容学科入学定員変更、総合電子専門学校学科再編（設置及び変更）
平成 20 年 (2008)	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 理学療法学科入学定員変更
平成 21 年 (2009)	4 月	総合電子専門学校 学科再編（名称変更等）
平成 22 年 (2010)	4 月	茅ヶ崎看護福祉専門学校を茅ヶ崎看護専門学校に校名変更及び看護学科入学定員変更
平成 23 年 (2011)	4 月	ふれあい横浜専門学校 観光学科入学定員変更 総合電子専門学校 研究科設置
平成 24 年 (2012)	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校言語聴覚学科（2 年制）設置及び作業療法学科入学定員変更 総合電子専門学校 医療マネジメント科設置及び情報デザイン科入学定員変更
	6 月	湘南医療大学（仮称）大学設立準備室設置
平成 26 年 (2014)	3 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 南湖校舎移転 湘南医療大学（仮称）設置認可申請書提出
	4 月	学校法人湘南ふれあい学園本部事務所移転 総合電子専門学校を医療ビジネス観光情報専門学校に校名変更及び学科再編
	10 月	湘南医療大学 設置認可 学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可
平成 27 年 (2015)	4 月	湘南医療大学開学 学校法人湘南ふれあい学園本部事務所移転
平成 28 年 (2016)	3 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修設置
平成 29 年 (2017)	2 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修 年間定員を 30 名→60 名に変更
	4 月	みどり幼稚園を幼保連携型認定こども園みどり幼稚園に改組
平成 30 年 (2018)	2 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修 年間定員を 60 名→90 名に変更
	3 月	医療ビジネス観光情報専門学校 情報システム学科 廃科 工業専門課程 廃止
	4 月	湘南医療大学 臨床医学研究所
	7 月	医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科設置及びこれに伴う校名変更認可
	11 月	湘南医療大学 大学院（保健医療学研究科）設置認可及びこれに伴う学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可 医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科新課程設置に伴う学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可
	2 月	湘南医療大学薬学部新設のための寄附活動のための寄附行為変更認可
平成 31 年 令和元年 (2019)	4 月	湘南医療大学大学院保健医療学研究科設置 湘南医療大学認定看護研修センターを看護実践教育センターに改称 医療ビジネス観光福祉専門学校に校名変更 介護福祉学科、附帯教育事業 介護福祉士実務者研修設置
	3 月	湘南医療大学薬学部医療薬学科設置申請 湘南医療大学薬学部設置に伴う学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可申請
令和 2 年 (2020)	4 月	下田看護専門学校を湘南医療大学附属下田看護専門学校に名称変更
	10 月	湘南医療大学薬学部医療薬学科設置認可 湘南医療大学薬学部設置に伴う学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可
令和 3 年 (2021)	4 月	湘南医療大学薬学部設置 湘南医療大学 看護実践教育センターを看護キャリア開発コアセンターに改称

	8 月	湘南医療大学収容定員（保健医療学部看護学科入学定員 80→140 名）変更認可
	12 月	湘南医療大学専攻科（公衆衛生看護学専攻 助産学専攻）設置認可
令和 4 年（2022）	4 月	湘南医療大学大学院高度実践看護師（がん看護）養成課程設置
	3 月	湘南医療大学大学院保健医療学研究科博士後期課程設置申請 医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科入学定員変更計画書提出（35→60 名）
令和 5 年（2023）	4 月	湘南医療大学大学院高度実践看護師（感染看護学）養成課程設置
	6 月	湘南医療大学大学院保健医療学研究科博士後期課程設置申請（補正）
	9 月	湘南医療大学大学院保健医療学研究科博士後期課程設置認可 医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科入学定員変更申請書提出（35→60 名）
	3 月	医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科入学定員変更認可（35→60 名） 湘南医療大学別科介護福祉別科 介護福祉士学校 計画書提出
令和 6 年（2024）	4 月	湘南医療大学大学院保健医療学研究科博士後期課程設置
	9 月	湘南医療大学別科介護福祉別科 介護福祉士学校 指定申請
	3 月	湘南医療大学別科介護福祉別科 介護福祉士学校 認可

■設置する学校等の概要

【設置する学校】（2024 年 5 月 1 日現在）

学校名	学部・学科・専攻等（入学定員）	開設年度
湘南医療大学 （東戸塚キャンパス） 神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16 番 48 号 （薬学部キャンパス） 神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16 番 10 号 （山手キャンパス） 神奈川県横浜市中区山手町 27 学長 大屋敷 英志枝	保健医療学部	看護学科（140）
		リハビリテーション学科 理学療法学専攻（40）
		リハビリテーション学科 作業療法学専攻（40）
	薬学部	医療薬学科（130）
	大学院	保健医療学研究科 修士課程（12）
		博士後期課程 （3）
	専攻科	公衆衛生看護学専攻（20）、 助産学専攻（15）
茅ヶ崎看護専門学校 神奈川県茅ヶ崎市今宿 390 番地 学校長 今田 敏夫	看護学科（80）	平成 6 年度 （1994 年）
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 神奈川県茅ヶ崎市南湖 1 丁目 6 番 11 号 学校長 赤池 信	理学療法学科（70）	平成 10 年度 （1998 年）
	作業療法学科（30）	
	言語聴覚学科（35）	
	付帯教育事業 社会福祉専攻科（80）	
湘南医療大学附属下田看護専門学校 静岡県下田市柿崎 289 番地 学校長 大石 實	看護学科（40）	平成 16 年度 （2004 年）
医療ビジネス観光福祉専門学校 神奈川県相模原市南区上鶴間本町 3 丁目 18 番 27 号 学校長 石代 欣一郎	医療ビジネス学科（40）	昭和 61 年度 （1986 年）
	観光学科（40） ※募集停止中	
	介護福祉学科（60）	平成 31 年度 （2019 年）
	付帯教育事業 介護福祉士実務者研修（30）	
幼保連携型認定こども園みどり幼稚園 神奈川県横浜市戸塚区汲沢 2 丁目 26 番 14 号 園長 入澤 登美子	認定こども園（218）	平成 29 年度 （2017 年）

【設置する学校等の在籍者数】（2024 年 5 月 1 日現在）

【湘南医療大学】

学部・学科・専攻		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	入学 者数	2024 年度在籍者数				2024 年度 卒業生
						1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	
保健 医療 学部	看護学科	140	—	440	147	150	140	134	78	74
	リハビリテーション学科 （理学療法学専攻）	40	—	160	44	44	43	41	45	44
	リハビリテーション学科 （作業療法学専攻）	40	—	160	40	40	41	34	37	31
薬学部	医療薬学科	130	—	390	61	65	81	54	27	
大学院	保健医療学研究科（修士）	12	—	24	9	9	6			5
	〃（博士後期課程）	3	—	3	6	6				
専攻科	公衆衛生看護学専攻	20	—	20	20	20				20
	助産学専攻	15	—	15	15	15				14

【湘南医療大学 収容定員の充足率】

学部・ 学科	平成 27 年度 (2015) 開学年度	平成 28 年度 (2016)	平成 29 年度 (2017)	平成 30 年度 (2018) 完成年度	2019 年度 大学院設置	2020 年度	2021 年度 薬学部設置	2022 年度	2023 年度	2024 年度
保健医療学部	1.16	1.08	1.08	1.05	1.05	1.01	1.02	0.99	0.98	1.00
看護学科	1.25	1.11	1.11	1.06	1.04	1.01	0.99	0.98	0.99	1.00
リハビリテーション学科	1.08	1.05	1.04	1.03	1.07	1.02	1.05	0.99	0.97	1.01
薬学部							0.26	0.38	0.46	0.43
大学院					0.91	0.71	0.71	0.95	0.83	0.77
専攻科								0.77	1.00	1.00

【茅ヶ崎看護専門学校】

学科	入学定員	収容 定員	入学者数	2024 年度在籍者数			2024 年度 卒業生
				1 年生	2 年生	3 年生	
看護学科	80	240	68	69	73	71	65

【茅ヶ崎リハビリテーション専門学校】

学科	入学定員	収容 定員	入学者数	2024 年度在籍者数				2024 年度 卒業生
				1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	
理学療法学科	70	280	61	64	60	67	52	50
作業療法学科	30	120	9	9	22	12	13	13
言語聴覚学科	35	70	31	32	24			24
社会福祉専攻科※1	80	160	36	36	62			47

※1 社会福祉専攻科は 1 年 6 ヶ月の通信課程

【湘南医療大学附属下田看護専門学校】

学科	入学定員	収容 定員	入学者数	2024 年度在籍者数			2024 年度 卒業生
				1 年生	2 年生	3 年生	
看護学科	40	120	15	17	21	36	33

[医療ビジネス観光福祉専門学校]

学科	入学定員	収容定員	入学者数	2024 年度在籍者数		2024 年度 卒業生
				1 年生	2 年生	
医療ビジネス学科	40	80	20	20	13	13
観光学科	40	40	—	—	16	16
介護福祉学科	60	95	53	53	18	18
介護福祉士実務者研修※2	30	30	16	16		15

※2 介護福祉士実務者研修は 6 ヶ月の通信課程（6 月 年 2 回開講）

[幼保連携型認定こども園みどり幼稚園]

総定員	入園者数	2024 年度在籍者数					2024 年度 卒園生
		1 歳児	2 歳児	年少	年中	年長	
218	57	8	10	55	65	59	59

【法人役員・評議員及び理事会・評議員会の開催状況】

1. 役員・評議員の数（2025 年 3 月 31 日現在）

役員、評議員	定数	現員
理事	6～8	6
監事	2	2
評議員	13～17	13

2. 役員の概要（理事 6 名、監事 2 名 2025 年 3 月 31 日現在）

役職	氏名	主な現職	就任年月日（重任日）
理事長／常勤	大屋敷 英志枝	湘南医療大学学長 医療法人社団康心会理事長	1994 年 3 月 8 日
理 事／非常勤	大屋敷 幸志	社会福祉法人麗寿会理事長	2006 年 6 月 24 日（2024 年 6 月 24 日）
理 事／常勤	熊谷 幸男	湘南ふれあい学園事務局長	2001 年 6 月 24 日（2024 年 6 月 24 日）
理 事／非常勤	小林 暢比古	神奈川県金属プレス工業会名誉会長	2021 年 1 月 1 日
理 事／常勤	寺本 明	湘南医療大学副学長兼保健医療学部長	2020 年 6 月 24 日
理 事／非常勤	有坂 健一	税理士	2016 年 6 月 24 日（2024 年 6 月 24 日）
監 事／非常勤	金井 清吉	弁護士	2001 年 4 月 1 日（2024 年 6 月 24 日）
監 事／非常勤	竹俣 耕一	公認会計士 税理士	2012 年 6 月 24 日（2024 年 6 月 24 日）

3. 評議員の概要（評議員 13 名 2025 年 3 月 31 日現在）

	氏名	主な現職	就任年月日（重任日）
評議員／常勤	大屋敷 英志枝	湘南医療大学学長 医療法人社団康心会理事長	2002 年 7 月 4 日（2024 年 7 月 4 日）
評議員／常勤	寺本 明	湘南医療大学副学長兼保健医療学部長	2018 年 4 月 1 日（2024 年 7 月 4 日）
評議員／常勤	加藤 尚美	湘南医療大学 名誉教授	2019 年 6 月 1 日（2024 年 7 月 4 日）
評議員／非常勤	赤池 信	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 学校長 兼 康心会汐見台病院 院長	2022 年 4 月 20 日（2024 年 7 月 4 日）
評議員／常勤	入澤 登美子	幼保連携型認定こども園みどり幼稚園園長	2010 年 3 月 30 日（2024 年 7 月 4 日）
評議員／常勤	加藤 修一	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校副校長	2005 年 3 月 30 日（2024 年 7 月 4 日）
評議員／常勤	小野川 敏子	湘南医療大学附属下田看護専門学校 副校長	2011 年 3 月 23 日（2024 年 7 月 4 日）

評議員／常勤	小林 勝一郎	湘南ふれあい学園学園本部 部長	2013年3月22日（2020年7月4日）
評議員／常勤	山戸 真実	（株）FMC 人事部職員	2018年4月1日（2020年7月4日）
評議員／非常勤	有坂 健一	税理士	2016年6月24日（2020年7月4日）
評議員／非常勤	今田 敏夫	茅ヶ崎看護専門学校 学校長 兼 湘南健康管理クリニック 院長	2019年8月1日（2020年7月4日）
評議員／常勤	熊谷 幸男	湘南ふれあい学園事務局長	2001年4月10日（2020年7月4日）
評議員／非常勤	大屋敷 幸志	社会福祉法人麗寿会理事長	2004年7月4日（2020年7月4日）

4. 2024年度 理事会・評議員会開催状況

	開催回数
理事会	6回
評議員会	5回

【設置する学校等の教職員数】

教職員数（2024年5月1日現在）

学校名	教員		職員 ^{※3}
	専任 ^{※1}	兼任 ^{※2}	
湘南医療大学	127	252	56
茅ヶ崎看護専門学校	21	72	6
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	21	67	10
湘南医療大学附属下田看護専門学校	9	37	3.8
医療ビジネス観光福祉専門学校	14	15	4
幼保連携型認定こども園みどり幼稚園	25.7	—	4.88
学園本部（研修センター含む）	2	0	4

※1 専任には、学長、学校長、非常勤契約者を含む ※2 兼任教員は外部講師延べ数

※3 非常勤職員（守衛）、非常勤補助者の常勤換算数

教員内訳

[湘南医療大学]

学部	学科・専攻		教授		准教授		講師		助教		助手		計	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
保健 医療 学部	看護学科		5	13	0	5	3	6	3	8	0	3	11	35
	リハビリテー ション学科	理学療法 学専攻	7	0	1	2	3	0	1	0	0	0	12	2
		作業療法 学専攻	2	1	3	0	1	2	1	1	0	0	7	4
薬学部 医療薬学科			16	3	6	4	6	1	4	2	0	0	32	10
保健医療学研究科＊			1	2	0	2	0	0	0	1	0	0	1	5
専攻科			0	0	0	3	0	1	0	2	0	1	0	7
計			31	19	10	16	13	10	9	14	0	4	63	63

*保健医療学研究科教員の保健医療学部兼任者は、学部には再掲しない。

保健医療学部教員の保健医療学研究科兼任者は、研究科には再掲しない。

教職員の保有学位や業績については、以下のホームページ上に公開している。

https://sums.ac.jp/html/department/nursing_teacher.html

https://sums.ac.jp/html/department/pt_teacher.html

https://sums.ac.jp/html/department/ot_teacher.html

<https://sums.ac.jp/html/department/pharmacy/teacher.html>
https://sums.ac.jp/html/graduate_school/teacher/
<https://sums.ac.jp/html/advanced-courses/teacher.html>

II 学校法人湘南ふれあい学園教育指針に関する報告

1 教育力を高める活動

教職員は、学生の学習力を引き出し、やる気を目覚めさせ、卒業目標（DP）にかなう人材育成を行うと同時に、国家試験に合格する教育を実施してきました。

そのための取り組みとして、学生からの授業・実習評価アンケートの実施、GPA評価、毎回の授業ではリフレクションシートの活用などを行ってきました。また、各学部、学科において、年3～4回のFD研修が計画され、計画通りに実施されました。

湘南医療大学の卒業時アンケートは、別紙のとおり報告します。

教員の資質を高める活動

学園各校は、教育力を高めるため、また、教育・研究活動の到達度の確認・点検、実践力強化に向けた指導方法改善などの発表やWGをする場として、「大学部会」「教育部会（専門学校）」「保育部会（認定こども園）」において、2ヶ月に1回「全体研修会」、年に2回「医療教育研究会」を開催した。2024年度の研修実績は以下のとおりです。

大学部会、教育部会、保育部会 2024年度 研修会プログラム

【大学部会】

月	内容	発表者
4.5月	ふれあいグループのめざすもの 《FD・SD研修①》 ①学部の理念・教育目標～教育職員（新任教員含む）に向けた学部教育～保健医療学部の教育目的、教育方針及び研究のありかた ②5つの活動の実践（1）部門PDC（3月のC 4月のPD） ③5つの活動の実践（2）業務改善（課業表）・全体研修会・朝礼・6S活動 《FD研修②：休退学者の減少》学生が主体的に学べるための理解しやすい授業の工夫（模擬授業等実践例） 《FD研修③：国家試験対策》国家試験結果と今年度の年間計画①国家試験結果から見えた課題 不得意科目、躓きやすい科目への対応 《FD研修③：OSCE・CBT試験対策》Sプロジェクトの実行から OSCE・CBT試験合格に向けて	大屋敷英志枝 寺本 小林 田中、柴田、西野 石川、大村、田島 小林、坂上、三川 湯本、石川
6月	（看護学科・専攻科・コアセンター） 医療的ケアが必要な重症心身障害児の就学時における父親の子育てプロセスと今後の展望 大量飲酒により身体疾患を発症し総合病院を受診した患者への飲酒量低減に向けた看護師の簡易介入プログラムの開発に関する研究 こどもクリニックでのホームケア・育児支援を実施して ジレンマを抱きながら倫理調整を行ったがん専門看護師を目指す修了生の成長—倫理調整の事例検討会を通して— 脱水症が高齢者の健康に及ぼす影響：スコーピングレビュー A都道府県がん診療連携拠点病院 相談支援センターにおける相談のパターン 糖尿病をもつ成人期の人々の自己管理の実態 一性役割意識に焦点をあてて— 多職種と共に在宅重症心身障害者と母親を支援するプログラムの開発 小児期永久ストーマ保有患者の合併症による移行期支援の障壁—2事例の移行期支援から— 妊婦を対象としたマインドフルネスの文献検討 座圧測定併用シーティングが車椅子利用高齢者の圧再分配および日常生活に及ぼす影響：多施設コホート研究 新人看護職のメンタルヘルス支援プログラムの開発 介護支援専門員が認識する協働的能力の特徴および構成要素の検討 糖尿病性腎症患者の透析導入までの保存期間と自己管理及び自己管理に影響する要因との関連 中小規模病院等の看護管理者支援の取組例から 1967年のカリキュラム改正後の看護教育実践-実習指導を行った看護職者の語りから— 国内外における靴に関する教育の現状と課題 看護チームで取り組む看護実践の構造—統合実習で複数受け持ちを体験した学生の学びから— 宿泊型産後ケアにおける助産師のケアの質指標の開発 専門家会議による適切性の検証 公衆衛生看護分野における健康危機の動向	本間 小野寺 松島 岡 東村 清水 伊藤 倉田 伊藤 山崎 田中 片山 小林 渡部 村嶋 菊池 佐々木 三ツ井 青島 澤井

6 月	(看護学科・専攻科・コアセンター) 妊娠初期の夫婦関係と妊娠初期ならびに妊娠中期の妊婦の胎児への愛着との関連 腹部消化器外科術後切開創のサーモグラフィによる前向き観察研究 外国人患者への対応に関する看護師向け教材の開発 終末期がん患者の在宅看取りケアに関する多職種コーディネート・スキルの概念化 救急・集中治療領域におけるCOVID-19患者の終末期の家族面会の実態および看護師・感染管理者の意識調査 新しい組織論を学んだ看護管理者の認識の変化 患者・家族の意思決定能力に応じた意思決定支援—高齢がん患者の意思決定支援に関する多職種研修の評価— 精神障害をもつ女性の妊娠・分娩・産褥期の主観的体験に関する文献検討 看護ケアにおける尺度開発と活用プロセス（２）—がん患者の家族支援ケア実践評価尺度の開発と活用例から— (リハビリテーション学科) 急性期脳卒中患者における注意機能の行動観察評価とトイレ動作の関連 シラバス論～FDにおけるシラバスの課題と打開策の提言～ 能動的歩行速度調整に伴う重心加速度と筋活動量の変化 地域作業療法学の 主観的な学びの達成度調査 精神疾患により休業する労働者の復職準備性に関連する日常生活活動の検討 「パラスポーツ指導員」資格取得講義受講による学生の意識変化 Evidence-Based Practiceに関連する作業療法士の基本属性および臨床・教育・研究の経験 下部尿路障害を有する虚弱高齢者に対する理学療法の効果 地域在住高齢者の下肢機能と心肺機能に対する在宅ステップトレーニングの効果 CTによる腹部組織構成比の年齢的变化 自覚的強度を指標とした非最大努力指示による筋力評価 社会的行動障害の症状を有する脳損傷患者の家族介護者への包括的な支援プログラムの構築に向けて 理学療法学専攻における休退学について 脳卒中運動麻痺に対する間葉系幹細胞投与後の集中リハビリテーション効果	望月 内藤 ラウ 本田 山勢 松月 渡邊 牛田 川本 宮内 神保 土田 久保田 杉村 中尾 増田 櫻井 森尾 柴田 大森 鈴木 坂上 田邊
6 月	ふれあいグループが目指すもの (看護学科・専攻科・コアセンター) 「慢性疾患患者に対するアドバンス・ケア・プランニングの概念分析」についての文献検討 本邦における月経に対する支援についての文献検討 地域包括支援センター看護職が介護者を地域の水平的組織につなげる支援と介護者の変容のプロセス 若年性認知症者への就労支援における基礎的調査 新人看護職のSOC (Sense of Coherence) に関する文献レビュー がん患者とその家族への看護相談の実践にリフレクションを取り入れた関わりの変化 精神障がい者の恋愛・結婚に関するオンラインプログラムの開発と評価：ランダム化比較試験 Caring partnership with nurse and HEC praxis 集中治療室における新人看護師が経験する困難と支援 『わが国の感染症看護専門看護師および感染管理認定看護師の地域における感染対策活動とそのネットワークに関する文献検討』 COVID-19拡大に伴う自粛生活による1型糖尿病患者の心身への影響 コロナ発生後における地域活動への参加交流に対する都市在住高齢者の意識＜第1報＞ 看護職の心理的安全性と組織に関する文献レビュー HPVワクチン接種後有害事象発現者が、新型コロナワクチン接種を受ける際に必要な支援 『一般不妊治療を受けている女性の思い』の文献レビュー 地域包括支援センター保健師に関する研究の動向 救急・集中治療領域におけるDNAR方針患者・家族への関わりについての文献検討 村松志保子氏の助産師活動・教育における文献検討 看護大学生の自己調整学習に関する文献レビュー 訪問看護師が行う判断に関する文献レビュー 訪問看護師に対しての研修内容に関する文献検討 コロナ禍における臨地実習の変容がもたらした影響 子育て世代包括支援センターにおける連携に関する文献検討 更年期女性の更年期症状への関連因子についての横断研究 〈保健医療学部リハビリテーション学科〉 神経解剖学と脳画像評価に対するセラピストの意識調査 「フォトボイス」の手法による脳卒中障害者の働く場における探索的ニーズ調査 人工炭酸温水による足浴が下肢筋力向上と転倒予防への可能性について 地域防災拠点における災害時要配慮者の受け入れに関する調査 新生児の自発運動の計量化と動きの関連 脳卒中後うつ病者のリハビリテーションの捉え方について—脳卒中罹患者を対象とした質的調査— 筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群当事者による作業の選択・継続に影響を与える要因—複線経路・等至性モデリング（TEM）を用いた質的記述的研究— 10年間の地域健康増進活動と今後の課題	大屋敷美志枝 関谷 野井 高橋 佐々木 渡部 三堀 日下 倉橋 松永 野口 陶山 塚原 栗原 松尾 黒川 大高 坂口 是永 黒田 市川 石橋 櫻井 山崎 今野 大村 西野 中村 下田 斉藤 三川 田島 鶴見

	(薬学部) NDBオープンデータを用いた抗てんかん薬の処方動向の検討 パニツムマブ由来のざ瘡様皮疹に対する 非ステロイド性抗炎症内服薬による予防効果 片頭痛の慢性化における性差メカニズム オピオイド naïve のがん疼痛患者における低用量フェンタニルパッチと経口オキシコドン徐放製剤の効果および副作用の比較 せん妄にの薬物療法に関する臨床的取り組み セロトニン誘導体誘発幻覚作用の測定法開発に関する研究 副鼻腔真菌症の病型別原因菌の分子生物学的解析 COVID-19と「空気感染」の再考 「ダメ。ゼッタイ。」普及活動と医療用麻薬 非PEG化G-CSF製剤からPEG化G-CSFボディポットへの切り替え経験 大規模副作用データベースを用いた薬剤性吃逆におけるリスク因子の検討 EGFR-TKIによる副作用発現機構の解明 医療機関・薬局連携ツールに関する研究 ―トレーシングレポートを活用した地域連携― 緊急避妊薬に関する消費者の情報ニーズおよび「性と生殖に関する健康と権利」に関する意識調査 がん患者と家族に対する保険薬局薬剤師と病院看護師の 連携による支援モデルの開発 二次元培養細胞を用いた皮膚修復機能の検討 医療コミュニケーション教育のカリキュラム構築と評価 がん薬物療法におけるペグ化G-CSF製剤の投与日の検討 薬物乱用防止「ダメ。ゼッタイ。」普及運動と医療用麻薬の印象理解に関する探索的調査研究―年代別検討―	浦田中 池上 国分 佐藤 船田 若山 古屋 鈴木 尾関 細谷 小野塚 竹内 寺島 鳥越 佐野 湯本 加藤 加賀谷
7.8 月	ふれあいグループが目指すもの (看護学科・専攻科・コアセンター) 「慢性疾患患者に対するアドバンス・ケア・プランニングの概念分析」についての文献検討 本邦における月経に対する支援についての文献検討 地域包括支援センター看護職が夫介護者を地域の水平的組織につなげる支援と夫介護者の変容のプロセス 若年性認知症者への就労支援における基礎的調査 新人看護職のSOC (Sense of Coherence) に関する文献レビュー がん患者とその家族への看護相談の実践にリフレクションを取り入れた関わりの変化 精神障がい者の恋愛・結婚に関するオンラインプログラムの開発と評価：ランダム化比較試験 Caring partnership with nurse and HEC praxis 集中治療室における新人看護師が経験する困難と支援 『わが国の感染症看護専門看護師および感染管理認定看護師の地域における感染対策活動とそのネットワークに関する文献検討』 COVID-19拡大に伴う自粛生活による1型糖尿病患者の心身への影響 コロナ発生後における地域活動への参加交流に対する都市在住高齢者の意識＜第1報＞ 看護職の心理的安全性と組織に関する文献レビュー HPVワクチン接種後有害事象発現者が、新型コロナワクチン接種を受ける際に必要な支援 『一般不妊治療を受けている女性の思い』の文献レビュー 地域包括支援センター保健師に関する研究の動向 救急・集中治療領域におけるDNAR方針患者・家族への関わりについての文献検討 村松志保子氏の助産師活動・教育における文献検討 看護大学生の自己調整学習に関する文献レビュー 訪問看護師が行う判断に関する文献レビュー 訪問看護師に対しての研修内容に関する文献検討 コロナ禍における臨地実習の変容がもたらした影響 子育て世代包括支援センターにおける連携に関する文献検討 更年期女性の更年期症状への関連因子についての横断研究 〈保健医療学部リハビリテーション学科〉 神経解剖学と脳画像評価に対するセラピストの意識調査 「フォトボイス」の手法による脳卒中障害者の働く場における探索的ニーズ調査 人工炭酸温水による足浴が下肢筋力向上と転倒予防への可能性について 地域防災拠点における災害時要配慮者の受け入れに関する調査 新生児の自発運動の計量化と動きの関連 脳卒中後うつ病者のリハビリテーションの捉え方について―脳卒中罹患者を対象とした質的調査― 筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群当事者による作業の選択・継続に影響を与える要因―複線経路・等至性モデリング (TEM) を用いた質的記述的研究― 10年間の地域健康増進活動と今後の課題	大屋敷英志枝 関谷 野井 高橋 佐々木 渡部 三堀 日下 倉橋 松永 野口 陶山 塚原 栗原 松尾 黒川 大高 坂口 是永 黒田 市川 石橋 櫻井 山崎 今野 大村 西野 中村 下田 斉藤 三川 田島 鶴見

7.8 月	〈薬学部〉 横浜市の下水処理施設近傍の水域を対象とした薬剤耐性菌の存在実態 放線菌株単離の条件検討 新規膀胱がん治療薬開発を目的としたインディルビンー亜鉛錯体の創製 γSクリスタリンにおけるアスパラギン残基の脱アミド化による凝集促進 真菌代謝産物からの抗血小板活性物質の探索 天然由来有用化合物の供給に関する研究 神奈川県での飲酒の頻度・量と肝機能の相関解析 AS-MSによるRAD52阻害剤探索のための条件検討 新規エストロゲン受容体アンタゴニストの創製 タンパク質中に生成したスクシンイミド中間体のラセミ化：リン酸水素イオンによる触媒作用の可能性の計算化学的検討 不斉エナミノンの反応性に関する研究 酸化ストレスタンパク質の疾患バイオマーカーとしての可能性 薬学教育における実習教材としてのメダカの有用性 Trichosporon asahii の病原因子の探索 ATL特異的増加タンパク質をコードする遺伝子の増幅 ジョン・リリー（1554-1606）『ミダス』について 肝臓における脂質代謝系の性差解析 ヒト皮膚ケラチノサイトにおけるプロテアーゼ活性化受容体を介したサイトカイン応答 ゲンタマイシンによる骨芽細胞の細胞毒性に対するIGF-1の回復効果 神経ペプチドPACAPによる神経突起の伸長機構について 関節リウマチ患者における薬の使用上の課題	曾川 江川 市丸 加藤（紘） 中楯 片川 加藤（英） 石川 栗原 高橋 東山 須藤 殿山 市川 石田 須田 山崎 石橋 木村 塩田 定本
9.10 月	ふれあいグループのめざすもの 《グループ5つの活動：部門PDC(7月PDC)》 1. 看護学科、2.リハビリ学科（PT学専攻）、3.リハビリ学科（OT学専攻）、4.薬学部 《グループ5つの活動：業務改善》 1. 課業表作成の意義、2. 業務改善計画を達成するには正しい課業表が必要、3. 現在の大学の提出状況(全員提出) 人事部より 《FD/SD研修：重点目標（IR部門の強化）》 休退学者の減少、入学定員確保、国試対策等の改善に取り組むため情報収集～どのようなデータを収集し、課題解決するのか。データの整理の仕方や活用方法を他大学の事例を踏まえた研修～ 《FD研修：重点項目（研究活動）》 研究活動における不正行為の防止について～研究不正防止に向けて、競争的研究費の応募制限措置の考え方について説明する。～ 《SD研修：今年の学生募集活動》 1. 今年の学生募集活動と経過、2. 高大連携活動の状況	大屋敷英志枝 倉田、中村、神保、 木村 秋田、渡辺 人事部 石岡 寺本 土佐
11.12 月	ふれあいグループのめざすもの 《グループ5つの活動：部門PDC(10月PDC)》 1.看護学科(東戸塚C)、2.看護学科（山手C）、3.リハビリ学科（PT学専攻）、4.リハビリ学科（OT学専攻） 《グループ5つの活動：業務改善》 人事部より 《FD研修：重点項目（私立大学改革総合支援事業） （授業評価等の結果を生かした授業改善、教育活動改善への活用）》学生が理解しやすい授業を行うためには(好事例発表) 《FD研修：経常費補助金・ICT活用技術の向上》 ICT・セキュリティ教育 《FD/SD研修：重点項目（経常経費補助金事業項目）》 障害のある学生への支援、障害のある人への合理的配慮の提供義務化に対する対応について	大屋敷英志枝 倉田、三ツ井、中 村、神保 渡辺 人事部 野口、小林(和) 石岡 田邊
2 月	第21回医療・教育研究会 （看護学科・専攻科・コアセンター） 看護学生が臨地実習において「患者の立場に立つ」に関連する文献検討 医療的ケア児を地域で支えるための看看連携のパンフレットの作成 コロナ禍の学内での分娩介助実習における助産学専攻科学生の学習目標+到達状況の自己評価と学び 本学における認知症看護認定看護師養成とその後の活動支援 運動介入が物質関連障害者の自尊感情や自己効力感を高める効果に関する文献検討 災害時用ストーマ装具の備蓄ができない理由に一時的ストーマと永久的ストーマの違いはあるのか：質的研究	黒田 倉田 望月 牛田 小野寺 内藤 塚原 伊藤

コロナ禍を経た地域活動の参加に対する都市在住高齢男性の意識 退院後のセルフモニタリングを用いたアプローチによる行動変容過程 市販薬乱用予防に関する国外文献レビュー 産後ケア施設に勤務する助産師のケアに対する認識 若者の出産観についての文献検討 女子大学生の足と靴の実態調査 新任期の民生委員・児童委員が地域における見守り活動で感じる困難と対処状況 腹膜透析関連感染症予防のために看護師が患者・家族へ指導すべき項目に関する研究 ―デル ファイ法を用いた検討― 中途採用者を活かす組織づくり NICU・GCU に入院している乳児の泣きに対する看護師の捉え方 コロナ禍における臨床実習を補完する教育方略の効果 タウリンと高齢者の健康に関する文献レビュー 多職種による高齢がん患者の意思決定支援（意思の推定）研修会の評価―意思決定支援の取り 組みと今後の課題認識の質的分析― 日本における IDDM と摂食障害を併発した患者の文献レビュー Experiences of Difficulty in Hematopoietic Cell Transplant Nurses : A Qualitative Systematic Review Protocol シミュレーション教育のリアリティさから学生が学ぶもの 就学前の子どもを育てる 35 歳以上の母親の心身の不調に影響する要因 ～育児ストレスと月 経状態の影響～ 筋萎縮性側索硬化症療養者の呼吸療法の意思決定を支える訪問看護師の支援の質的研究につ いての文献検討 地域特性が異なる大学に通う看護学生の防災意識及び防災行動の比較検討 介護予防における地域包括支援センター保健師の地域活動の視点 ～地域の課題を捉える視点 に焦点をあてて～ 座圧測定併用シーティングが車いす利用高齢者の圧再分配及び日常生活に及ぼす影響：多施設 コホート研究 （リハビリテーション学科） 車椅子座位上肢機能検査（Wheel Chair Seating Arm Function Test, WS-AFT）短縮版の開発 診療参加型の作業療法臨床実習におけるリフレクション・シート使用の有用性と課題：実習生 フォーカスグループによる質的研究 John Dewey の習慣論からみる習慣性質の二重性 介護老人保健施設入所者における食堂の座席での反復起立テストと日常歩行、バランス機能、 歩行耐久性の関係 足浴による高齢者のバランス能力の変化 令和 6 年能登半島地震災害支援活動報告 脳卒中後うつ病経験者の回復要因―トピックモデルを用いた解析― 運動と認知症予防とその可能性 介護予防運動プログラムが要介護発生リスクに及ぼす影響：10 年間の観察研究 介護老人福祉施設における高齢者と伴侶動物の共生のための動物（犬・猫）への支援方法―質 的データ分析手法 SCAT を通して― 介護職員への行動論に基づく移乗介助指導プログラムの効果と脱衣介助指導への般化に関する 研究 理学療法士界のキャリアアップシステムとその課題 （薬学部） 横浜市の水域を対象とした薬剤耐性菌の実態調査 核内受容体に作用する天然由来化合物の探索研究 光増感構造としてアントラセンを有する金属配位子の DNA 光切断活性 ヘキソースにおけるシッフ塩基形成の反応機構解析 Aspergillus udagawae IFM54302 株が生産する抗血小板物質に関する研究 ショーガオールと誘導体の合成 公衆衛生学研究：コロナ禍のストレスとメンタルヘルスに関するデータ解析 インフルエンザウィルスの金属酵素 RNA ポリメラーゼを阻害するジケト酸誘導体のドラッグデ ザイン 定量的構造活性相関（QSAR）による危険ドラッグのインシリコ活性予測 リン酸水素イオンが触媒として働くスクシンイミド残基立体反転の計算化学的研究：非対称 SEI 機構 不斉 enaminone の反応性に関する研究 閉塞性睡眠時無呼吸症候群における酸化ストレスタンパク質の解析 百日咳菌が分泌する低分子量物質とその意義 小型魚類メダカを用いた生物学実習プログラムの構築 微生物学実習の学修への効果 2024 成人 T 細胞白血病／リンパ腫（ATL）のプロテオーム解析：ウイルス因子 Tax との相関 John Lyly の劇作品の歴史的背景 Liver X receptor（LXR）のサブタイプによる動態の違いについての解析 ヒトケラチノサイトの TSLP 産生における Protease-activated receptor-2 および Toll-like receptor-4 の生理的役割 Protective effect of teriparatide against vancomycin-induced cytotoxicity in	渡部 青島 黒革 佐々木 山崎 渡部 栗原 山崎 櫻井 東村 岡 陶山 倉橋 松島 野井 関谷 松永 大高 田中 岡本 神保 西野 大村 中村 下田 三川 斉藤 山田 田島 小林 鶴見 曾川 江川 市丸 加藤（鉦） 中橋 片川 加藤（英） 石川 栗原 高橋 東山 須藤 小田中 殿山 市川 石田 須田 山崎 石橋 木村
---	---

	osteoblasts 神経ペプチド PACAP による角膜上皮の再生機構について 医薬品使用の評価と使用性向上の対応	塩田 定本
3 月	ふれあいグループのめざすもの 5つの活動①【SD】PDC 12月C（結果分析・評価） 1月PD（目標・行動） 今年度の重点目標①【FD】学修成果等の可視化 ディプロマサブリメントの導入に向けて 今年度の重点目標④【SD】入学定員の確保 現在までの募集活動・入試の分析と評価 2025 年度の募集計画方針（高校訪問重点校・OC の開催など） 今年度の重点目標⑥FD・SD 研修の充実(5つの活動)（6S 活動） 今年度の重点目標⑦【FD】3つのポリシーを踏まえた点検・評価 看護学科の3つのポリシーを踏まえた教育活動の点検・評価と改善点 今年度の重点目標⑦【FD】認証評価への取組 リハビリテーション教育評価機構受審：結果と今後の改善点 今年度の重点目標⑨【FD】キャリア支援と地域社会への貢献(1)（就職指導状況の報告） 今年度の重点目標⑨【FD】キャリア支援と地域社会への貢献(2)（公開講座） 【FD】学生相談（ハラスメントのない快適なキャンパスの実現）	大屋敷英志枝 倉田、伊藤 櫻井、神保 山勢 小林、鶴見 黒田、宮内 川本 坂上 渡邊、森尾 田中、田邊 寺本

【教育部会】

月	内容		発表者
4.5 月	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷英志枝
	看護校	今年度に徹底すること 学修目標を達成するための授業計画立案の重要性 その1 部門 PDC 事務課の取り組み 本年度事業計画について 重点計画と目指す教育について 学生募集 2023年度の学生募集の振り返り 国試対策 昨年度の反省及び今年度の計画 模擬授業 学生が不得意な看護過程	秋田 矢崎 矢崎 町田 小泉 高橋
	リハ校	FD・SD 研修①茅ヶ崎リハビリテーション専門学校が目指す教育 理念・教育目標について 5つの活動の実践① 部門 PDC 5つの活動の実践② 業務改善・全体研修会・朝礼・6S 活動 FD 研修② 休退学者の減少 確認テストや補講などの取り組みと成果 FD 研修③ 国家試験対策 結果と今年度の年間計画	加藤 岡崎、高橋、 岩淵 藤田 古谷 岡崎、高橋、 岩淵
	下田校	FD・SD 研修① 看護学科の教育目的、教育方針のありかた 5つの活動の実践① 部門 PDC 5つの活動の実践② 業務改善・全体研修会・朝礼・6S 活動 FD 研修② 休退学者の減少 学生が主体的に学べるための理解しやすい授業の工夫 FD 研修③ 国家試験対策 今年度の試験対策	小野川 竹村、柳 柳 田中 柳
	医技校	FD・SD 研修① 学習目標を達成するための授業計画立案の重要性 5つの活動の実践① 部門 PDC 5つの活動の実践② 業務改善・全体研修会・朝礼・6S 活動 SD 研修① 学生募集活動 2025年度広報戦略 FD 研修② 休退学者の減少 学生主体で学ぶための理解しやすい授業の工夫 FD 研修③ 国家試験対策 昨年度の反省と今年度の計画	武石 遠藤 柴田 三井 川脇 上條
6 月	募集定員充足にむけた事務課 PDC の効果的な運用 2023年度の学生募集の振り返り 理学療法学科の部門 PDC の年間計画 入試業務の効率化 課表の作成方法と注意点について 超過勤務の変遷とコミュニケーションツールについて 専門学校における多職種連携学習会の効果と課題 小児看護学実習の現状 「生活機能学」における異学年交流による効果 学生の雇用可能性とキャリア開発の影響について 国家試験対策について 合理的配慮が必要な学生への支援 臨床判断能力を培うための2年目の取り組み 授業におけるグループ討議の有効性の検討		柴田 町田 岡崎 柳 矢崎 藤田 内記 竹村 増田 松井 上條 村中 監物 杉山
	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷英志枝

7.8 月	看護校	FD・SD 研修①今年度に徹底すること 学修目標を達成するための授業計画立案の重要性 その2 5つの活動の実践(1) 部門 PDC 学生募集を中心とした部門 PDC 5つの活動の実践(2) 業務改善(課業表)・全体研修会・朝礼・6S 活動報告 FD 研修②休退学者の減少 退学に至る学生の分析—今後の教育にむけて— FD 研修③模擬授業「看護研究」—学生へ教授しているケースレポートの書き方について—	秋田 矢崎 相川 増田 城戸
	リハ校	FD・SD 研修①2023年度自己点検評価の結果報告 5つの活動の実践(1) 部門 PDC 学生募集を中心とした部門 PDC 5つの活動の実践(2) 業務改善(課業表)・全体研修会・朝礼・6S 活動報告 FD 研修②休退学者の減少 定期試験と評価について FD 研修③模擬授業 手のかかる学生への学修支援をさぐる	古谷 久保田、岡崎、岩淵 藤田 古谷 神保
	下田校	FD・SD 研修① 教職員に向けた教育 夏休みに備えた対策 5つの活動の実践(1) 部門 PDC 医療・教育研究会発表 1/4 FD 研修②模擬授業 学生が主体的に学べるための理解しやすい授業の工夫 FD 研修③国家試験対策 今年度の試験対策 必修対策の結果	小野川 柳 DVD 高橋 柳
	医ビ校	FD・SD 研修① 教育目標の実践と点検 5つの活動の実践(1) 部門 PDC 5つの活動の実践(2) 業務改善(課業表)・全体研修会・朝礼・6S 活動報告 FD 研修②休退学者の減少 学生が主体的に学ぶための理解しやすい授業の工夫 FD 研修③外国人留学生の効果的な学習指導を探る	本間 三井 龜山 高松 小堀
9.10 月	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷美志枝
	看護校	5つの活動の実践(1) 部門 PDC 看護学科、事務課 5つの活動の実践(2) 課業表、業務改善計画達成のために 人事部より 休退学防止 2024年度(2025年度入学者)における入学前教育 学力向上策 学修目標を達成するための授業計画立案の重要性	増田、板橋、 矢崎 渡辺 人事部 増田 秋田
	リハ校	5つの活動の実践(1) 部門 PDC 5つの活動の実践(2) 課業表、業務改善計画達成のために 人事部より 休退学防止 学力向上策 手のかかる学生への学修支援をさぐる	岡崎、高橋、 岩淵 渡辺 人事部 高橋 山崎
	下田校	5つの活動の実践(1) 部門 PDC 看護学科、事務課 5つの活動の実践(2) 課業表、業務改善計画達成のために 人事部より 休退学防止 学力向上策 医療・教育研究会発表 2/4	竹村、柳 渡辺 人事部 柳 高橋 DVD
	医ビ校	5つの活動の実践(1) 部門 PDC 5つの活動の実践(2) 課業表、業務改善計画達成のために 人事部より 国試対策について 学力向上策 教育目標の実践・点検	武石、藤田 渡辺 人事部 上條 遠藤
11.12 月	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷美志枝
	看護校	5つの活動の実践(1) 部門 PDC 看護学科、事務課 5つの活動の実践(2) 業務改善 人事部より 学生募集 学生募集状況と活動報告 学力向上策 学修目標を達成するための授業計画立案の重要性	増田、矢崎 渡辺 人事部 町田 秋田
	リハ校	5つの活動の実践(1) 部門 PDC 5つの活動の実践(2) 業務改善 人事部より 休退学 学力向上策 手のかかる学生への学修支援をさぐる	岡崎、高橋、 岩淵、藤原 渡辺 人事部 古谷 杉山
	下田校	5つの活動の実践(1) 部門 PDC 5つの活動の実践(2) 業務改善 人事部より 医療・教育研究会発表 3/4 国家試験対策 学力向上策 わかりやすい授業の取り組み	竹村、柳 渡辺 人事部 DVD 柳 齋藤

	医 校	5つの活動の実践（1） 業務改善 人事部より 部門 PDC 学生募集 国家試験対策 検定試験対策 ADDIE モデルの活用 5つの活動の実践（2） 6S 活動 学力向上策 手のかかる学生への学修支援	渡辺 人事部 藤田 矢崎 津田 川村
2 月	第 21 回ふれあいグループ医療教育研究会 看護学生が「疾病治療学Ⅱ」を学ぶ意図を踏まえた成績向上に向けた学習支援 退学防止に向けた支援の実際 看護基礎教育における看護学実習評価の在り方 看護基礎教育における模擬患者（SP）演習の効果 看護師を目指す動機付けを強める「立志の誓い」の意義 学生が行うオープンキャンパスの意義 小児看護学実習の現状と課題 カリキュラム改正に伴う母性看護学実習の現状と課題 業務改善を視野に入れた定時退社に向けた組織的な取り組み 看護専門学校における多職種連携学習会の課題 看護教員による「多職種連携」の必要性を理解する講義の実際 老年看護学実習を経験した後に老年看護学方法論を行うことによる高齢者看護の具現化に向けた試み 新カリキュラム改正後の第 1 回看護師国家試験受験にむけた学習支援 隙間通過行動における平行棒知覚に寄与する感覚情報の検討 精神障害領域の授業の紹介 学生に貢献するための授業 重篤な失語症の臨床 学生の雇用可能性とキャリア開発の影響について 学生の生活習慣マネジメントに関する取り組み ヒアリングフレイル 日本学生支援機構の報告による合理的配慮事例 休退学の現状と今後の休退学防止策について 二極化する学生の学びに対する補講の検討 手のかかる学生の学習支援をさぐる 学生の認知特性に合わせた授業～本田 40 式認知特性テストを用いて～ 前倒し試験が試験成績に与える影響 小テスト、確認テストと定期試験結果の関係性 臨床実習での学生・指導者間ミスマッチの早期検出における問題点 国家試験対策データを使用した面談の有効性の検討 教材の違いによる学習効果 国家試験対策補修 基礎医学 3 科目パッケージ学習の試み 社会福祉専攻科の国家試験対策 理学療法学教育の課題・問題点 休退学防止に関する取り組み 支援を必要とする学生に対する指導法 Manaba による小テストの実施について 手のかかる学生と保護者への対応と信頼関係について アクティブラーニング～深く考える習慣を身に付けるための PBL 型授業 介護事務を教えるにあたって 介護福祉士国家試験対策について 現場経験をもとに伝える介護教育 実習効果向上のための実習指導者と養成校の連携について 留学生に伝わる話し方の一考察 国際時代のマナーについて 生成 AI の社会での利活用の現状		川北 高橋 秋田 城戸 山口 相川 石井 及川 板橋 内記 増田 古川 小泉 米山 高橋 岩淵 松井 神保 遠藤 村中 古谷 合田 山崎 村越 櫻井 佐々木 五十嵐 杉山 岡崎 山根 扇谷 三和 武石 高松 津田 川村 矢崎 本間 上條 美濃口 天野 小堀 川脇 遠藤
1.3 月	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷英志枝
	看護校	5つの活動の実践（1） 部門 PDC 事務課 5つの活動の実践（2） 業務改善 人事部より 国試対策 モチベーションを考えた国試対策 休退学させない授業工夫 学生のレディネスに合わせた授業展開を目指して	矢崎 渡辺 人事部 小泉 増田
	リハ校	5つの活動の実践（1） 部門 PDC 5つの活動の実践（2） 業務改善 人事部より 国試対策 休退学させない授業工夫	岡崎、高橋、 岩淵、藤原 渡辺 人事部 杉山 高橋
	下田校	5つの活動の実践（1） 部門 PDC 5つの活動の実践（2） 業務改善 人事部より 国試対策 休退学させない授業工夫	竹村、柳 渡辺 人事部 柳 三枝

	安全管理対策 「不適切な言葉かけについて」 安全管理対策 「誤嚥事故の原因と予防対策を考える」 専門職としてのレベルアップ 「子どもの特徴に合わせた支援」 専門職としてのレベルアップ 「関わりの難しいこども・保護者への対応」 専門職としてのレベルアップ 「絵画制作を通しての表現について」 チーム医療 「園医との関わり方や連携の実態を知り、課題を見つけ検証する」 部門 PDC 「部門 PDC を年間計画に取り組み、目標達成できるよう検証していく」 6S 活動 「6S 活動の取り組みを検証する」 業務改善 「保育士の役割分担や勤務時間内に業務を終了するための取り組み」 個人 PDC 「日々の業務を個人 PDC に落とし込み達成できているか検証する」	教員 教員 教員 DVD 教員 教員 教員 教員 教員 教員
1.3 月	ふれあいグループが目指すもの 保育研修 個人 PDC 保育研修 業務改善 保育研修 虐待防止を考える 保育研修 事故予測への取り組みに対する改善策 保育研修 乳幼児突然死症候群への対応策 保育研修 保育者のためのメンタルヘルス基礎講座 保育研修 自己評価 ・ 自己点検表について検証する	大屋敷英志枝 教員 教員 } DVD 教員

3 学生の人間性を高める活動

本学園では、理念「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の実践できる学生を教育するために、湘南医療大学では、「総合教育科目」の科目群、看護・医療系専門学校では、「科学的思考の基礎と人間と生活、社会の理解」の科目群において、人間形成に必要な科目を初年度に学修することで、心の成長につながってきました。また、学生の積極性、社会性を涵養する、他を知る・思いやる教育の一環として、学園全体で行うクリスマスキャロリング活動を継続しています。新型コロナウイルス等感染症の影響で、病院内での合唱やレクリエーションの実施は難しくなりましたが、その代わりに、病院の患者様、施設の利用者様に安らぎを覚えていただけるようなメッセージカードや飾りつけの制作する活動を継続しています。

本学園では、ふれあいグループ病院施設と連携し、地域住民や医療系業種に興味のある高校生、保健医療福祉に関わる方々に参加いただけるような公開講座や研修を開催してきました。

2024年度の公開講座、出張講義の実績を以下に示します。

No.	会場名	予約日	参加者数	講演担当者と演題							
				医師	講演(参考)	薬学部	講演名	看護学科	講演名	リハ学科	講演名
1	沼津商工会議所	5/17(金)	38	沼津HP 加藤院長	認知症の薬の話	山崎泰広 准教授	痛み止めはなぜ効くの？薬学の視点から探る鎮痛薬の秘密	山勢善江 教授	命のそばで働くということ	田島明子 教授OT	認知症の人とのコミュニケーション方法
2	藤沢商工会議所	5/22(水)	14	湘南東部 平野副院長	放っておくと怖い脂肪肝	湯本哲郎 教授	少人数教育を強みに薬学共用試験・薬剤師国家試験全員合格にコミットする ～本学独自の学修支援システム(S-プログラム)について～	ラウ優紀子 教授	人生100年時代ー健やかな老年期を生きるー	中尾陽光 准教授PT	身体は柔らかい方がいいのか？～ケガ予防に対する柔軟性の考え方～
3	茅ヶ崎市民文化会館	5/24(金)	15	湘南東部 中山医師	がんにならない生活、なってしまった時のコッ、ロボットで治す大腸がん	湯本哲郎 教授	少人数教育を強みに薬学共用試験・薬剤師国家試験全員合格にコミットする ～本学独自の学修支援システム(S-プログラム)について～	牛田貴子 教授	家族の発達と健康との関係ー「10代の子どもを持つ家族」を中心にー	小林和彦 教授	人生100年時代を健康に過ごすために～高齢社会に貢献する理学療法～
4	小田原市民交流センター UMECO	5/29(水)	11	大和成和 倉田院長	弁膜症の治し方について	佐藤淳也 教授	街の健康サポーター～薬剤師が教えるサプリメントの知って得なお話～	清水奈緒美 准教授	がんになっても働き続けるために	鶴見隆正 学科長	リハビリテーション醍醐味
5	ユニコム相模原	5/31(金)	11	大和成和 土井尻医師	足は第二の心臓	竹内尚子 准教授	薬局薬剤師のお仕事紹介 ～薬局から出て、こんなこともしています～	小林紀明 教授	自分らしく生きる～いきいきアンチエイジング～	三川年正 准教授OT	作業療法士ははこころと身体に関わるリハビリテーションの専門職
6	大井町きゅりあん	6/5(水)	6	町田HP 鈴木裕院長	パーキンソン病について	加藤裕久 教授	知って得する薬の豆知識	田中秀子 教授	高齢者の皮膚のケア	田島明子 教授OT	認知症の人とのコミュニケーション方法
7	川崎市教育文化会館	6/14(金)	15	鶴見HP 石井副院長	「知って安心 認知症の基礎知識」	松田正彦 教授	薬学の知識で理解する薬物依存症～どうしてヒトは薬物に魅了されてしまうのか？～	石川真里子 教授	乳幼児の健康を守る看護	柴田昌和 教授PT	人体の不思議 骨は語る

No.	会場名	予約日	参加者数	講演担当者と演題							
				医師	講演(参考)	薬学部	講演名	看護学科	講演名	リハ学科	講演名
8	杜のホールはしもと	6/28(金)	10	大和成和田畑医師	「MISCって何ですか？」 体に負担の少ない手術	加賀谷肇 教授	これからの薬剤師を育てる新たな薬学教育へのチャレンジー薬剤師のマスプロダクトからハンドメイド教育へー	山勢善江 教授	命のそばで働くということ	大森圭 教授PT	転倒予防の運動
9	ラスカ平塚	7/10(水)	15	中央佐藤院長	身近にある病気～心臓弁膜症～	山崎泰広 准教授	痛み止めはなぜ効くの？ 薬学の視点から探る鎮痛薬の秘密	伊藤ふみ子 准教授	朝食と健康の関係	田邊浩文 教授OT	再生医療が普及する近未来と作業療法の需要拡大
10	ヴェルクよこすか 市立勤労福祉会館	7/12(金)	11	湘南東部茂垣医師	乳がん	加藤英明 准教授	「酒は百薬の長」って本当ですか？ ～お酒と健康について～	渡部節子 教授	看護師が実践する病院内における感染制御	櫻井好美 准教授PT	産後の体のトラブルと理学療法
11	横浜西公会堂	7/17(水)	10	横浜HP青田医師	末梢神経の締め付けによる腰とおしりの痛みについて	片川和明 准教授	生薬とは～医薬品と食品の観点から～	松月みどり 教授	知っておこう！急変時の対応の意味	坂上昇 専攻長PT	小児理学療法の魅力ー障害を持つ子どもを支援する理学療法士を目指してー
12	ラポール横浜	7/24(水)	10	鎌倉HP小山医師	血栓症の病態と治療	佐藤淳也 教授	街の健康サポーター～薬剤師が教えるサプリメントの知っ得なお話～	東村志保 准教授	脱水症ってなに？	増田雄亮 准教授OT	Society5.0時代の脳卒中リハビリテーションと作業療法のエビデンス
13	福祉保健研修交流センターウイリング横浜	7/26(金)	11	湘南東部櫻井副院長	胃がんの診断・治療について	国分秀也 教授	個別化医療をささえる薬剤師の役割	渡邊真理 教授	がんになった時のサポート	増田雄亮 准教授OT	Society5.0時代の脳卒中リハビリテーションと作業療法のエビデンス
14	町田市民ホール	7/31(水)	5	さがみ野山田院長	骨粗鬆症治療～最新のトピックス～	定本清美 教授	薬の進歩と関節リウマチ薬物治療	小林紀明 教授	自分らしく生きる～いきいきアンチエイジング～	田邊浩文 教授OT	再生医療が普及する近未来と作業療法の需要拡大
15	海老名市民文化会館	8/9(金)	11	綾瀬厚生相澤医師	骨粗鬆症の診断と治療	竹内尚子 准教授	薬局薬剤師のお仕事紹介 ～薬局から出て、こんなこともしています～	佐々木千佳 准教授	認知症の方の感じている世界を知る	三川年正 准教授OT	作業療法士はこころと身体に関わるリハビリテーションの専門職
16	戸塚区総合庁舎3階多目的スペース	8/16(金)	台風接近中止	大学寺本学部長	100歳まで脳を元気に	片川和明 准教授	生薬とは～医薬品と食品の観点から～	山崎圭子 教授	もしかしたら不妊症？受診前の基礎知識	鈴木雄介 教授OT	高次脳機能障害と作業療法
17	TIMES SHARING蒲田第二美須ビル	8/21(水)	10	湘南東部大川院長	肝胆臓がん	鳥越一宏 准教授	痛みを取り除く！緩和ケア ～医療用麻薬を中心に～	片山典子 教授	ストレスコーピングでセルフケア	斉藤琴子 准教授PT	運動による認知症予防～理学療法士がどこまで貢献できるか？～
18	川崎市総合福祉センター(エポックなかはら)	9/4(水)	11	鶴見HP土屋医師	習慣から脳梗塞を予防しよう	石橋芳雄 教授	ワクチンの現在と未来	三ツ井圭子 准教授	おなかの健康	田邊浩文 教授OT	再生医療が普及する近未来と作業療法の需要拡大
19	関内ホール	9/18(水)	12	横浜HP鯉島院長	潰瘍性大腸炎とクローン病	国分秀也 教授	個別化医療をささえる薬剤師の役割	山勢善江 教授	命のそばで働くということ	増田雄亮 准教授OT	Society5.0時代の脳卒中リハビリテーションと作業療法のエビデンス
20	麻生文化センター	9/24(火)	11	鶴見HP田草川院長	心不全とは？心不全を知って予防しよう	佐野和美 教授	薬学への誘い～くすりの生体内運命～	小林紀明 教授	自分らしく生きる～いきいきアンチエイジング～	森尾裕志 教授PT	筋力と日常生活活動の関連

237

(2) 地域連携活動

No	会場名	実施日	当日参加者数	講師名	対象
1	ヨコハマ大学フェア	9月28日(土)	25	薬学部・佐野教授	公開講座
2	ヴィルヌーブ保土ヶ谷自治会	10月27日(日)	24	薬学部・竹内准教授	薬学講座
3	上矢部地区自治会	11月16日(土)	42	薬学部・佐藤教授 作業療法学専攻・田島教授	薬学講座 作業療法学講座
4	社会福祉法人 朝日の里	1月21日(火)	15	薬学部・寺島准教授	感染症予防の基本
5	社会福祉法人 朝日の里	2月26日(火)	11	看護学科・三ツ井准教授	お腹の健康

(3) 出張講義

No.	日程	学部・学科	場所	都道府県	訪問者	参加者数
1	2024/04/19	薬学	湘南工科大学附属高等学校 2年生	神奈川県	薬／国分秀也先生	18
2	2024/05/10	薬学	橘高等学校 1年生	神奈川県	薬／湯本哲郎先生	48
3	2024/05/13	薬学	市ヶ尾高等学校 2年生	神奈川県	薬／石田洋一先生	20
4	2024/05/13	作業	市ヶ尾高等学校 2年生	神奈川県	作業／田邊浩文先生	5
5	2024/05/14	看護	横浜学園高等学校 2.3年生	神奈川県	看護／坂口達哉先生	10
6	2024/05/20	看護	横須賀総合高等学校 1年生	神奈川県	看護／渡邊眞理先生	26
7	2024/05/24	理学	津久井浜高等学校 3年生	神奈川県	理学／土田将之先生	10
8	2024/05/27	理学, 作業	横須賀総合高等学校 1年生	神奈川県	作業／田邊浩文先生	14
9	2024/06/08	薬学	秋田県薬剤師会 高校1-3年生, 保護者, 教職員	秋田県	薬／加賀谷肇先生	3
10	2024/06/11	理学, 作業	荏田高等学校 1年生	神奈川県	作業／西野由希子先生	44
11	2024/06/12	看護, 理学, 作業	みなと総合高等学校 2.3年生	神奈川県	看護／坂口達哉先生	12
12	2024/06/13	看護, 理学, 作業	旭高等学校 2年生	神奈川県	理学／大村優慈先生	12
13	2024/06/13	薬学	橘高等学校 1年生	神奈川県	薬／尾関あゆみ先生	12
14	2024/06/13	薬学	旭高等学校 2年生	神奈川県	薬／細谷龍一郎先生	12
15	2024/06/14	薬学	横浜南陵高等学校 2年生	神奈川県	薬／市川智恵先生	6
16	2024/06/14	薬学	逗子葉山高等学校 2年生	神奈川県	薬／栗原正明先生	7
17	2024/06/14	看護	秦野高等学校 2年生	神奈川県	看護／清水奈緒美先生	19
18	2024/06/18	薬学	舞岡高等学校 2年生	神奈川県	薬／中楯奨先生	17
19	2024/06/20	理学	相模原弥栄高等学校 3年生	神奈川県	薬／中楯奨先生	6
20	2024/06/20	薬学	市立橘高等学校 2.3年生	神奈川県	薬／曾川甲子郎先生	19
21	2024/07/01	薬学	横須賀総合高等学校 2年生	神奈川県	薬／鳥越一宏先生	4
22	2024/07/06	薬学	駒沢学園女子高等学校 1年生	東京都	薬／東山公男先生	45
23	2024/07/11	薬学	横浜市立東高等学校 1.2年生	神奈川県	薬／田中怜先生	38
24	2024/07/11	看護	桐蔭学園高等学校 2年生	神奈川県	看護／山勢善江先生	5
25	2024/07/11	薬学	桐蔭学園高等学校 2年生	神奈川県	薬／佐藤淳也先生	7
26	2024/07/12	薬学	桐蔭学園高等学校 2年生	神奈川県	薬／片川和明先生	8
27	2024/07/12	作業	桐蔭学園高等学校 2年生	神奈川県	作業／鈴木雄介先生	4
28	2024/07/16	薬学	金井高等学校 2年生	神奈川県	薬／山崎泰広先生	21
29	2024/07/17	薬学	東京都立桜町高等学校 2年生	東京都	薬／東山公男先生	16
30	2024/07/17	理学, 作業	桜町高等学校 2年生	東京都	作業／宮内貴之先生	33
31	2024/07/17	理学, 作業	橘学苑高等学校 1年生	神奈川県	作業／西野由希子先生	4
32	2024/07/18	看護, 理学, 作業	湘南台高等学校 1年生	神奈川県	看護／山勢善江先生	48
33	2024/8/1	薬学	神奈川県鎌倉湘南地区公立高等学校 1.2年生	神奈川県	薬／佐藤淳也先生 薬／田中怜先生	8
34	2024/08/07	理学	霞ヶ浦高校 1.2年生	茨城県	理学／中村壽志先生	15
35	2024/08/16	看護	桐蔭学園高等学校 2年生	神奈川県	看護／小林紀明先生	3
36	2024/08/26	看護	高浜高等学校 1年生	神奈川県	看護／坂口達哉先生	9
37	2024/08/29	看護	霞ヶ浦高校 1.2年生	茨城県	看護／山勢善江先生	18
38	2024/09/02	薬学	霞ヶ浦高校 1.2年生	茨城県	薬／石川吉伸先生	14
39	2024/09/04	薬学	正則学園高等学校 1年性	東京都	薬／寺島朝子先生	5
40	2024/09/05	薬学	横浜商業高等学校 2年生	神奈川県	薬／小野塚真理先生	2
41	2024/09/18	作業	雪谷高等学校 1年生	東京都	作業／西野由希子先生	3
42	2024/9/24	薬学	桐蔭学園高等学校 2年生	神奈川県	薬／佐藤淳也先生	5
43	2024/9/24	薬学	桐蔭学園高等学校 2年生	神奈川県	薬／定本清美先生	5

(3) 出張講義

No.	日程	学部・学科	場所	都道府県	訪問者	参加者数
44	2024/10/04	薬学	横浜南陵高等学校 1年生	神奈川県	薬／江川大地先生	2
45	2024/10/11	薬学	津久井浜高等学校 1年生	神奈川県	薬／田中怜先生	19
46	2024/10/17	看護	戸塚高等学校 1.2年生	神奈川県	看護／清水奈緒美先生	22
47	2024/10/17	薬学	戸塚高等学校 1.2年生	神奈川県	薬／船田正彦先生	22
48	2024/10/18	薬学	日本大学第三高等学校 1年生	東京都	薬／浦裕之先生	30
49	2024/10/24	理学, 作業	元石川高等学校 1年生	神奈川県	作業／増田雄亮先生	13
50	2024/10/24	薬学	神奈川総合産業高等学校 2年生	神奈川県	薬／中楯奨先生	17
51	2024/10/25	理学, 作業	横浜清陵高等学校 2年生	神奈川県	理学／大村優慈先生	13
52	2024/10/31	薬学	港北高等学校 1年生	神奈川県	薬／鳥越一宏先生	23
53	2024/11/01	看護	横浜南陵高等学校 2年生	神奈川県	看護／渡部節子先生	5
54	2024/11/07	看護, 理学, 作業	旭高等学校 2年生	神奈川県	作業／三川正年先生	21
55	2024/11/08	看護	光明学園相模原高等学校 1年生	神奈川県	看護／牛田貴子先生	17
56	2024/11/11	薬学	横須賀総合高等学校 2年生	神奈川県	薬／佐藤淳也先生	10
57	2024/11/11	薬学	麻生高等学校 1年生	神奈川県	薬／竹内尚子先生	6
58	2024/11/14	薬学	向上高等学校 1年生	神奈川県	薬／鈴木勉先生、 薬／加藤裕久先生、 薬／加賀谷肇先生、 薬／佐藤淳也先生、 薬／田中怜先生、 薬／曾川甲子郎先生	4
59	2024/11/14	薬学	湘南学園高等学校 1年生	神奈川県	薬／鈴木勉先生、 薬／加藤裕久先生、 薬／加賀谷肇先生、 薬／佐藤淳也先生、 薬／田中怜先生、 薬／曾川甲子郎先生	28
60	2024/11/14	薬学	住吉高等学校 2年生	神奈川県	薬／加藤紘一先生	15
61	2024/11/14	看護	橘学苑高等学校 1年生	神奈川県	看護／田中秀子先生	22
62	2024/11/15	看護	静岡県立熱海高等学校 2年生	神奈川県	看護／山勢善江先生	25
63	2024/11/16	看護	鵜沼高等学校 1年生	神奈川県	看護／渡邊真理先生	35
64	2024/11/18	薬学	大和西高等学校 2年生	神奈川県	薬学／加藤英明先生	9
65	2024/11/22	看護、リハ、薬学	追浜高等学校 1.2年生	神奈川県	看護／山勢先生、 作業／西野由紀子先生、 薬／国分秀也先生	42
66	2024/11/26	看護	大師高等学校 1年生	神奈川県	看護／東村志保先生	13
67	2024/11/28	看護	横浜桜陽高等学校 2年生	神奈川県	看護／牛田貴子先生	6
68	2024/12/19	薬学	清泉女学院高等学校 2年生	神奈川県	薬／須藤遥先生	14
69	2025/02/06	看護	相模原弥栄高等学校 2年生	神奈川県	看護／小林紀明先生	5
70	2025/03/12	看護	三浦学苑高等学校 1.2年生	神奈川県	看護／内藤亜由美先生	47
71	2025/03/14	理学, 作業	向上高等学校 2年生	神奈川県	作業／西野由紀子先生	16

2025 年 4 月 1 日現在の入学定員充足率は、湘南医療大学保健医療学部は 100%以上、薬学部は 37.6%、大学院は、修士課程 100%、博士後期課程は 100%となった。また、茅ヶ崎看護専門学校は 57.5%、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校は 74.2%、湘南医療大学附属下田看護専門学校は 17.5%、医療ビジネス観光福祉専門学校は 99%であった。医療系の学生募集も苦戦しており、留学生の入学のない専門学校は、過去に無い入学定員充足率の低さとなった。

			入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員 充足率
湘南医療 大学	保健医療 学部	看護学科	140	342	327	297	160	114.3%
		リハビリテーション学科	80	217	213	123	89	111.3%
		理学療法専攻	40	177	173	61	49	122.5%
		作業療法専攻	40	40	40	62※	40	100.0%
	薬学部	医療薬学科	130	165	156	133	47	37.7%
		編入	—	5	5	5	2	—
	大学院 保健医療学 研究科	修士課程	12	13	13	12	12	100.0%
		博士課程	3	3	3	3	3	100.0%
	専攻科	公衆衛生看護学専攻	20	59	57	20	20	100.0%
		助産学専攻	15	54	53	15	15	100.0%
	別科	介護福祉別科	40	35	33	31	28	70.0%
茅ヶ崎看護専門学校	看護学科		80	55	50	49	46	57.5%
茅ヶ崎リハビリテーション専門 学校	理学療法学科		70	53	53	51	49	70.0%
	言語聴覚学科		35	34	34	32	29	82.9%
湘南医療大学附属下田看護専門学校	看護学科		30	10	10	10	7	23.3%
医療ビジネス観光福 祉専門学校	医療ビジネス学科		40	57	54	41	41	102.5%
	介護福祉学科		60	100	99	61	58	96.7%

※ 第2志望学科として出願があった者に対する合格をカウントしているため、受験者数より合格者数が多くなっている。

4 学生の将来につながる指導力の発揮

教員は、学問的指導の他、人間的指導を促すために、面談の時間を通じて、卒業・就職に到達できるよう生活に関する指導、アドバイスを行いました。

本学園は、ふれあいグループとの連携により、同グループによる有為な人材の育成と教育研究の振興のための「ふれあいグループ奨学金制度」の活用をしています。2024年度は、湘南医療大学 99人、茅ヶ崎看護専門学校 117人、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 27人、湘南医療大学附属下田看護専門学校 25人、医療ビジネス観光福祉専門学校 3人 計 271人が奨学金を受給し、経済的な不安なく学業を継続しました。

また、2024年度湘南医療大学卒業生の主な就職先は下表の通りでした。

看護学科 卒業生 74 名		リハビリテーション学科理学療法専攻 卒業生 44 名		リハビリテーション学科作業療法専攻 卒業生 31 名	
ふれあいグループ	25	ふれあいグループ	17	ふれあいグループ	10
神奈川県内病院・クリニック・行政（保健師） （ふれあいグループ含む）	66	神奈川県内病院・クリニック （ふれあいグループ含む）	37	神奈川県内病院・クリニック （ふれあいグループ含む）	20
神奈川県外病院 （ふれあいグループ含む）	4	神奈川県外病院・クリニック （ふれあいグループ含む）	5	神奈川県外病院・クリニック （ふれあいグループ含む）	6
進学	2	進学	1		

2024年度の各校の国家試験合格率（新卒）は、下表の通りの結果である。

新卒のみの全国平均からは、やや下回ったものの、ほとんどの学校が、高い国家試験合格率で、学生を有資格者として送り出すことができた。

看護師国家試験合格率が6割台の湘南医療大学附属下田看護専門学校に関しては、卒業生全員が准看護師の資格は有して卒業している。2025年度为国家試験に向けて、各校とも全員合格させることが出来るように学修指導を充実させる方針である。

各校国家試験合格状況【令和6年度】

学校名		学科名	年度	新卒				資格名	回
				受験者数	合格者数	合格率	全国平均 (新卒)		
湘南医療大学	保健医療学部	看護学科(看護師)	令和6年度	72	69	95.8%	95.9%	看護師	114
		看護学科(保健師)		8	8	100.0%	96.4%	保健師	111
		理学療法学専攻		43	42	97.7%	95.2%	理学療法士	60
		作業療法学専攻		28	25	89.3%	92.5%	作業療法士	60
	保健医療学研究科	助産学領域	令和6年度				99.3%	助産師	108
	専攻科	公衆衛生看護学専攻	令和6年度	20	20	100.0%	96.4%	保健師	111
		助産学専攻	令和6年度	14	14	100.0%	99.3%	助産師	108
茅ヶ崎看護専門学校		看護学科	令和6年度	63	59	93.7%	95.9%	看護師	114
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校		理学療法学科	令和6年度	50	49	98.0%	95.2%	理学療法士	60
		作業療法学科	令和6年度	13	13	100.0%	92.5%	作業療法士	60
		言語聴覚学科	令和6年度	23	21	91.3%	72.9%	言語聴覚士	27
		社会福祉専攻科 (通信課程)	令和6年度	43	36	83.7%	80.1%	社会福祉士	38
湘南医療大学附属 下田看護専門学校		看護学科	令和6年度	33	22	66.7%	95.9%	看護師	114
医療ビジネス 観光福祉専門学校		介護福祉学科	令和6年度	18	13	72.2%	66.7%	介護福祉士	37
		介護福祉士実務者研修(通信課程) 実務者研修は養成校の概念と異なるため、合格率には介護全体の合	令和6年度	10	10	100.0%	66.7%		37

なお、2024年度の各校の退学者数の状況は、以下の通りである。

大幅に改善がみられた設置校もあるが、退学率が10%を超える学校もあり、2023年度も各校目標未達成となった。成績不振者への学習支援、進路変更にみられる入学前のマッチングエラーを減少させるなど、担任やチューターが責任を持ち次年度は休退学者が0人にできるような指導体制を検討する。

学校名	退学者数(除籍含)	2024年度	2023年度	対比
湘南医療大学		42	21	21
茅ヶ崎看護専門学校		15	11	4
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校		29	14	15
湘南医療大学附属下田看護専門学校		3	4	-1
医療ビジネス観光福祉専門学校		4	14	-10

Ⅲ 学校法人湘南ふれあい学園中長期計画に関する報告

○組織、運営に関する目標

1) 学部等の新設

・文部科学省に学則変更届を提出し(2024年12月)、「医療管理経営者」を養成するために、大学院保健医療学研究科保健医療学専攻(修士課程)に新しく「医療マネジメント・エグゼクティブ領域」を設置した。(2025年4月)

・茅ヶ崎に新たに健康科学部(仮称)設置(2026年4月)に向けて準備委員会を設置したが、薬学部の収容定員5割以上を待たず、保健医療学部、薬学部の入学定員を行い、保健医療学部看護学科及びリハビリテーション学科理学療法学専攻の入学定員増に伴い、茅ヶ崎キャンパスを新たに設置する案が理事会において承認された(2025年3月)。2025年6月に文部科学省に学則の変更認可申請を行う予定である。

・別科、介護福祉士学校の指定申請を行い(2024年9月)、2025年3月に認可を受け、介護福祉別

科（藤沢キャンパス）が設置された。1期生28名を受け入れた。

- ・湘南東部総合病院で指定を受けている特定行為研修を継続することになった。

2) 業務の効率化

- ・業務処理方法の効率化の推進を継続している。

3) 補助金の獲得

- ・経常経費補助金は、獲得増となったものの、私立大学等改革総合支援事業の採択には至らず、次年度に向けて改善活動を実施する。

○教育、研究の活性化に関する目標

1) 教育内容の改善

- ・国家資格合格率100%を達成するための学修支援、薬学共用試験 CBT（客観試験）、OSCE（客観的臨床能力試験）の準備教育の強化を図った。

- ・医系科目の再編（非常勤講師中心から専任教員への転換）は、達成度50%となり、着実に進めている。

2) 教育方法の改善

- ・DP・CP・APに基づく学修者を養成のために、その指標となるアセスメントポリシーの制定に向けて準備をすすめている。

- ・ポートフォリオ（教育業績記録）は導入したものの、ディプロマサプリメント（成績証明書付加情報）の導入（課程履修の状況、卒論、GPA推移、獲得スキル、資格取得、表彰など）は、次年度の達成課題となった。

3) 研究の活性化

- ・外部研究資金の獲得は、申請者教員の半数、採択率は約20%となり、目標達成に至っていない。

- ・研究不正防止教育として、研究倫理eラーニングシステム受講の100%を目標として掲げたものの、90%台であった。

- ・研究活動に関しては、大学・グループ病院間の共同研究、大学ブランディング研究、並びにグループ病院での治験の開始準備(薬学部)を掲げたものの、大きな進歩を得ることができなかった。

○新規施設等の整備に関する目標

1) 湘南医療大学別科藤沢キャンパスの整備を行った。ふれあいグループの1施設であるTHPメディカルクリニック内に介護福祉士学校を整備し、1、4～7階の整備を実施した。

2) 薬学部附属薬用植物園の温室が完成した。

○教育・研究用備品等の更新・整備に関する目標

1) 教育・研究用機器の重点整備

- ・介護福祉別科設置に伴う介護福祉士学校指定規則に定められた教育用備品整備を行った。

○点検評価及び情報公開に関する目標

1) 授業評価に関する目標

- ・学生授業評価アンケート項目の見直し

2) 研究業績の評価に関する目標

- ・本学HPにおいて、過去年度を含めて学内外への研究者の研究活動を積極的に公表している。

3) 外部評価及び自己点検評価に関する目標

- ・令和6年度リハビリテーション教育認証評価を受審し、理学療法学専攻及び作業療法学専攻ともに適合判定された。令和7年の薬学教育認証評価の受審(中間)に向けて必要な情報の収集と管理、体制の整備と準備を進めた。

- ・また、私立大学改革総合支援事業におけるIR関連項目の達成に向けて、準備を開始した。

4) 情報公開に関する目標

- ・HPにおいて、教育、研究企画、イベント、成果等の外部公開の促進を図った。

○地域連携及び社会貢献に関する目標

1) 連携の強化

- ・ふれあいグループ病院施設との学生・教員・実習指導者との連携強化するために、実習指導者調

整会議を開催するなど、実習の意義、内容、指導法について共通認識を図っている。

2) 地域貢献

- ・地域が開催する医療、看護、リハビリテーション、薬学等に関する地域支援ネットワークの構築を戸塚区や関連団体と図っている。また、公開講座において、計画を推進した。
- ・毎年実施している病院施設へのクリスマスメッセージ送付が定着した。

○入試、広報、学生募集の改善に関する目標

1) 入試制度の改善

- ・薬学部の入試制度（特待生度）を導入し、入学生の確保に努めたが、定員充足率を満たすことはできなかった。同様に、年内入試に注力して、本学に入学したい学生を確保する入試体系など、学生確保の戦略をさらに進める。

2) 学生募集・広報体制の改善

- ・ホームページ、SNS の活用（受験生、保護者、高校教員のニーズへの対応）特に YouTube から配信を行い、募集広報地域の範囲拡大を進めているが、薬学部の募集は苦戦した。
- ・高大連携事業の強化を謳ったが、連携校の増加にはつながらなかった。本学の認知度を向上させるために、神奈川県内での公開講座の実施などを行った。

○学生生活、修学及び就職等の支援強化に関する目標

1) 学生生活、修学支援

- ・前年度に比較して、各校とも休退学者減少への取り組みにより、減少している。
- ・チューター制度の充実により、国家試験の成績、就職実績の向上が堅調である。
- ・カウンセラーは非常勤であるものの、各校に配置している。しかし、利用者は少ないため、今後は啓発活動を行い、様々な学生の問題や課題を早期に発見し、解決できるように支援する。
- ・学生の保護者との情報交換、大学理解のための保護者会を開催し、大学教育、本学の魅力、学生指導体制、国家試験指導体制など、理解を図っている。

2) 就職・キャリア支援

- ・グループ就職説明会を実施して、先輩の体験・アドバイスを受ける機会を設けている。
- ・連携同窓会の諸活動が停滞しているため、今後は各校の代表者との連携を深めて湘南ふれあい学園の組織を強化する。

IV 2024年度各学校の事業計画の概要に関する報告

1) 湘南医療大学

【保健医療学部】

① 経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択

(1) IR 機能の強化

看護学科

IR 委員会が未発足のため、まずは看護学科のアセスメントポリシーに関する FD の中で、これからの IR の意義、方向性に研修を実施した。今後、入学後の成績と入試区分、入学試験成績との関連性について IR を基にした分析は次年度の課題となったが、看護学科の担当教員を選出した。

リハビリテーション学科

IR 委員会が未発足のため、リハ学科のアセスメントポリシーに関する FD の中でこれからの IR の意義、方向性に研修を実施した、今後、入学後の成績と入試区分、入学試験成績との関連性について IR を基にした分析は次年度の課題となった。

(2) 学修成果等の可視化

看護学科

各学生が修得した知識や能力等を明らかにするディプロマサプリメントとして、PROG テストを取り入れた。

リハビリテーション学科

各学生が修得した知識や能力等を明らかにするディプロマサプリメントとして、PROG テストを取り入れた。

(3) アドミッション・オフィサーの配置

看護学科

学科の入試 WG 委員と大学入試委員が、アドミッション・オフィサーと連携し、重点校検討資料を作成するために、現役生の成績上位グループや休退学者の、入試形態・入試成績・高校調査書・面接結果、および入学後の成績・単位取得状況の推移等を分析した。

リハビリテーション学科

入試広報課の・アドミッション・オフィサーが具現化し、入試広報や OC、さらに入試区分や科目内容等について話し合うことができた。

(4) 高等学校教育と大学教育の連携強化

看護学科

□直近 4 年間で受験者総数の多い上位高校に訪問した。

□高校の要請に応じて出張模擬授業並びに大学案内を行った。また、看護学科希望者を学内に招き学内演習の見学・模擬授業・学内施設見学を行った。

リハビリテーション学科

高大連携として追浜高校での 2 学部 3 学科として講義等を実施し、医療系大学教育の学びについて高校生と共有することができた。

(5) 教育リソースの活用

看護学科

2024 年 7 月に教育リソース活用状況を調査した。看護学科の 27 名の教員から、教育リソースの名称、活用科目、根拠資料について報告があった。結果を FD 研修で紹介した。

リハビリテーション学科

三次元解析装置の実験では都立大学の理学療法学科教員と共同研究として、また心肺負荷試験装置をグループ病院の臨床研究活動、修士課程の学生にも活用している。

② 授業評価等の結果を活かした授業改善、教育活動改善への活用

看護学科

□各科目責任者は、各回のリフレクションペーパーの確認を行い、学生の理解状況、教材の選択、学習環境等について課題を確認した。また授業終了時に「学生による授業評価」アンケート結果を確信し、次回の授業改善に取り組んだ。さらに授業評価アンケートの平均値が、4.40 未満の科目担当者においては、授業改善計画を行うように努めた。

□教育力を高める実践的 FD としては、教育の質改善、教育評価の考え方、客観テストの設計表の作成などをテーマに開催し、教員全体の教育スキルを高めた。

リハビリテーション学科

授業評価アンケートの実施率は、理学療法学専攻が 582/849 で 68.6%、作業療法学専攻が 279/813 で 34.3%と実施率に課題があり、次年度は事前に実施喚起を促す。

個別科目ごとの総合授業評点が未配布のため、個別教員、科目ごとのコメントができない。

③ 学修支援・国家試験対策支援

看護学科

□1 年次生は、基礎学力のアップと学修習慣を身に付ける目的で合格発表後から新学期開始までの期間に入学前教育（数学・理科・国語）を実施した。

□1・2 年次生は業者の低学年模試を 1 回と国家試験特別講義を 1 回ずつ実施し、3 年生は国家試験に準じた業者模試を 2 回実施した。また、模試の振り返りを行い不正解の問題に着目して復習を行ったり、manaba を活用したドリル学習を実施した。

□4 年次生は、12 回の模擬試験・学力テストを実施し、全体に正解率が低い科目や内容を分

析し、その結果をもとに学内教員による講義（16 コマ）、国家試験対策専門の講師による講義（8 コマ）を実施した。模試の結果から学修低迷者へは強化対策としてチューターや担当教員による個別指導とグループ学修など学生の状況に合わせて丁寧に指導した。その結果、看護師国家試験は新卒 72 名受験し 69 名合格（合格率 95.8%）、既卒者 3 名を含む全体の合格率は 96.0%で、全国の 90.1%を上回った。保健師国家試験は 8 名受験し全員合格し合格率 100%だった。

リハビリテーション学科

理学療法学専攻は、43 名中 42 名合格で 97.7%の合格率。全国平均より高かったが改善が必要であると感じた。作業療法学専攻は 28 名中 25 名合格で 89.3%の合格率で全国平均より低値でより一層の改善をしなければならないと感じた。

作業療法学専攻では、模擬試験や学修低迷者 12 名に対して 2025 年 1 月 14 日から集中監督システム体制をとり 12 名全員が国家試験指導に従い、このうち 1 名が不合格であったが、次年度は 12 月から集中監督システムで国試勉強を支援する。

④ 入学定員の確保

看護学科

2 キャンパス体制の利点として、「横浜山手キャンパス（1,2 年生）」では、看護基礎教育を主眼とした教育、「東戸塚キャンパス（3,4 年生）」では、本格的な実習による看護実践能力の育成や他学部他学科の学生が在籍する学習環境を活かし他学部学科連携教育を主眼とした教育を展開している点や、特色のある教育課程について、オープンキャンパスや高校訪問、出張講義、研究室訪問、大学見学会などを通じて積極的に広報活動を行った。また、進学サイト等を活用し、資料請求者は前年比 63%も上回り 20,919 件と増加したが、看護学科のオープンキャンパス参加者の伸び率は 20%に止まり 648 名、出願者においては前年度を 5%下回る 314 名とオープンキャンパス参加者の出願への歩留率が低下してしまった。しかし、最終的に一般選抜の歩留率が高く 140 名定員を上回り 160 名の入学者を確保した。さらに、専攻科においては、日頃の専攻科間での交流によってチーム医療に必要なお互いの職種を理解する機会が得られることをオープンキャンパスで PR した。

リハビリテーション学科

看護学科同様、オープンキャンパスや高校訪問、出張講義、研究室訪問、大学見学会などを通じて積極的に広報活動を行った。資料請求者の前年比 63%増 20,919 件に対し、理学療法学専攻のオープンキャンパス参加者の伸び率は 66%と堅調で 446 名の参加者を得た。出願者においても前年を 31%上回る 163 名の出願を獲得し、49 名の入学者を確保した。対して、作業療法学専攻ではオープンキャンパスから出願への歩留が低迷し前年比 26%減 38 名の出願と危機的な状況であったが、理学療法学専攻からの第二希望の志願者でかろうじて定員 40 名を確保した。2025 年度に向けては、入試制度の見直しをはじめ高大連携の在り方やオープンキャンパスの充実を図るなど、本学独自の学生募集の在り方を創造し、それを伝統として築いていくことが必要である。

⑤ 休退学者減少への取り組み

看護学科

中途退学、休学・留年生減少のため各学年チューター長を軸に全チューターが一体となり、定期的な面接を行い学生個々の学習理解度・学習習慣などに合致したきめ細かな学習指導と合わせ、教授する教員の講義力について FD 活動と合わせ取り組んだ。

特に 1, 2 年生が在籍する山手キャンパスにおいては、よりきめ細やかな対応が必要であったため、学生個別の課題や環境について、3 方向から対応した。①チューター教員は定期的な面接を通して課題の発見と対策をとった。②教務事務は教育課程修得状況、欠席回数などのデータを随時発出した。③臨床心理士によるカウンセリングを 1 回/週実施した。

リハビリテーション学科

休学者は理学療法学専攻が 1 名、作業療法学専攻が 1 名で、退学者は理学療法学専攻が 5 名、作業療法学専攻が 8 名であった。

学修低迷者に対する個別指導は各チューターが 100%実施していたが、退学者が発生したことに対する対応が求められる。

⑥ FD・SD 研修の充実

看護学科

□教育力向上の取り組み①6月13日：本学の理念に基づいた「新カリキュラムとアセスメントポリシー」研修：46名参加②6月18日新カリキュラム実習構成について46名参加③8月19日「看護大学における特別な配慮を必要とする学生への教育支援の実際」参加者54名④8月30日「大学教員の教育力向上のための基準枠組みFDマップ運用に関する検討会」46名参加⑤9月5日ICTを活用した授業運営について28名参加⑥9月18日「新カリキュラム3年次後期からの実習、学内実習の運用について」46名参加⑦11月1日「新カリキュラム3年次後期の臨地実習 急性期看護学実習について」46名参加⑧12月18日「新カリキュラムナーシングスキルとヘルスアセスメントの構造について」46名参加⑨1月22日「新カリキュラムナーシングスキルとヘルスアセスメントとの授業内容の検討」46名参加⑩3月6日「看護学教育における評価について」56名参加

□学力低迷者の個性の理解と学習支援、休退学者減少の支援①8月22日「個性豊かな学生を指導するヒント」46名参加②9月3日「看護学科の国家試験対策について」46名参加③9月18日「チューターのあり方についての研修」46名参加④12月18日「問題行動のある学生へ行動変容を促す支援について」46名参加⑤3月13日「個性豊かな学生を指導するヒント」46名参加⑥4月10日「成績低迷者（単位未修得者）の履修指導とその評価」46名参加⑦4月17日「看護基礎ゼミ（1年生対象）の実施とその効果について」46名参加⑧4月25日「学習習慣の定着のための支援についての研修」⑨5月19日「出席状況が芳しくない学生への対応と支援について」46名参加⑩5月22日「学修計画表に基づき支援の検討」46名参加⑪5月22日「出席状況の把握と学生指導の評価について」46名参加⑫7月11日「模試を活用した学習方法の検討」46名⑬8月7日「各学年の精製低迷者休退学者現象のための学生支援の取り組みの共有」46名参加

リハビリテーション学科

相互授業参観は8回（PT4回、OT4回、参加教員26名で授業評価と指導提言を実施。

教育の質的向上に関するFDは18回：PT8回、OT8回、合同2回（各テーマ：シラバスの役割、授業設計、授業スケジュール、記憶に残る教育法、アクティブ・ラーニング、学生指導と学生評価、理解しやすい授業など）、その他にアセスメントポリシーの意義と取り組み、リハ学科の2024年重点目標についてFDを実施した。

⑦ 3つのポリシーを踏まえた自己点検・評価及び認証評価への取組

看護学科

看護学科は3つのポリシーの評価項目に基づき報告書を作成した。状況分析はPDCAサイクルを活用して、進捗管理を行う。自己点検・評価に基づいた外部評価（日本看護教育評価機構）受審のための準備として情報収集活動を行った。

リハビリテーション学科

一般社団法人リハビリテーション教育評価機構による現地評価を作業療法学専攻は10月に、理学療法学専攻は12月に貴校から評価者2名が来学し、各2時間30分にわたり紙面確認と質疑、学内巡視による評価を受審した。

⑧ 学生の学修時間や学修成果の把握による教育活動の見直し

看護学科

□学生への学修及び授業の支援は、看護学科教務委員会を中心に、教員と教務事務部が協働し、より学修が深まるような進度、クラス別・グループ別等の授業形態、試験等について検討し、実施した。

□各科目の学修の進め方の詳細はアドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づいたシラバス及び授業概要、到達目標、講義日程、単元、単元ごとのテーマと内容、事前学修および事後学修すべき内容と時間、評価方法、教科書、参考図書、オフィスアワー留意事

項を明記することに加えて、ICT を利活用した教育の計画、体制整備及び双方向授業や自習学習支援などを通して、わかりやすい授業に努めた。

リハビリテーション学科

アセスメントポリシーに関する FD を 7 月 3 日に実施し、その中で IR についても研修を実施した。

⑨ キャリア支援と地域社会への貢献

看護学科

□3 年生を対象としたふれあいグループ 17 施設の合同就職説明会を大学主催で 2024 年 13 日に実施した。

看護管理者と卒業生等から直接、各施設の魅力について発表をいただき、実習施設以外のふれあいグループ施設の理解が深まった。

学生の実際のふれあいグループの就職先は、実習施設がほとんどであった。各施設の取り組みについても情報共有を図っていく。ふれあいグループの合同就職説明会は継続して実施する。

□3 年生を対象とした大学でのふれあいグループ採用試験を実施した結果、ふれあいグループ施設就職率が 35%であった。4 年生になる前に就職先の内定が出ることで国家試験対策に早期から取り組めるメリットを今後も学生に伝え、継続実施をしていく。

□1,2 年次生を対象としたふれあいグループ施設の紹介を今後強化していく。

□ふれあい特別推薦は実施された。

□地域貢献活動は地域住民の生涯学習につながるようなテーマを検討し、計画的に取り組む。

リハビリテーション学科

リハ学科は新 4 年生に向けては、PTOT とも 3 月中旬に人事部からの求人票と卒業した 4 年生から事故の就職活動の実体験談をうけ、グループ病院への就職萌芽を促した。

⑩ 研究力向上に係る学内計画の策定

看護学科

□看護学科教員の研究活動として、査読付き論文数（学会発表等を含む）を教員 1 人あたり 2 件（含共著）以上の目標設定を通知した。

□看護学科の 2025 年採択結果は 5 件で、内基盤 C が 2 件、若手研究が 3 件（継続中 1 件）であった。科研費申請は該当教員中 13 名が申請した。

リハビリテーション学科

2025 年採択結果が 3 件採択された。内訳は基盤 C が 1 件、若手研究が 1。ひらめきときめきサイエンスが 1 件。科学申請は該当教員 17 名中 14 名が申請した。

【薬学部】

① 経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択

2024 年度は点数獲得のために次の項目を重点的に達成するように心掛けた。

(1) IR 機能の強化

□大学における IR に関する知識を薬学部の教員全員に共有した。

□IR は経常費補助金の獲得ばかりでなく、大学の外部評価や全薬学部で定期的に施行される、薬学教育評価機構第 3 者評価においても活用される事を共有した。

□薬学部における IR の基本的保存資料について情報を共有した。

(2) 学修成果等の可視化

各学生が修得した知識や能力等の客観的資料として「個人成績カルテ」を作成し、学生本人への成果開示と個別指導により学力・学修意欲の向上を図った。また、保護者への成績状況の説明にも利用することで保護者との協力連携の強化を図った。

(3) アドミッション・オフィサーの配置

入試担当教員とアドミッション・オフィサーが連携し、入試制度や科目内容について話し合い、また次年度入試に向けた準備を行うことができた。

(4) 高等学校教育と大学教育の連携強化

研究室探求と題して向上高等学校や湘南学園高等学校と模擬授業や校内見学を行い、その他高校への出張講義も実施した。

(5) 教育リソースの活用

専門領域の導入講義を主たる科目担当者が作成し、本学のホームページにて公開した。また、医療・介護・福祉等の専門家が発信している動画、インターネット等を講義の教材、自主学習ツールとして位置付けて活用した。

② 授業評価等の結果を生かした授業改善、教育活動改善への活用

リフレクションペーパーの書式を、改善策がより明確になるように改訂した。目標値に対して専門科目の総合平均数値は 90.66% と高く、改善計画書の提出を求める必要があるほど評価の低い科目はなかった。

③ 学修支援・CBT/OSCE 対策支援

80%以上の定期試験合格率达到していない科目責任者に対して、課題の分析と改善策を依頼し、教務委員会、教授会にて共有した。

入学前教育（対面）に関しては、体調不良者、遠方者を除きほぼ全員が受講した。また、講義内容を撮影し、未受講者に対して履修の機会を提供した。

CBT 模試に関しては、50%以上の平均を維持した。最終的に 27 名の学生が CBT を受験し、24 名が本試験合格、2 名が再試験合格（合格率：96.6%）となった。

④ 入学定員の確保

2024 年度は、オープンキャンパスや高校訪問、出張講義、研究室訪問、インターンシップの受け入れなどをおして積極的に広報活動を行った。また、「特別指定校」制度を新たに設け、起爆剤としたが、9 名の出願者に止まり、総合型選抜の出願者も 3 名と年内入試は厳しい局面にさらされた。資料請求者は前年比 63% も上回り 20,919 件と増加し、薬学部のオープンキャンパス参加者の伸び率も前年の 35% も上回り 306 名、出願者も 170 名と前年度の 145 名を上回った。年明けの一般選抜・共通テスト利用に期待を寄せたが、予想外に歩留率が低く 49 名の入学者しか確保できなかった。2025 年度に向けては、入試制度の見直しをはじめ高大連携の在り方やオープンキャンパスの充実を図るなど、本学独自の学生募集の在り方を創造し、それを伝統として築いていくことが必要である。

⑤ 休退学者減少への取り組み

全体研修会を通じて、教育センターが主体となって情報発信した。また、S・タスクフォースを新たに編成し、学習支援の質向上を図った。また、感情知能に着目した新たな支援体制を構築するために、担当者のスキル・キャリア支援を大学としてサポートした。

⑥ FD・SD 研修の充実

□全体研修会（大学部会）及び医療・教育研究会を着実に実施し教職員が大学の重要事項や活動内容を共有し、改善を図ってきた。

□FD、SD 活動長期計画に基づき、教育方法と研究領域をテーマにした組織的で持続的な FD 活動を積極的に実施してきた。

□大学運営方針を全体研修会時に、理念からスタートする大学の基本姿勢を常に共有してきた。

□自ら学び自ら考えて行動するという行動目標について、6S 活動や PDC 活動を通して教員、職員が常に巨力して取り組んできた。

⑦ 3 つのポリシーを踏まえた自己点検・評価及び認証評価への取組

薬学部医療薬学科の自己点検・評価の厳格化としての取り組みは、大学の理念や目的・目標に照らして教育活動等の状況を点検し、優れている点や改善すべき点などを評価し、その結果を公表するとともに、その結果を踏まえて改善向上を行うことを目的としている。

2024 年度は、薬学教育評価機構に指示された根拠資料（エビデンス）を収集し、これらの資料に基づいた自己点検・評価書を作成・点検したうえで、「自己評価 2024」として 2025 年 4 月に本学ホームページで公表した。

⑧ 学生の学修時間や学修成果の把握による教育活動の見直し

直接評価として、講義科目では定期試験および課題・レポートにより評価した。また、実習および演習科目では実習試験およびレポート、ルーブリック評価により適切に評価した。

間接評価として、通年ガイダンス後に実施している学生アンケートにて、修学時間や学修場所、図書館利用などを調査している。授業アンケートは、講義時間内での実施を行い、回収率を向上させ、より客観的な数値を得た。さらに、学修環境等の学生からの要望は、学生投書箱で意見を募り、改善をおこなっている。

⑨ キャリア支援と地域社会への貢献

キャリア支援の一貫として、湘南東部病院薬局、綾瀬厚生病院にてインターンシップ実習の受け入れをいただき、参加学生（4 年生）の報告会が 2024 年 10 月 23 日（水）に 3 年生以上の参加で行った。多くの 3 年生・4 年生の 50 名程出席があり、盛会であった。

キャリア支援としては製薬企業や公務員、その他の業種についてもインターンシップ実習を進めていきたい。

⑩ 研究力向上に係る学内計画の策定

公的研究費の獲得

- ・文科科研費の応募数は 25 件であった。
- ・研究倫理 e ラーニング 受講が早期に 100% 達成した。
- ・全体研修会で厚生労働科研費について概要&申請戦略に関する説明を行った。

査読付き論文数の確保

- ・教員の業績の実態調査を行った。

湘南医療大学 研究業績

(1) 著書

片山 典子	7『精神看護ぜんぶガイド』 Part6 精神看護に関係する法制度、社会資源	単著	令和6年4月10日	照林社
山勢 善江	1. 系統看護学講座 別巻 救急看護学 第7版	編著	2024年1月	医学書院
山勢 善江	2. 看護実践のための根拠がわかる 成人看護技術—急性・クリティカルケア看護 第3版	編著	2024年10月	メヂカルフレンド社
山勢 善江	3. スタンダードケアシリーズ 救急看護スタンダード	編著	2024年10月	照林社
清水 奈緒美	1. がん看護(改訂第2版): 様々な発達段階・治療経過にあるがん患者を支える(看護学テキストNiCE)	共著	2025年1月	南江堂
陶山 克洋	4 編集)片山典子編, 著者)陶山克洋 他:精神看護ぜんぶガイド	共著	2025年4月 発刊	株式会社照林社
陶山 克洋	5 編集)片山典子編, 著者)陶山克洋 他:精神看護ぜんぶガイド	共著	2025年4月 発刊	株式会社照林社
陶山 克洋	6 編集)片山典子編, 著者)陶山克洋 他:精神看護ぜんぶガイド	共著	2025年4月 発刊	株式会社照林社
渡部 李菜	1 Part3 精神疾患の治療方法, 精神看護ぜんぶガイド, p27~48	共著	2024年4月	照林社
渡部 李菜	2 Part4 精神症状・精神疾患, 精神看護ぜんぶガイド, p49~100	共著	2024年4月	照林社
渡部 李菜	3 Part5 精神疾患患者のケア, 精神看護ぜんぶガイド, p101~123	共著	2024年4月	照林社
坂上 昇	1 シンプル理学療法シリーズ 小児理学療法学テキスト改訂第4版 第I部定型発達 1 運動発達 胎児期・新生児期から歩行獲得まで 2 発達・運動発達の評価	共著	2024年9月	南江堂 細田多穂 監修 大城昌平・小塚直樹・坂上昇 編集 D5版 D-2023
大村 優慈	1 基礎から学ぶ画像の読み方 第4版	共著	2025年3月	医歯薬出版株式会社
岡本 絵里加	1 車椅子座位上肢機能検査短縮版 (Short Form of the Wheelchair Seating Arm Function Test) の測定時における机の高さが測定値へ及ぼす影響.	単著	2024年12月	車椅子シーティング研究 9: S55-S55, 2024.
鈴木 勉	こころの健康がみえる	共監修協力	2024年10月	メディックメディア
鈴木 勉	薬理学要説	共著	2024年2月	学術図書出版
石田 洋一	生化学実習 実習書	共著	2024年5月	湘南医療大学薬学部
石田 洋一	生物系実習 実習書	共著	2024年11月	湘南医療大学薬学部
加賀谷 肇	医療用麻薬適正使用ガイダンス (令和6年)	共著	2025年3月	厚生労働省医薬局 監視指導・麻薬対策課
加賀谷 肇	実践小児薬用量ガイド (第4版)	監修	2024年3月	株式会社 じほう
片川 和明	天然薬物学実習	共著	令和6年4月	湘南医療大学
木村 聡一郎	グラム陰性好気性桿菌	共著	2024年4月	基礎から臨床までカバーできる 薬系微生物学・感染
佐藤 淳也	図解 腫瘍薬学 改定第2版	共著	2025年2月	南山堂
佐藤 淳也	入院中のバイタルサインの読み方とその活かし方は?	共著	2024年8月	月間薬事 増刊号 病棟薬剤管理ノート じほう
佐藤 淳也	専門家をめざす人のための 緩和医療学 改定第3版	共著	2024年5月	日本緩和医療学会、南江堂
佐野 和美	R6 湘南医療大学薬学部 実務実習事前学習実習書II	共著	2024年5月	湘南医療大学薬学部 実務実習事前学習委員会
佐野 和美	R6 湘南医療大学薬学部 実務実習事前学習実習書III	共著	2024年9月	湘南医療大学薬学部 実務実習事前学習委員会
佐野 和美	R6 湘南医療大学薬学部 実務実習事前学習実習書I	共著	2024年11月	湘南医療大学薬学部 実務実習事前学習委員会
塩田 清二	薬科解剖生理学ノート	共著	2024年4月	丸善出版
高橋 央宜	Top 10 contributions in symmetry	共著	2025年1月	Academic Reads
東山 公男	化学系実習 実習書	共著	2024年4月	湘南医療大学 薬学部
東山 公男	有機化学実習 実習書	共著	2024年4月	湘南医療大学 薬学部
湯本 哲郎	ファーマシューティカルコミュニケーション (著書)	共著	2024年4月	株式会社 南山堂
小野塚 真理	令和6年度 実務実習事前学習II WORKBOOK	共著	2024年5月	湘南医療大学 薬学部
小野塚 真理	令和6年度 実務実習事前学習III WORKBOOK	共著	2024年9月	湘南医療大学 薬学部
小野塚 真理	令和6年度 実務実習事前学習I WORKBOOK	共著	2024年11月	湘南医療大学 薬学部
加藤 英明	みてわかる薬学 図解 薬害・副作用学	共著	1905年7月	改訂3版 (2刷)、1章総論V 薬物依存、122-134、南山堂 加藤英明、曾川甲子郎

氏名	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
山崎 泰広	薬科解剖生理学ノート	共著	2024年4月	発行：アドスリー株式会社 販売：丸善出版株式会社 ISBN978-4-910513-20-1
山崎 泰広	生理解剖学実習書 2024年度版	共著	2024年9月	発行：湘南医療大学
殿山 泰弘	生物系実習実習書	共著	2024年9月	湘南医療大学
中楯 奨	化学系実習 実習書	共著	2024年4月	湘南医療大学 薬学部
中楯 奨	有機化学実習 実習書	共著	2024年4月	湘南医療大学 薬学部
江川大地	2024年度天然薬物学実習実習書	共著	2024年6月	2024年度天然薬物学実習
江川大地	2024年度探求講座実習書	共著	2024年7月	2024年度探求講座
山崎 真帆	1 標準保健師講座・1 公衆衛生看護学概論	共著	2025年2月	株式会社 医学書院

(2) 学術論文（原著）

氏名	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
川本 利恵子	1. コロナ禍における臨床実習を補完する教育方略の効果	共著	2024年11月	インターナショナル Nursing Care Research, 23(2)
片山 典子	1『運動介入が物質関連障害者の自尊感情や自己効力感を高める効果：スコーピングレビュー』（査読付）	共著	令和6年6月	日本アディクション看護学会誌 第21巻1号 (P17-24)
倉田 慶子	1 低出生体重児の在宅移行支援における親と医療従事者のshared decision making に着目した文献レビュー	共著	2024年10月	日本健康医学会雑誌33巻3号 Page476-485
倉田 慶子	2 施設に入所しているこどもと家族にかかわる障害福祉サービスの課題と将来	共著	2025年2月	ヘルス出版 小児看護 Vol148, No 3 pp325-330
松島 正起	1. 看護行為場面における患者の不快状態への看護学生の気づきと注視ー基礎看護学実習前後での比較ー	共著	令和6年10月	日本看護技術学会第22回学術集会（札幌）
松島 正起	2. 看護行為場面における患者の不快状態への看護学生の気づきと思考	共著	令和6年10月	日本看護技術学会第22回学術集会（札幌）
渡邊 眞理	1. 多職種による認知症高齢がん患者の意思決定支援研修会の評価	共著	2025年2月	第39回日本がん看護学会学術集会抄録（査読付）
渡邊 眞理	2. 認知症高齢がん患者の意思決定支援(意思の推定)研修会の評価ー意思決定支援の取り組みと今後の課題認識の質的分析ー	共著	2025年2月	第39回日本がん看護学会学術集会抄録（査読付）
渡邊 眞理	3. がん診療連携拠点病院におけるリエゾン精神看護専門看護師による看護外来の運営ー外来の利用状況と利用患者の特性ー	共著	2025年2月	第39回日本がん看護学会学術集会抄録（査読付）
渡邊 眞理	4. がん看護専門看護師の活動アウトカムの可視化〜チーム、現場、ケアアウトカムの変化を質と量で評価することはできるか	共著	2025年2月	第39回日本がん看護学会学術集会抄録（査読付）
渡部 節子	1 腹膜透析関連感染症予防のために看護師が患者・家族への指導において重要と考える項目：デルファイ法による検討	共著	2024年10月	日本腎不全看護学誌 Vol126, No. 2
渡部 節子	2 会長講演：本学会の歩みと私の研究活動への示唆	単著		日本感染看護学会 第24回学術集会講演集
渡部 節子	3 Feasibility study to improve oral health in older adult patients using visiting nursing services: A pilot study	共著	2024年12月	PLOS ONE, 19(12)
相澤 恵子	1. Development of a Midwifery Education Program to Foster Motherhood in Women with Twin Pregnancies after Assisted Reproductive Technology（査読付）（生殖補助医療後に双子を妊娠した女性の母性を育むための助産師教育プログラムの開発）	共著	2024年	Japan Society for Twin Studies, 3(1), p1-10.
碓井 瑠衣	Association of Obesity With Health Literacy and Weight Perception Among Women Merchants in Abidjan, Côte d'Ivoire: A Cross-Sectional Study	共著	2024年6月	HLRP: Health Literacy Research and Practice
碓井 瑠衣	Evaluation of a Smartphone-Based Weight Loss Intervention with Phone-call Support for Merchant Women with Obesity in Côte d'Ivoire: Protocol for a Randomized trolled Trial”	共著	(2025年2月25日アクセプトメール受信)	JMIR Research Protocols
櫻井 友子	1 コロナ禍における成人看護学実習の経験と学生の不安との関連（査読付）	共著	2024年10月	インターナショナルNursing Care Reseach
櫻井 友子	2 コロナ禍における臨床実習を補完する教育方略の効果（査読付）	共著	2024年10月	インターナショナルNursing Care Reseach
佐々木 千佳	1 女子大学生と足の実態調査(査読有)	共著	2024年6月	健康レクリエーション研究 Vol19pp. 9-19
佐々木 千佳	2 施設入所高齢者の入浴時刻の違いによる睡眠状態の比較	共著	2024年11月	第31回日本時間生物学会（富山）2024 P143
清水 奈緒美	1. 多職種による認知症高齢がん患者の意思決定支援研修会の評価	共著	2025年2月	第39回日本がん看護学会学術集会抄録（査読付）

氏名	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
清水 奈緒美	2. 認知症高齢がん患者の意思決定支援(意思の推定)研修会の評価―意思決定支援の取り組みと今後の課題認識の質的分析―	共著	2025年2月	第39回日本がん看護学会学術集会抄録(査読付)
安部 仁美	1中規模企業における持続的な健康経営の実装に向けた開業保健師による組織支援の特性と評価-Features and evaluations of organizational support provided by occupational health nurses in private practice for the implementation of sustainable health and productivity management in medium-sized enterprises	共著	66(4) 156-167 2024年7月25日	産業衛生学雑誌
安部 仁美	2第34回国際産業保健学会 (ICOH 2024) 参加報告―6年ぶりの対面開催、笑顔とハグが飛び交うICOH2024―	単著	47(5) 49-54 2024年9月1日	産業医学ジャーナル
安部 仁美	3災害に備えた健康管理・保健指導-特集 いざというときのために 日常の産業保健活動における災害への備え	単著	16(3) 204-210 2024年5月	産業保健と看護
岡 多恵	1. 多職種による認知症高齢がん患者の意思決定支援研修会の評価	共著	2025年2月	第39回日本がん看護学会学術集会抄録(査読付)
岡 多恵	2. 認知症高齢がん患者の意思決定支援(意思の推定)研修会の評価―意思決定支援の取り組みと今後の課題認識の質的分析―	共著	2025年2月	第39回日本がん看護学会学術集会抄録(査読付)
小野寺 悠斗	1メディカ出版サブスクリプション学習サービス「FitNs.」アルコール依存症について	単著	2024年12月	メディカ出版
小野寺 悠斗	2よくわかる看護過程 双極性障害	単著	2025 年 3 月 10 日発行	『Nursing Canvas』2025 年 4 月号
小野寺 悠斗	3薬物依存症者の回復を示す生理学的変化の指標についての文献検討	共著	2024年12月14日～15日	第22回日本アディクション看護学会
陶山 克洋	1 片山典子, 渡部李菜, 陶山克洋, 佐々木博之: 精神看護学実習において学生が捉える地域生活支援に関する学び―テキストマイニングを用いたレポートの内容分析― (in press 日本アディクション看護学会誌) (査読あり)	共著	2025年4月発刊予定	日本アディクション看護学会誌
陶山 克洋	2 陶山克洋, 片山典子: COVID-19拡大に伴う1型糖尿病患者の心身への影響に関する研究―マイクロブログによる計量テキスト分析を用いて― (submitted to 日本アディクション看護学会誌) (査読あり)	共著	2025年予定	日本アディクション看護学会誌
野口 京子	1: Feasibility study to improve oral health in older adult patients using visiting nursing services: A pilot study	共著	2024年12月	PLOS ONE
野口 京子	2: Feasibility study of a Care Intervention to Improve Oral Health in Older Adult Patients Who Use Visiting Nursing Services: A Pilot Study	共著	2024年7月	11th INTERNATIONAL CONGRESS OF ASIA PACIFIC SOCIETY OF INFECTION CONTROL (APSIC)
日下 桃子	1 精神疾患のある人の性と生殖に関する実態	共著	掲載済(2025年2月)	日本看護科学学会誌
日下 桃子	2 Effects of an online program about intimate and romantic relationships for people with mental disorders (AIRIKI): a study protocol for a randomized controlled trial	共著	掲載済(2024年10月)	BMC Psychiatry 24(1)p731
倉橋 悠子	1 Kurahashi Y, Okuyama S (2025.3). Experiences of Difficulty in Hematopoietic Cell Transplant Nurses: A Qualitative Systematic Review Protocol. medRxiv. https://doi.org/10.1101/2025.03.04.25323395	共著	1905年7月	medRxiv. https://doi.org/10.1101/2025.03.04.25323395
倉橋 悠子	2 【原稿執筆】 倉橋 悠子 (2024) . ヘルステック生成AIのあり方: 看護ケアGPB編. AAC株式会社公式サイト掲載. http://www.aac-g.co.jp/index-AAC-EVENT.html (2024年3月21日公開) .	単著	1905年7月	AAC株式会社公式サイト掲載. http://www.aac-g.co.jp/index-AAC-EVENT.html
倉橋 悠子	3 櫻井 友子, 岡 多恵, 石橋 史子, 倉橋 悠子 , 関谷 潤, 渡邊 真理 (2024) . コロナ禍における成人看護学実習の経験と学生の不安との関連. インターナショナル Nursing Care Research, 23(1), 79-88.	共著	2024. 10	インターナショナル Nursing Care Research, 23(1), 79-88.
本間 誠淳	1. 輸液カテーテル管理の実践基準 改訂版 (仮)	共著	2025年度発刊予定	南山堂
本間 誠淳	2. Families Using Day Care facilities for children with SMID (severe motor and intellectual disabilities) in Japan : A Literature Review	共著	2025年6月17日～20日 (採択済)	17th International Family Nursing Conference
三堀 いずみ	1. 多職種による認知症高齢がん患者の意思決定支援研修会の評価	共著	2025年2月	第39回日本がん看護学会学術集会抄録(査読付)
三堀 いずみ	2. 認知症高齢がん患者の意思決定支援(意思の推定)研修会の評価―意思決定支援の取り組みと今後の課題認識の質的分析―	共著	2025年2月	第39回日本がん看護学会学術集会抄録(査読付)
村嶋 幸代	1 母子保健記録における電子システム活用の効果と課題 行政保健師に対するインタビュー調査	共著	2024年11月	日本臨床知識学会誌 (2436-0228) 5巻 Page63-65 (2024. 12)
村嶋 幸代	2 保健師のコアバリューとコアコンピテンシー デルファイ調査	共著	2024年12月	日本公衆衛生雑誌 (0546-1766) 71巻12号 Page745-755 (2024. 12)
村嶋 幸代	3 新型コロナウイルス感染症流行下における看護学生による予防的家庭訪問実習 地域で展開する看護学実習継続に向けた工夫	共著	2024年9月	日本プライマリ・ケア連合学会誌 (2185-2928) 47巻3号 Page111-115 (2024. 09)
望月 千夏子	1婚姻初産婦の心理的特徴を踏まえた支援内容の検討	共著	2024年10月	第83回日本公衆衛生学会
望月 千夏子	2技能実習生の健康と生活状況に関する文献レビュー	共著	2024年10月	第83回日本公衆衛生学会
山崎 圭子	1 NICU・GCUに入院している乳児の泣きに対する看護師の捉え方 (査読付)	共著	2024年7月	母性衛生, 65(2), 232-239
山崎 圭子	2 正規雇用就労女性の就労と妊娠出産育児に関する主体的体験 (査読付)	共著	2024年7月	母性衛生, 65(2), 249-256
山崎 圭子	3 Effect of Domestic Violence on the Health-related Quality of Life of Pregnant Women during the COVID-19 Pandemic (査読付) COVID-19蔓延状況下でのDomestic violenceが妊婦の健康関連Quality of Lifeに与える影響	共著	2024年7月	Journal of Japan Health Medicine Association, in press, 33(2), 200-207
山崎 圭子	4 産婦健康診査で要支援となった母親に対する保健師の関わり (査読付)	共著	2024年9月	日本公衆衛生雑誌, 71(10),

氏名	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
坂上 昇	1 発達障害児のMotor skillsを改善するための介入 — システムティックレビュー — (査読付)	共著	2025年3月 (印刷中)	専門リハビリテーション 第23巻 P. 1～10
大森 圭貢	1 心臓手術後患者にける退院前の歩行能力および身体機能の評価指標—文献調査—	共著 原田真二,森 尾裕志,大森	令和6年5月	専門リハビリ, 22. 31-40, 2024
大森 圭貢	2 Characteristics of nighttime sleep and daytime sleepiness in community-dwelling people with aging-associated cognitive decline	共著 Yoshitsugu Omori, Hitomi Hakoyama, Tak uya Ueda, Tetsuya Yamagami, Sao ri Anzai, Yoshit	令和6年9月	Japanese Society of Community- based Comprehensive Physical Therapy., Vol. 4, No. 1, 18- 26, 2024
大森 圭貢	3 Subjective Difficulty with Higher-Level Functional Capacity in Community-Dwelling Older People with Mild Cognitive Impairment	共著 Yoshitaka Shiba, Saori Anzai, Takuya Ueda, Naoki Sasa,	令和6年10月	Fukushima J. Med. Sci., Vol. 70, No. 4, 2024
大森 圭貢	4 Quantitative analysis of the gaze and the kinetic/kinematic evaluation of expert and novice physical therapists during standing/sitting assistance: a pilot study.	Sekine Satou, Sakur ai, Yoshimi Omori Yoshitsugu, Morio Yuji Yamamoto	令和6年11月	Front Rehabil Sci. 2024 Nov 21;5:1426699. doi: 10.3389/freesc.2024.1426699. eCollection 2024.
大森 圭貢	5 変形性膝関節症を有する女性患者の階段昇降速度と身体的・心理的因子の関連性	共著 大内佑太,城 所亮多,衣田 翔,大森圭貢,	令和7年1月	理学療法：技術と研究、53；55- 60、2025
森尾 裕志	1 Quantitative analysis of the gaze and the kinetic/kinematic evaluation of expert and novice physical therapists during standing/sitting assistance: a pilot study (査読付)	共著	令和5年11月	Frontiers in Rehabilitation Sciences 5: 1-14
森尾 裕志	2 変形性膝関節症を有する女性患者の階段昇降速度と身体的・心理的因子の関連 (査読付)	共著	令和6年2月	理学療法：技術と研究、53巻： 55-60
山田 拓実	1 Differences in Diaphragmatic and Chest Wall Excursion During Quiet Breathing According to Body Position: Dynamic Analysis by MRI	共著	October 2024.	Cardiopulmonary Physical Therapy Journal 35(4):p 144-
山田 拓実	2 介護予防運動プログラムが要介護発生リスクに及ぼす影響：10年間の追跡研究	単著	10月2024.	第83回日本公衆衛生学会総会抄録 集
櫻井 好美	1 Quantitative analysis of the gaze and the kinetic/kinematic evaluation of expert and novice physical therapists during standing/sitting assistance: a pilot study	共著	2024年11月	Frontiers in Rehabilitation Sciences
櫻井 好美	2 Verification of the Effectiveness of Lower Extremity Constraint-Induced Movement Therapy Performed on Patients with Post-stroke Hemiplegia in Maintenance Phase under Spasticity Treatment on Musculus Triceps Surae	共著	2024年12月	International Journal of Arts, Commerce and Humanities
大村 優慈	1 介護老人保健施設入所者における食堂の座席での反復起立テストと日常歩行、バランス機能、歩行耐久性の関係	共著	2024年5月	The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 61(5)
下田 栄次	1 災害時における理学療法士の役割と実践	単著	2025年2月	公益社団法人神奈川県理学療法士 会 第41回神奈川県理学療法士学
下田 栄次	2 令和6年能登半島地震災害支援活動報告 - 神奈川県理学療法士会事務局災害対策部の取り組みと展望 -	共著	2025年1月	理学療法 - 技術と研究 - 53巻
下田 栄次	3 令和6年能登半島地震災害支援活動報告 - 神奈川県理学療法士会事務局災害対策部の取り組みとその意義 -	共著	2024年9月	第43回神奈川県病院学会
中村 壽志	1. 炭酸入浴剤による炭酸温水足浴が身体的バランス能力に及ぼす影響	共著	2024年12月	人工炭酸泉研究会雑誌 第8巻1号
中村 壽志	2. 人工炭酸温水による足浴が下肢筋力向上と転倒予防への可能性について	共著	2024年12月	人工炭酸泉研究会雑誌 第8巻1号
土田 将之	1. Changes in acceleration and deceleration factors associated with active gait speed adjustment	共著	vol136, No. 5, pp1-8, 2024	Journal of Physical Therapy Science
土田 将之	2. 高齢者のスマートフォン利用状況と多面的に測定したQOLとの関連	共著	2024年6月	第66回 老年社会学会大会
土田 将之	3. Association between smartphone usage and physical activity level among older people living in Japan.	共著	2025年5月	World Physiotherapy Congress 2025.
田邊 浩文	1 Efficacy of lower Extremity LE CI Therapy using a spasticity reduction device for hemiplegia in stroke patients 脳卒中片麻痺患者に対する痙縮減弱装置を用いたLE CIセラピーの有効性の検証 (査読付)	共著	2024年11月	International Conference on Control Automation and Systems. DOI:10.23919/ICCAS63016.2024.1 077329(proceedings)
田邊 浩文	2 Effects of Constraint-induced Movement Therapy on Patients with Post-cerebrovascular Disease Hemiplegia in the Maintenance Phase -Evaluation of Gait Improving Effects by Biomechanical Analysis- 維持期脳血管疾患片麻痺患者に対するCIセラピーの効果～バイオメカニクス解析による歩行改善効果の検証～ (査読付)	共著	2025年2月	British Journal of Healthcare and Medical Research, Vol - 12(1). 296-305.

氏名	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称
田邊 浩文	3 Verification of the Effectiveness of Lower Extremity Constraint-Induced Movement Therapy Performed on Patients with Post-stroke Hemiplegia in Maintenance Phase under Spasticity Treatment on Musculus Triceps Surae 維持期脳卒中後片麻痺患者に対する下腿三頭筋痙縮治療下における下肢拘束誘導運動療法の有効性の検証（査読付）	共著	2024年11月	International Journal of Arts, Commerce and Humanities, Vol12(6) pp, 1-6.
田邊 浩文	4 Evaluation of Effectiveness of Modified Pediatric Constraint-Induced Movement Therapy Performed on Children with Cerebral Palsy by a Home-treatment Program	共著	2025年1月	American Journal of Medical and Clinical Sciences(10), pp, 1-6.
田邊 浩文	5 Relationship between pushing force and improvement in total A-ROM when training with a nger extensor facilitation training device “iPARKO” 指伸筋促進訓練装置iPARKOを用いた訓練時の押す力と全A-ROMの改善との関係（査読付）	共著	2024年11月	ROBOMEC journal, pp, 1-25. https://doi.org/10.21203/rs.3.rs-5406511/v1
田邊 浩文	6 Comparative Examination of the Vibration Stimulation and Piston Technique Treatments on Muscle Tone Reduction in Children with Cerebral Palsy Who Exhibit Abnormal Muscle Tone at the Musculus Triceps Surae 下腿三頭筋の筋緊張異常を呈す脳性麻痺児の筋緊張軽減振動刺激とピストンテクニック治療の比較検討（査読付）	共著	2024年10月	International Journal of Arts, Commerce and Humanities (IJACH) - Volume 12 Issue 04, 2024
田邊 浩文	7 Development of a new rehabilitation treatment method for spasticity caused by central nervous system diseases: the piston technique and proprioceptor stimulation method 中枢神経疾患の痙縮に対する新たな治療法、ピストンテクニックと固有受容性抑制法	単著	2024年10月	International Spasticity Society (Poland)
田邊 浩文	8 Tanabe Therapy and Modified Constraint-Induced Movement Therapy for an acute stroke patient with sever hemiplegic upper extremity 急性脳卒中重度上肢麻痺に対するタナベセラピーと修正CIセラピーの併用効果（査読付）	共著	2024年11月	The 8th Asia Pacific Occupational Therapy CongressP3-M-15(アジア作業療法国際学会論文集)
田邊 浩文	9 Effects of finger extensor facilitation method 指伸筋促進方法の効果（査読付）	共著	2024年11月	The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress(アジア作業療法国際学会論文集)
田邊 浩文	10 脳性片麻痺児に対する修正pediatric-Constraint-induced Movement Therapyの実践報告	共著	2024年11月	第58回日本作業療法学会論文集（札幌）
田邊 浩文	11 維持期脳卒中片麻痺者に対するリモート行動心理アプローチ（査読付）	共著	2024年11月	第58回日本作業療法学会論文集（札幌）
池田 晋平	1. Healthcare Service Disparities in Cancer Rehabilitation and Treatment Costs in Japan: A Cross-Sectional Analysis of National Data	共著 （副筆）	2025年3月	Cureus（17巻3号）， SPRINGER NATURE
池田 晋平	2. Child Poverty and Its Associated Issues in A City, Tokyo: Insights from Community-Based Participatory Research	共著 （主筆）	2025年2月	Children（12巻2号, 252頁），MDPI
杉村 直哉	1 最新作業療法学講座 精神障害作業療法学	共著	2025年2月	医歯薬出版
杉村 直哉	2 精神科作業療法と臨床推論「不安症」	共著 （責任著者）	2024年12月	臨床作業療法NOVA 21(4):29-36
杉村 直哉	3 第31回日本産業精神保健学会におけるワールドカフェ企画実施報告	共著	2025年2月	産業精神保健33(1):68-72
増田 雄亮	12 A Study of the Effects on Walking Motion by a Self-Walking Training Support Passive Robot 自主歩行トレーニング支援パッシブロボットによる歩行動作への影響に関する考察（査読付）	共著	2024年5月	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス論文集F1-P2(1-2)

氏名	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
増田 雄亮	2. Verification of the Effectiveness of Lower Extremity Constraint-Induced Movement Therapy Performed on Patients with Post-stroke Hemiplegia in Maintenance Phase under Spasticity Treatment on Musculus Triceps Surae	共著	令和6年12月	International Journal of Arts Commerce and Humanities 12(6), pp.1-7
増田 雄亮	3.Effects of Voluntary Upper-Extremity Functional Training in Patients with Chronic Stroke	共著	令和6年7月	Asian Journal of Occupational Therapy 20(1), pp. 49-58
増田 雄亮	4. 作業中心のEvidence-based practiceを支援する臨床教育の有用性一探索的事例検討一	共著	令和6年4月	作業療法 43(2), pp. 222-229
三川 年正	1. 脳卒中後うつ病経験者の抑うつを意識したエピソードと回復要因 -トピックモデルを用いた解析- (査読付)	共著	令和6年8月31日	昭和大学学士会雑誌84巻4号305-313
三川 年正	2.Verification of the Effectiveness of Lower Extremity Constraint Induced Movement Therapy Performed on Patients with Post Stroke Hemiplegia in Maintenance Phase under Spasticity Treatment on Musculus Triceps Surae	共著	令和6年11月20日 (2024)	International Journal of Arts, Commerce and Humanities Vol.12, (6) pp.01-08. https://www.journalijach.com/admin/upload/IJACH20240034.pdf
三川 年正	3.Evaluation of Effectiveness of Modified Pediatric Constraint-Induced Movement Therapy Performed on Children with Cerebral Palsy by a Home-Treatment Program	共著	令和7年1月10日 (2025)	American Journal OF Medical AND Cincial Sciences ,10(1),1-6, 2025 https://www.ajrms.com/article/Evaluation+of+Effectiveness+of+Modified+Pediatric+Constraint-Induced+Movement+Therapy+Performed+on+Children+with+Cerebral+Palsy+by+a+Home-Treatment+Program
神保 洋平	1CROT-Rを使用した臨床参加型実習の利点と課題点の検討一状況学習論的観点からの一考察 -	共著（筆頭）	2024年11月	第58回日本作業療法学会
神保 洋平	2ゴールドマスター作業療法管理学	共著	2024年12月	メジカルビュー社
岡本 絵里加	1 急性期病院における「意味のある作業」を実施した認知症患者群の作業療法の効果～ランダム化比較試験～の報告から。（査読付）	単著	2024年4月	作業行動研究 27（4） 207-211, 2024.
宮内 貴之	1. Behavioral Problems and Self-Feeding Independence Among Patients With Acute Stroke: A Single-Center Study（急性脳卒中患者における行動上の問題と自食自立：単一施設研究）	共著（主）	2024年9月	The American Journal of Occupational Therapy 78（5）, 7805205080
宮内 貴之	2. 意思決定支援ツールを用いて段階的かつ複合的介入を立案したことで BPSD と ADL の改善に繋がった脳血管性認知症の事例	共著（主）	2024年12月	神奈川作業療法研究14（1）号, 11-17
鈴木 勉	「ダム、ゼッタイ。」普及運動は医療用麻薬の適正使用に影響しているか？（査読あり）	共著	2024年3月	日本緩和医療学会17:17-24, 2024
鈴木 勉	幻覚発現物質の評価検証を旨とした試験法の開発（査読あり）	共著	2024年3月	令和5年度厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器レギュラトリーサイエンス政策事業）課題番号：22KC1005、課題名：指定薬物の指定に係る試験法の評価検証に資する研究（研究代表者：鈴木 勉）統括・分担研究報告書 27-39（2024）
石川 吉伸	Theoretical Studies on the Reaction Mechanism of Schiff Base Formation from Hexoses（ヘキソースからの Schiff 塩基形成反応機構に関する理論的研究）	共著	2024年5月	The Journal of Physical Chemistry B, 128, 4952-4958, 2024
石川 吉伸	Downregulation of chemoresistance by claudin-14 silencing in human colorectal cancer cells（ヒト大腸がん細胞におけるクローディン-14のサイレンシングによる化学療法耐性の低下）	共著	2024年8月	Archives of Biochemistry and Biophysics, 758, 110075, 2024
石川 吉伸	Chemical constituents of five Saxifraga species and their virucidal activities（ユキノシタ科5種の化学成分とそのウイルス不活化活性）	共著	2024年12月	Fitoterapia, 179, 106215, 2024
石川 吉伸	Reduction of Chemoresistance by Claudin-14-Targeting Peptide in Human Colorectal Cancer Cells（ヒト大腸がん細胞におけるクローディン-14標的ペプチドによる化学療法抵抗性の低減）	共著	2025年1月	Journal of Cellular Biochemistry, 126(1), e30675, 2025
石橋 芳雄	Identification of heparin-binding proteins expressed on Trichosporon asahii cell surface トリコスポロンアサヒ菌体表面に発現するヘパリン結合タンパク質の同定（査読付）	共著	2024年 5月	Yeast. https://doi.org/10.1002/yea.3928
石橋 芳雄	Identification of the cell-surface lectin domain-containing protein expressed in the adhesive colony morphology of Trichosporon asahii 高接着性トリコスポロンアサヒコロニー形態株の菌体表面に発現するレクチンドメイン保有タンパク質の同定（査読付）	共著	2024年 12月	Medical Mycology https://doi.org/10.1093/mmy/myae119
加賀谷 肇	The Association between Molecular Initiating Events and Drug-Induced Hiccups	共著	2024年4月	Pharmaceuticals 2024, 17(3), 379; https://doi.org/10.3390/ph17030379(registering DOI)
加賀谷 肇	Investigation on the effects of the route of administration on nicotine-induced hiccups using FDA adverse events reporting system	共著	2025年3月	Chem-Bio Informatics Journal (Accepted:2025-03-04)
片川 和明	Therapeutic Senolysis of Axitinib-Induced Senescent Human Lung Cancer Cells	共著	2025年8月	Cancers 2024, 16, 2782.
加藤 裕久	Comparison between a single dose of PEG G-CSF and multiple doses of non-PEG G-CSF: a systematic review and meta-analysis from Clinical Practice Guidelines for the use of G-CSF 2022	共著	2024 Jun;29(6): 681-688 DOI: 10.1007/s10147-024-02504-4	Int J Clin Oncol

氏名	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
加藤 裕久	Therapeutic use of granulocyte colony-stimulating factor (G-CSF) in patients with febrile neutropenia: a comprehensive systematic review for clinical practice guidelines for the use of G-CSF 2022 from the Japan Society of Clinical Oncology	共著	2024 Jun;29(6):700-705. doi: 10.1007/s10147-024-02541-z	Int J Clin Oncol
加藤 裕久	Effectiveness and safety of granulocyte colony-stimulating factor priming regimen for acute myeloid leukemia: A systematic review and meta-analysis of the Clinical Practice Guideline for the use of G-CSF 2022 from the Japan Society of Clinical Oncology	共著	2024 Jul;29(7):899-910. doi: 10.1007/s10147-023-02461-4	Int J Clin Oncol
加藤 裕久	Effectiveness and safety of primary prophylaxis with G-CSF for patients with Ewing sarcomas: a systematic review for the Clinical Practice Guidelines for the Use of G-CSF 2022 of the Japan Society of Clinical Oncology	共著	2024 Aug;29(8):1081-1087. doi: 10.1007/s10147-024-02572-6	Int J Clin Oncol
加藤 裕久	Effectiveness and safety of primary prophylaxis of granulocyte colony-stimulating factor during dose-dense chemotherapy for urothelial cancer: Clinical Practice Guidelines for the Use of G-CSF 2022	共著	2024 May;29(5):545-550. doi: 10.1007/s10147-024-02491-6	Int J Clin Oncol
加藤 裕久	Effectiveness and safety of primary prophylaxis with G-CSF during chemotherapy for invasive breast cancer: a systematic review and meta-analysis from Clinical Practice Guidelines for the Use of G-CSF 2022	共著	2024 Aug;29(8):1074-1080. doi: 10.1007/s10147-024-02570-8	Int J Clin Oncol
加藤 裕久	Effectiveness of G-CSF in chemotherapy for digestive system tumors: a systematic review of the Clinical Practice Guidelines for the Use of G-CSF 2022 delineated by the Japan Society of Clinical Oncology	共著	2024 Jun;29(6):689-699. doi: 10.1007/s10147-024-02502-6	Int J Clin Oncol
加藤 裕久	Effectiveness and safety of primary prophylaxis of G-CSF during chemotherapy for prostate cancer, Japanese clinical guideline for appropriate use of G-CSF: clinical practice guidelines for the use of G-CSF 2022	共著	2024 May;29(5):559-563. doi: 10.1007/s10147-024-02501-7	Int J Clin Oncol
加藤 裕久	Primary prophylaxis with G-CSF for patients with non-round cell soft tissue sarcomas: a systematic review for the Clinical Practice Guidelines for the Use of G-CSF 2022 of the Japan Society of Clinical Oncology	共著	2024 Aug;29(8):1067-1073. doi: 10.1007/s10147-024-02569-1	Int J Clin Oncol
木村 聡一郎	Treatment for Dry Skin and an Unpleasant Smell: Development of a Moisturizer with Deodorant for Maintaining a Good Skin Condition	共著	2024年7月	International Journal of Pharmacy and Pharmaceutical Research
栗原 正明	(5-Fluoro-2, 6-dioxo-1, 2, 3, 6-tetrahydropyrimidin-1-ido- κ N1) (1, 4, 8, 11-tetraazacyclotetradecane- κ 4N) zinc(II) perchlorate「査読有り」(表題化合物の結晶構造)	共著	2024年5月	IUCrdata, (2024); 9(5), p. x240431.
栗原 正明	[1-(Anthracen-9-ylmethyl)-1, 4, 7, 10-tetraazacyclododecane]chloridozinc(II) nitrate「査読有り」(表題化合物の結晶構造)	共著	2024年7月	IUCrdata, (2024); 9(7), p. x240665.
栗原 正明	QSARによるフェンタニル系化合物のインシリコ活性予測(査読有り)	共著	2024年9月	国際医療福祉大学学会誌, 29, 2024, 102-109(査読有り)
栗原 正明	Design, synthesis and characterization of 1-(anthracen-9-ylmethyl)-1, 5, 9-triazacyclododecane (Ant-[12]aneN3) and its DNA photocleavage activity「査読有り」(1-(アントラセン-9-イルメチル)-1, 5, 9-トリアザシクロドデカン(Ant-[12]aneN3)の設計、合成、特性評価およびそのDNA光切断活性)	共著	2025年2月	Chemical and Pharmaceutical Bulletin, (2025); 73(2), p. 103.
国分 秀也	血液透析患者の上行結腸がんに対し、用量を調節したmFOLFOX6+Bevacizumab療法を施行し、良好な治療成績が得られた1例	共著	2024年8月	YAKUGAKU ZASSHI
国分 秀也	薬局薬剤師におけるケミカルロービングの認知度と関連する経験に関する実態調査	共著	2025年3月	日本緩和医療薬学会雑誌
定本 清美	Kiyomi Sadamoto, Junya Fujimori, Hiroyuki Ura, Soichiro Kimura, Kiyoshi Kubota Treatment for Dry Skin and Unpleasant Smell: Development of Moisturizer with Deodorant for Maintaining a Good Skin Condition	共著	2024年6月	International Journal of Pharmacy & Pharmaceutical Research July2024 Vol30, Issue 7 309-320
定本 清美	Kiyoshi Kubota, Morio Shimada, Hiroyuki Ura, Kiyomi Sadamoto Potential of Aluminum Drug Packages with Press-Through Packaging Considering Usability for a Wide Range of Users	共著	2024年11月	Medical Devices: Evidence and Research 2024;17 441-453

氏名	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
定本 清美	Ura, H., Matsuoka, N., Kubota, K., Sadamoto, K. Trends in prescription of anti-seizure medications in Japan between 2018 and 2021: A retrospective study using the National Database Open Data Japan.	共著	2024年9月	Epilepsy & Behavior 159:109949, 2024
佐藤 淳也	Predicting recurrent Clostridioides difficile infection by assessing antimicrobial treatment based on days of antibiotic spectrum coverage and ATLAS scores	共著	2025年1月	J Infect Chemother 2024 Dec 27:102603.
佐藤 淳也	Comparison of continuous subcutaneous hydromorphone hydrochloride and morphine hydrochloride injection on skin disorders incidence: a retrospective study	共著	2024年12月	J Pharm Health Care Sci 10 82-82
佐藤 淳也	Extravasation associated with cancer drug therapy: multidisciplinary guideline of the Japanese Society of Cancer Nursing, Japanese Society of Medical Oncology, and Japanese Society of Pharmaceutical Oncology	共著	2024年10月	ESMO Open. 2024 Oct;9(10):103932.
佐藤 淳也	Efficacy and safety of bone management agents administered at 12 weeks vs. 4 weeks in patients with bone metastases: A systematic review	共著	2024年10月	Journal of Oncology Pharmacy Practice 30(7) 1160-1172
佐藤 淳也	The Incidence of delirium during the initiation phase of morphine and hydromorphone medications in cancer patients: a retrospective comparative study	共著	2024年8月	Canadian Journal of Hospital Pharmacy (in press)
佐藤 淳也	Retrospective Analysis of Factors Influencing the Hemoglobin Level-increasing Effect of Sodium-glucose Co-transporter-2 Inhibitors	共著	2024年8月	IN VIVO 38(6) 2767-2773
佐藤 淳也	緩和薬物療法を中心とした薬剤師業務に関連する医療事故に対するシステム構築	共著	2024年8月	医療事故紛争対応研究会誌 16 15-24
佐藤 淳也	Analysis and evaluation of factors contributing to the occurrence of immune-related adverse events with immune checkpoint inhibitors	共著	2024年6月	Pharmazie 79 163-168
佐藤 淳也	血液透析患者の上行結腸がんに対し、用量を調節した mFOLFOX6+Bevacizumab療法を施行し、良好な治療成績が得られた 1 例	共著	2024年5月	Yakugaku Zasshi 144 847-852
佐藤 淳也	医療用麻薬注射剤の全量採取調製により過剰投与が疑われた 1 例	共著	2025年2月	日本緩和医療薬学雑誌 18 :掲載準備中
塩田 清二	Lifespan Extension and Motor Function Improvement Effects of Whale Meat Extract in Caenorhabditis elegans. (査読付) (鯨肉エキスによる Caenorhabditis elegansの寿命延長と運動機能改善効果)	共著	2024年11月	International Journal of Molecular Sciences, 25(23):12833
塩田 清二	AMP-activated protein kinase in the amygdala and hippocampus contributes to enhanced fear memory in diabetic mice. (査読付) (扁桃体と海馬のAMP活性化タンパク質キナーゼは、糖尿病マウスの恐怖記憶の強化に寄与する)	共著	2024年12月	British Journal of Pharmacology, 181(24):5028-5040
塩田 清二	DNA Microarray and Bioinformatic Analysis Reveals the Potential of Whale Oil in Enhancing Hair Growth in a C57BL/6 Mice Dorsal Skin Model. (査読付) (DNAマイクロアレイとバイオインフォマティクス解析により、C57BL/6マウス背部皮膚モデルにおける鯨油の育毛促進効果の解明)	共著	2024年5月	Genes (Basel), 15(5):627
塩田 清二	Intracellular signaling mechanism of sweat secretion by PACAP(査読付) (PACAPによる発汗分泌の細胞内シグナル伝達機構)	共著	2024年5月	Cell Signaling, 2(1):86-89
塩田 清二	ヒノキ・スギセルエキストラクトの香りが剣道選手のコンディショニングに与える影響`和の香りを和のスポーツに導入する試み` (査読付)	共著	2024年11月	一般社団法人日本アロマセラピー学会誌, 23(1):47-54
塩田 清二	ヨモギの低温真空抽出物による育毛作用 (査読付)	共著	2024年11月	一般社団法人日本アロマセラピー学会誌, 23(1):32-38
塩田 清二	スギおよびヒノキセルエキストラクトのマイオカイン分泌による健康促進作用 (査読付)	共著	2024年11月	一般社団法人日本アロマセラピー学会誌, 23(1):39-46
塩田 清二	スポーツアロマにおける精油の作用とその評価方法(査読付)	共著	2024年11月	一般社団法人日本アロマセラピー学会誌, 23(1):5-15
高橋 央宜	A computational DFT study of the stereoinversion of succinimide residues formed in proteins and peptides catalyzed by a hydrogen phosphate ion: An unsymmetrical SE1 mechanism	単著	2024年10月	Symmetry
東山 公男	Elucidation of Degradation Behavior of Nitrazepam, a Benzodiazepine Drug, under Basic Conditions: Study on Degradability of Drugs in Stomach (IV) (ベンゾジアゼピン系薬剤ニトラゼパムの基本条件下での分解挙動の解明: 胃内薬物分解性に関する研究 (IV)) (査読付)	共著	2024年1月	Chem. Pharm. Bull., 72, 11-15
東山 公男	Elucidation of Degradation Behavior of Barbiturates in Artificial Gastric Juice: Study on Degradability of Drugs in Stomach (V) (人工胃液中のバルビツール酸塩の分解挙動の解明: 胃中薬物の分解性に関する研究 (V)) (査読付)	共著	2024年8月	Chem. Pharm. Bull., 72, 747-750
船田 正彦	大麻取締法改正の意義を考える	単著	2024年4月	薬局薬学
船田 正彦	日本における薬物の乱用、依存の現状と問題点	共著	2024年8月	ペインクリニック Vol.45 No.8 (2024.8)

氏名	著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称
船田 正彦	Fentanyl-Type Antagonist of the μ -Opioid Receptor: Important Role of Axial Chirality in the Active Conformation.	共著	2024年6月	J Med Chem. 2024 Jun 27;67(12):10447-10463. doi: 10.1021/acs.jmedchem.4c00935. Epub 2024 Jun 13. PMID: 38869493; PMCID: PMC11215721. (2024. 6)
船田 正彦	危険ドラッグの有害作用評価に関する研究：合成カンナビノイドを中心に	単著	2024年9月	ファルマシア 60 (11), 1040-1044, 2024
古屋 博行	The analysis of lung sounds in infants and children with a history of wheezing/asthma using an automatic procedure (査読有)	共著	2024年8月	BMC Pulm Med. 14:24(1):394
古屋 博行	Evaluation of Incidental Findings on Abdominopelvic CT: Potential Benefit of Photon-counting Detector CT Over Conventional Single-energy CT. (査読有)	共著	2024年7月	Tokai J Exp Clin Med. 2024;49(2):73-81.
古屋 博行	Effects of COVID-19 pandemic-associated reduction in respiratory infections on infantile asthma development (査読有) .	共著	2024年4月	J Allergy Clin Immunol Glob. 11:3(3):100256.
湯本 哲郎	Usefulness of driver' s eye movement measurement to detect potential risks under combined conditions of taking second-generation antihistamines and calling tasks	共著	2024年 Open Access	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences https://doi.org/10.1186/s40780-024-00383-5 (2024) 10:62
市川 智恵	Identification of heparin-binding proteins expressed on Trichosporon asahii cell surface トリコスポロンアサヒ菌体表層に発現するヘパリン結合タンパク質の同定 (査読付)	共著	2024年 5月	Yeast. https://doi.org/10.1002/yea.3928
市川 智恵	Identification of the cell-surface lectin domain-containing protein expressed in the adhesive colony morphology of Trichosporon asahii 高接着性トリコスポロンアサヒコロニー形態株の菌体表層に発現するレクチンドメイン保有タンパク質の同定 (査読付)	共著	2024年 12月	Medical Mycologyhttps://doi.org/10.1093/mmy/myae119
加藤 英明	神奈川県におけるコロナ禍とメンタルヘルスに関するデータ解析	共著	2024. 11. 26	ISSN0451-3177 神奈川県公衆衛生学会誌、第70号、57-59 (2024) 加藤英明、曾川甲子郎、細谷龍一郎、浅野哲、鈴木勉
加藤 英明	神奈川近郊の河川・海域における薬剤耐性菌に関する実態調査	共著	2024. 11. 26	ISSN0451-3177 神奈川県公衆衛生学会誌、第70号、14-15 (2024) 曾川甲子郎、加藤英明
加藤 英明	日本における薬物の乱用、依存の現状と問題点 (総説)	共著	1905年7月	ペインクリニック、45巻8号、839-846 (2024) 鈴木勉、加藤英明、船田正彦
加藤 英明	Novel sterilization method of Bacillus atrophaeus and Geobacillus stearothermophilus spores by low concentration chlorine dioxide gas (査読あり)	共著	2024. 11. 3	Journal of Microorganism Control 29(4), 153-156 (2024) Sogawa Koushirou, Tagishi Hideaki, Kato Hideaki, Shibata Takashi, Miura Takanori
加藤 英明	令和6年度分担研究報告書 幻覚発現物質の評価検証を目指した試験法の開発 (査読あり)	共著	2025. 3. 31 発刊予定	令和6年度厚生労働科学研究費補助金「指定薬物の指定に係る試験法の評価検証に資する研究」課題番号：22KC1005、厚生労働省 鈴木勉、加藤英明
竹内 尚子	薬局実務実習指導パーフェクトマニュアル (第6版)	共著	2024年9月	日経BP
竹内 尚子	地域連携薬局機能向上 事業報告書	共著	2024年6月	神奈川県
竹内 尚子	薬局における疾患別対応 マニュアルへ患者支援の更なる充実に向けて～ 精神疾患 (気分障害) (統合失調症) (認知症) (睡眠障害)	共著	2025年2月	厚生労働省
寺島 朝子	薬局薬剤師を対象とした双方向・参加型オンライン無菌製剤処理実務研修の構築 (査読付)	共著	令和6年9月	医薬品相互作用研究, 48(2), 77-82
寺島 朝子	Investigation on the effects of the route of administration on nicotine-induced hiccups using FDA adverse events reporting system (査読付, アクセプト)	共著	2025年2月現在 投稿中	Chem-Bio Informatics Journal, Vo. .20, pp. xx-yy(2025)
鳥越 一宏	ICT活用によるデータヘルス改革と薬剤師の展望	単著	2024年12月	日本薬学会, ファルマシア 60(12): 1125-1129.
鳥越 一宏	Construction and Evaluation of a Program Designed to Support Self-Others Understanding Emphasizing Perspectives on Life and Death for Pharmacy Students (薬学生を対象とする死生観に着目した自己他者理解支援プログラムの構築と評価)	共著	2025/4/1 掲載予定 アクセプト済	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会会誌, 23(1)2025.
池上 大悟	危険ドラッグ誘発幻覚作用の測定法開発に関する研究	共著	2025年 3月	厚生労働科学研究費補助金 (医薬品・医療機器等レギュトリーサイエンス政策研究事業) 指定薬物の指定に係る試験法の評価検証に資する研究 (22KC1005) 令和6年度 総括研究報告書
池上 大悟	Cortical kappa opioid receptors integrate negative affect and sleep disturbance	共著	2024年 10月	Transl Psychiatry, 14(1):417
池上 大悟	Sirtuin 3 Mediated by Spinal cMyc-Enhancer of Zeste Homology 2 Pathway Plays an Important Role in Human Immunodeficiency Virus-Related Neuropathic Pain Model	共著	2024年 9月	Anesth Analg, 139(3):647-659
市丸 嘉	(5-Fluoro-2,6-dioxo-1,2,3,6-tetrahydropyrimidin-1-ido- κ NI)(1,4,8,11-tetraazacyclotetradecane- κ 4N)zinc(II) perchlorate「査読付」(表題化合物の結晶構造)	共著	令和6年5月	IUCrdata, (2024): 9(5), p. x240431.

氏名	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称
市丸 嘉	[1-(Anthracen-9-ylmethyl)-1, 4, 7, 10-tetraazacyclododecane]chloridozinc(II) nitrate「査読付」(表題化合物の結晶構造)	共著	令和6年7月	IUCrdata, (2024); 9(7), p. x240665.
市丸 嘉	Chemical constituents of five Saxifraga species and their virucidal activities「査読付」(ユキノシタ科5種の化学成分とそのウイルス不活化活性)	共著	令和6年9月	Fitoterapia, (2024); 179, p. 106215.
市丸 嘉	Design, synthesis and characterization of 1-(anthracen-9-ylmethyl)-1, 5, 9-triazacyclododecane (Ant-[12]aneN3) and its DNA photocleavage activity「査読付」(1-(アントラセン-9-イルメチル)-1, 5, 9-トリアザシクロドデカン(Ant-[12]aneN3)の設計、合成、特性評価およびそのDNA光切断活性)	共著	令和7年2月	Chemical and Pharmaceutical Bulletin, (2025); 73(2), p. 103.
浦 裕之	The Current Status of Utilizing a Medication Record Handbook for Evaluating Shared Medication History: A Retrospective Study Using the Japanese National Claims Database (お薬手帳を用いた情報共有の現状: NDBデータベースを用いた後方視的研究) (査読付)	共著	令和6年4月	Cureus 16(4): e59096
浦 裕之	Treatment for Dry Skin and an Unpleasant Smell: Development of Moisturizer with Deodorant for Maintaining a Good Skin Condition (皮膚の乾燥と不快な臭いの治療: 良好な皮膚状態を維持するためのデオドラント配合保湿剤の開発) (査読付)	共著	令和6年7月	International Journal of Pharmaceutical Research 30(7): 309-320
浦 裕之	Trends in prescription of anti-seizure medications in Japan between 2018 and 2021: A retrospective study using the National Database Open Data Japan. (2018年から2021年にかけての日本における抗てんかん発作薬の処方動向: NDBオープンデータをを用いた後方視的研究) (査読付)	共著	令和6年10月	Epilepsy & Behavior 159:109949
浦 裕之	Potential of Aluminum Drug Packages with Press-Through Packaging Considering Usability for a Wide Range of Users (幅広い使用者の使い勝手を考慮したプレススルー包装のアルミ製医薬品包装の可能性) (査読付)	共著	令和6年11月	Med Devices (Auckl) 17:441-453, 2024
小田中 啓太	Fluphenazine is effective against Candida auris infection. (査読付き)	単著	2024年6月	Proc Natl Acad Sci India, Sect B Biol Sci. doi: https://doi.org/10.1007/s40011-024-01599-z.
小田中 啓太	A Pharmacoeconomic Study of Post-Exposure Prophylaxis Strategies for Influenza Virus Infections in Japan. (査読付き)	共著	2025年2月	Adv Ther. 2025 Feb;42(2):772-787. doi: 10.1007/s12325-024-02988-6.
加藤 紘一	Theoretical Studies on the Reaction Mechanism of Schiff Base Formation from Hexoses.	共著	2024年5月	The Journal of Physical Chemistry B, 128, 4952-4958
加藤 紘一	(5-Fluoro-2, 6-dioxo-1, 2, 3, 6-tetra-hydro-pyrimidin-1-ido-κ N 1) (1, 4, 8, 11-tetra-aza-cyclo-tetra-decane-κ 4 N)zinc(II) perchlorate	共著	2024年5月	IUCrdata, 9, x240431
加藤 紘一	Computational Estimation of Residues Involving Resistance to the SARS-CoV-2 Main Protease Inhibitor Ensitrelvir Based on Virtual Alanine Scan of the Active Site.	共著	2024年5月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 47, 967-977,
加藤 紘一	[1-(Anthracen-9-ylmeth-yl)-1, 4, 7, 10-tetra-aza-cyclododeca-ne]chlorido-zinc(II) nitrate	共著	2024年7月	IUCrdata, 9, x240665
加藤 紘一	Molecular Dynamics Simulations of Putative Primitive Proteins Including β-Aspartic Acid Residues	共著	2025年1月	Bulletin of the Chemical Society of Japan, 98, uoae143
坂本 沙祐里	Study on the mechanism of novel antimalarial drug candidate, 1, 2, 6, 7-tetraoxaspiro-[7. 11]-nonadecane (N-89)	共著	2024年2月	The Shujitsu University Journal of Pharmaceutical Sciences Volume 11, p. 9-19, 2024
坂本 沙祐里	新規抗マラリア薬候補化合物, 1, 2, 6, 7-tetraoxaspiro[7. 11]nonadecane (N-89) の作用機序に関する研究	単著	2024年3月	就実大学学術機関リポジトリ 2024年3月
殿山 泰弘	Proteomic analysis of adult T-cell leukemia/lymphoma: A biomarker identification strategy based on preparation and in-solution digestion methods of total proteins (査読付き) (成人T細胞白血病/リンパ腫のプロテオーム解析: 全タンパク質の調製およびゲル内消化に基づくバイオマーカー同定戦略)	共著	2024年3月	Leukemia Research, 138, 107454.
中橋 奨	Role of oral food intake amount in intestinal absorption of morphine in rats	共著	2025年2月	International Journal of Pharmaceutical Research and Applications
細谷 龍一郎	神奈川県におけるコロナ禍とメンタルヘルスに関するデータ解析	共著	2024年10月	発表雑誌: 神奈川県公衆衛生学会誌 巻: 70 号: 23 頁: 57-59
細谷 龍一郎	Investigation on the effects of the route of administration on nicotine-induced hiccups using FDA adverse events reporting system	共著	2025年3月	発表雑誌: Chemo-Bio Informatics Journal 巻: 25
曾川 甲子郎	Novel sterilization method of Bacillus atrophaeus and Geobacillus stearothermophilus spores by low concentration chlorine dioxide gas	共著	令和6年12月	Journal of Microorganism Control
田中 怜	緩和薬物療法を中心とした薬剤師業務に関連する医療事故に対するシステム構築	共著	2024年7月	医療事故・紛争対応研究会誌 16 15-24
田中 怜	A nationwide survey on medication follow-up care by community pharmacists: From The Japanese Nationwide Pharmacy Collaboration Survey in 2023-	共著	2024年8月	AKUGAKU ZASSHI 144 (8) 805-813

氏名	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
田中 怜	Safety and efficacy of combined injection of pure- μ -opioid agonist with tramadol as an opioid induction agent for opioid naïve cancer patients	共著	2024年8月	Palliative Medicine Reports 5(1) 340-349
田中 怜	Comparison of Continuous Subcutaneous Hydromorphone Hydrochloride and Morphine Hydrochloride Injection on Skin Disorders Incidence: A Retrospective Study	共著	2024年12月	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 10(82) 1-7
田中 怜	Effect of Dental Follow-Up on Dental Consultation and Checkup Rates for Patients With Diabetes: A Multicenter Before-After Study	共著	2024年12月	Cureus 16(12) e75145
田中 怜	Incidence of Delirium during the Initiation Phase of Morphine and Hydromorphone Medications in Cancer Patients: A Retrospective Comparative Study	共著	2025年1月	Canadian Journal of Hospital Pharmacy 78(1) e3515
田中 怜	Prophylactic Perioperative Fluid Infusion Strategy During Splanchnic Nerve Neurolysis to Prevent Systemic Hypotension: A Case Series of 70 Patients With Cancer	共著	2025年1月	Pain Physician 28(1) 51-57
田中 怜	Low-dose add-on methadone for cancer pain management: a retrospective analysis of 102 Japanese patients	共著	2025年2月	Japanese Journal of Clinical Oncology 55(2) 123-130
田中 怜	Splanchnic neurolysis for severe cancer pain caused by abdominal paraaortic lymph node metastasis	共著	2025年2月	Supportive Care in Cancer (in press)
青島 恵美子	1 原著 産婦健康診査で要支援となった母親に対する保健師の対応（査読付き）	共著	2024年11月	日本公衆衛生雑誌 71(11)
青島 恵美子	2 原著 宿泊型産後ケアにおける助産師のケアの質指標の開発一適切性・重要性・実行可能性の検討一（査読付き）	共著	2025. 3印刷中	日本母性看護学会誌 25(2)
澤井 美奈子	1パイオテロに対する保健師の研修経験および知識・認識の現状	共著	1905年7月	日本公衆衛生雑誌 (0546-1766) 71巻6号 Page314-322
澤井 美奈子	2管理期研修をととした自治体と大学の協働	共著	1905年7月	保健師教育Vol.8 No. 1
澤井 美奈子	3看護師課程における地域看護学実習の取り組み	共著	1905年7月	第13回日本公衆衛生看護学会
山崎 真帆	2 ラダーⅠ研修修了生の会 ラダーⅠつながる会の活動報告	共著	2024年8月採 択、 2025年5月発行 予定	全国保健師教育機関協議会「保健師教育」

(3) その他の学術論文

氏名	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
川本 利恵子	1. 日本看護系大学協会： 2023年度事業活動報告書	共著	2024年6月1刊行	一般社団法人 日本看護系大学協議会 刊行
川本 利恵子	2. 2023年度 厚生労働省委託事業：「特定行為研修の組織定着化支援事業推進に係るワークショップ等開催事業」実施報告書	共著	2024年4月	一般社団法人 日本看護協会認定看護 師教育課程刊行
川本 利恵子	3. 2024年度 厚生労働省委託事業：「特定行為研修の組織定着化支援事業推進に係るワークショップ等開催事業」第1回ワークショップ	共著	2024年9月	一般社団法人 日本看護協会認定看護 師教育課程部署
川本 利恵子	4. 2024年度 厚生労働省委託事業：「特定行為研修の組織定着化支援事業推進に係るワークショップ等開催事業」シンポジウム	共著	2025年2月	一般社団法人 日本看護協会認定看護 師教育課程部署
曾川 甲子郎	神奈川県近郊の河川・海域における薬剤耐性菌に関する実態調査	共著	令和6年11月	神奈川県公衆衛生学会誌
曾川 甲子郎	神奈川県におけるコロナ禍とメンタルヘルスに関するデータ解析	共著	令和6年11月	神奈川県公衆衛生学会誌

(4) 学会発表

氏名	著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称
片山 典子	8『看護学生・看護職が「睡眠」について学ぶ意義：精神保健看護領域における睡眠教育の展開を目指して』	共著	令和6年6月1日	日本精神保健看護学会 第34回学術集会・総会
片山 典子	9『医療従事者・医療系学生の睡眠問題への挑戦：看護職・看護学生の睡眠について考える』	共著	令和6年12月8日	日本看護科学学会 第44回学術集会
片山 典子	10『市販薬乱用予防に関する国外文献レビュー』	共著	令和6年12月15日	日本アディクション看護学会 第22回学術集会
片山 典子	11『薬物依存症者の回復を示す生理学的変化の指標についての文献検討』	共著	令和6年12月15日	日本アディクション看護学会 第22回学術集会
片山 典子	12『日本におけるIDDMと摂食障害を併発した患者の文献レビュー』	共著	令和6年12月15日	日本アディクション看護学会 第22回学術集会
片山 典子	13『未就学児をもつ養育者のインターネット使用と育児ストレスとの関連』	共著	令和6年12月15日	日本アディクション看護学会 第22回学術集会
相澤 恵子	3. 看護師養成所2年課程（通信制）の看護教員を対象とした研修教材の開発にむけた学習ニーズの調査	共著	2024年12月	第44回日本看護科学学会学術集会（熊本県：熊本城ホール・市民会館シアーズホーム夢ホール）
相澤 恵子	4. 看護師養成所2年課程（通信制）教員研修ツールの作成のプロセス	共著	2024年12月	第44回日本看護科学学会学術集会（熊本県：熊本城ホール・市民会館シアーズホーム夢ホール）
相澤 恵子	6. Care Needs of Women Who Have Given Birth to Twins: Focusing on the Impact of Assisted Reproduction and the Experience of Miscarriage	共著	2025年2月	15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars (COEX, Seoul, Korea)
相澤 恵子	7. Effects of Learning Support Materials for Nurse Managers on Promoting Child- and Family-Centered Care During Peripheral Venous Line Placement: A Quasi-Experimental Study	共著	2025年2月	15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars (COEX, Seoul, Korea)
陶山 克洋	3 陶山克洋，片山典子：日本におけるIDDMと摂食障害を併発した患者の文献レビュー（査読あり）	共著	2024年度	第22回日本アディクション看護学会学術集会 2024/12/14-15開催
渡部 李菜	1 市販薬乱用予防に関する国外文献レビュー（査読付）	共著	2024年12月	第22回日本アディクション看護学会学術集会（埼玉）
大森 圭貢	Integration of behavioral, physical and engineering technologies for advancing cutting edge of preventative rehabilitation and health promotion	Chair <u>Yoshitsugu OMORI</u>	令和6年5月	ABAI 50th Annual Convention; Philadelphia, PA; 2024
大森 圭貢	Improving behavioral fluency in chopstick manipulation with non-dominant Hand by behavioral skills training and everyday practice in older people	<u>Yoshitsugu OMORI</u> , Yuji MORIO, Yoshimi SAKURAI, Satoru SEKINE, Mikayo OMORI, Junichi YAMAMOTO	令和6年5月	ABAI 50th Annual Convention; Philadelphia, PA; 2024
大村 優慈	1 生後1ヵ月で左中大脳動脈領域全域の脳梗塞を呈した乳児の発達経過	共著	2024年9月	第22回日本神経理学療法学会学術大会
大村 優慈	2 脳画像から重度右片麻痺と失語症が予想されたが，実際には予想よりも症状が軽度であった脳梗塞再発例	共著	2024年9月	第22回日本神経理学療法学会学術大会
大村 優慈	3 左放線冠での脳梗塞再発により既往の左片麻痺が増悪した症例	共著	2024年9月	第22回日本神経理学療法学会学術大会
大村 優慈	4 脳の加齢変化が脳卒中後の運動機能回復に与える影響	単著	2024年9月	第22回日本神経理学療法学会学術大会
大村 優慈	5 回復期脳卒中患者の上下肢痙縮に対する拡散型体外衝撃波の即時効果と持続効果	共著	2024年11月	第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会
大村 優慈	6 急性期右前頭前野障害に対し神経心理ピラミッドを用いた病態把握と連携によりトイレ移動自立に至った症例	共著	2024年11月	第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会
大村 優慈	7 理学療法体験記を用いた入学前教育が入学者の職業理解と意欲に与える影響	共著	2024年12月	第13回日本理学療法教育学会学術大会
増田 雄亮	1. 生活期脳卒中患者に対する自主訓練型上肢機能訓練の短期効果および長期効果	共著	令和6年11月	第58回日本作業療法学会（札幌）
増田 雄亮	2. エビデンスに基づく実践自己評価尺度EBPSAの再検査信頼性に関する検討	共著	令和6年11月	第58回日本作業療法学会（札幌）
増田 雄亮	3. Survey Research on Factors Promoting Evidence-Based Practice among Occupational Therapists in Japan: A Cross-Sectional Study	共著	令和6年11月	The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress
増田 雄亮	4. Reliability of the Evidence-Based Practice Self-Assessment among Rehabilitation Professionals Working in Acute-Care Wards.	共著	令和6年11月	The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress
増田 雄亮	5. Enhancing Occupational Therapists' Evidence-Based Practice Skills and Professional Identity Through Expertise-Based Educational Programs	共著	令和6年11月	The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress
石田 洋一	成人T細胞白血病（ATL）のプロテオーム解析；同定タンパク質と病態進展因子Taxの発現相関	共著	2024年8月	日本患者由来がんモデル学会・日本ヒト細胞学会 合同学術集会2024
石田 洋一	基礎と臨床をつなぐ取り組みとしての生物系基礎科目；1年次後期「生化学Ⅰ」の例	共著	2024年8月	第9回日本薬学教育学会大会
石田 洋一	小型魚類メダカを用いた生物学実習プログラムの構築	共著	2024年8月	第9回日本薬学教育学会大会

氏名	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
石田 洋一	成人T細胞白血病／リンパ腫（ATL）のプロテオーム解析：ウイルス因子Taxとの相関	共著	2024年11月	第47回日本分子生物学会年会
湯本 哲郎	薬学生の学修支援改革－取組事例・課題の共有と新たなアプローチに向けた提言－	共著	2024年8月	第9回 日本薬学教育学会 大会
加藤 英明	大規模副作用データベースを用いたレベチラセタム誘発性の易怒性、攻撃性副作用の調査研究	－	2024. 20-21	第10回日本医薬品安全性学会（新潟，新潟県） 細谷龍一郎，北島健士，曾川甲子郎，池上大悟，寺島朝子，加藤英明，船田正彦，植沢芳広，加賀谷肇
加藤 英明	コロナ禍に伴うストレスとメンタルヘルスに関するデータ解析	－	2024. 11. 2-3	第40回日本ストレス学会学術集会（宇都宮，栃木県） 加藤英明，曾川甲子郎，細谷龍一郎，寺島朝子，池上大悟，船田正彦，加賀谷肇，鈴木 勉
加藤 英明	神奈川県におけるコロナ禍とメンタルヘルスに関するデータ解析	－	2024. 11. 26	第70回神奈川県公衆衛生学会（横浜，神奈川県） 加藤英明，曾川甲子郎，細谷龍一郎，寺島朝子，池上大悟，船田正彦，加賀谷肇，鈴木 勉
加藤 英明	神奈川近郊の河川・海域における薬剤耐性菌に関する実態調査	－	2024. 11. 26	第70回神奈川県公衆衛生学会（横浜，神奈川県） 曾川甲子郎，加藤英明
加藤 英明	ヒトiPS細胞を用いたCBDの発達神経毒性予測法に関する研究	－	2025. 3. 26-29 （発表予定）	曾川甲子郎，細谷龍一郎，池上大悟，加藤英明，船田正彦
浦 裕之	薬学共用試験対策演習における知識構成型ジグソー法の実践例	共著	令和6年8月	第9回日本薬学教育学会大会（東京）
浦 裕之	Prescribing trends of anti-seizure medication between 2018-2021: A retrospective study using NDB Open Data Japan（2018年から2021年にかけての日本における抗てんかん発作薬の処方動向：NDBオープンデータを用いた後方視的研究）（English Session）	共著	令和6年9月	第57回日本てんかん学会学術集会（福岡）
殿山 泰弘	小型魚類メダカを用いた生物学実習プログラムの構築	共著	2024年8月	第9回日本薬学教育学会大会
殿山 泰弘	基礎と臨床をつなぐ取り組みとしての生物系基礎科目：1年次後期「生化学Ⅰ」の例	共著	2024年8月	第9回日本薬学教育学会大会
殿山 泰弘	成人T細胞白血病/リンパ腫（ATL）のプロテオーム解析：ウイルス因子Taxとの相関	共著	2024年11月	第47回日本分子生物学会年会
細谷 龍一郎	薬剤性吃逆（しゃっくり）と関連する核内受容体の検討	共著	2024年5月	第17回日本緩和医療学会年会
細谷 龍一郎	大規模副作用データベースを用いたレベチラセタム誘発性の易怒性、攻撃性副作用の調査研究	共著	2024年7月	第10回日本医薬品安全性学会学術大会
細谷 龍一郎	薬学部における災害教育の取り組みとテキスト解析における学習効果の評価	共著	2025年2月	第12回日本災害医療薬剤師学会 学術大会
田中 怜	放射性医薬品；ルテチウムオキシドトレオチド（ ¹⁷⁷ Lu）注射液の取扱いにおける薬剤師教育プログラムの構築	共著	2024年5月	第9回日本がんサポーターティブケア学会学術集会
田中 怜	当科における310例のがん疼痛患者に対するメサドンの投与経験	共著	2024年5月	第9回日本がんサポーターティブケア学会学術集会
田中 怜	Bone Modifying Agents の早期使用に関する文献的検証－骨転移診断から6 ヶ月以内の BMA 使用はSRE 発症を延長する－	共著	2024年5月	第9回日本がんサポーターティブケア学会学術集会
田中 怜	頭頸部癌RT/CRT中の口腔粘膜炎による疼痛に2%モルヒネ水含嗽が著効した経験	共著	2024年5月	第17回日本緩和医療学会年会
田中 怜	薬学部実務実習生を対象とした緩和薬物療法提案能力の向上を目的とするアカデミック・ディテール教育の実施調査報告	共著	2024年5月	第17回日本緩和医療学会年会
田中 怜	院内製剤：ミアンセリン坐剤およびペロスピロン坐剤における経時的安定性および保管法の検討	共著	2024年5月	第17回日本緩和医療学会年会
田中 怜	がん患者の骨病変関連疼痛195症例に対するメサドンの使用経験	共著	2024年6月	第29回日本緩和医療学会学術大会・第37回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会
田中 怜	傍腹部大動脈リンパ節腫大に伴う腹痛・腰背部痛に対する内臓神経ブロックの効果～16症例における検討～	共著	2024年7月	日本ペインクリニック学会第58回学術集会
田中 怜	睡眠薬アカデミック・ディテール教材の作成と薬学実務実習での運用	共著	2024年8月	第9回日本薬学教育学会大会
田中 怜	薬学3年生を対象とした薬学総合ブレ研究における薬物治療学研究室の取り組み	共著	2024年8月	第9回日本薬学教育学会大会
田中 怜	薬学共用試験（CBT）対策演習における知識構成型ジグソー法の実践例	共著	2024年8月	第9回日本薬学教育学会大会
田中 怜	メサドンと他のオピオイドとの併用例の検討	共著	2024年8月	第43回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム
田中 怜	アベマシクリブによる有害事象発現のリスク因子解析及び生存期間に及ぼす影響の検討：多機関共同後方視的観察研究	共著	2024年11月	第34回日本医療学会年会
田中 怜	薬学部実務実習生を対象としたアカデミック・ディテール教育の実践と効果	共著	2024年11月	第34回日本医療学会年会
田中 怜	薬学生の基礎薬学分野の学修支援を行う“薬学かるた”の作成と教育効果	共著	2024年11月	第34回日本医療学会年会

氏名	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
田中 怜	乳がん患者の骨転移診断後6ヶ月未満のビスホスホネートおよびデノスマブ使用は、6ヶ月以降の使用よりSRE発症を延長する	共著	2024年11月	第34回日本医療薬学会年会
田中 怜	バルボシクリブによる有害事象発現のリスク因子解析及び生存期間に及ぼす影響の検討：多機関共同後方視的観察研究	共著	2025年3月	第14回日本臨床腫瘍薬学会学術大会2025
田中 怜	SGLT2阻害薬がペパシズマブによる蛋白尿発現までの期間を延長させる可能性を見据えた予備的調査	共著	2025年3月	第14回日本臨床腫瘍薬学会学術大会2025
今野 和穂	1. Symptoms Experienced by Japanese Women during Menopausal Transition: Narratives from Focus Group interviews	共著	2024年10月	第19回World Congress on Menopause (IMS).メルボルン, オーストラリア. 発表
今野 和穂	2. 更年期にある女性が感じる主観的な心身の状態や変化に関する文献検討	共著	2024年10月	第22回日本更年期と加齢のヘルスケア学会. オンライン, 日本. 発表.
山崎 真帆	3 看護師課程における地域看護学実習の取り組み	共著	2025年1月	第13回日本公衆衛生看護学会学術集会
山崎 真帆	4 集まろう、つながろう、話そう、今日から活かせる教育実践のあれこれ	共催	2025年1月	第13回日本公衆衛生看護学会学術集会

(5) 研究補助金等外部資金の受入れ状況（科研費・外部資金等）

【看護学科】

代表者名	研究課題	助成元
望月 千夏子	中小企業の技能実習生のヘルスリテラシー育成プログラムの開発（研究分担者）	科研費 基盤研究（C）
内藤 亜由美	高齢者褥瘡のシームレスケアモデルの構築：マルコフモデルを用いた分析（研究分担者）	科研費 基盤研究（C）
小林紀明	介護支援専門員の協働的能力における家族介護者支援に関する研究	科研費 基盤研究（C）
倉田慶子	多職種と共に在宅重症心身障害者と母親を支援するプログラムの開発	科研費 若手研究
望月 千夏子	中小企業の技能実習生のヘルスリテラシー育成プログラムの開発（研究分担者）	科研費 基盤研究（C）

【リハビリテーション学科理学療法専攻】

代表者名	研究課題	助成元
斉藤琴子	非利き手での箸操作練習の効果を表面筋電図で可視化して評価しよう！	科研費 ひらめき☆ときめきサイエンス

【リハビリテーション学科作業療法専攻】

代表者名	研究課題	助成元
鈴木雄介	社会的行動障害の症状を有する脳損傷患者の家族介護者への支援プログラムの構築	科研費 基盤研究（C）（一般）
岡本絵里加	認知症の人を理解するパーソンセンタードケアに基づいた認知症教育プログラムの開発	科研費 研究活動スタート支援

【薬学部】

代表者名	研究課題	助成元
市川 智恵	トリコスポロンの高病原性コロニーに発現する病原因子と感染メカニズム	科研費 基盤研究（C）

石川 吉伸	AS-MS による PD-1ーPD-L1 低分子阻害剤の深索	科研費 基盤研究(C)
加藤 紘一	AS-MS による PD-1ーPD-L1 低分子阻害剤の深索 (分担者)	科研費 基盤研究(C)
塩田 清二	脊髄損傷後の PACAP の神経新生・再生作用により修復メカニズムの解明 (分担者)	科研費 基盤研究(C)
曾川 甲子郎	ヒト iPS 細胞を用いた神経毒性物質の高感度検出システムの開発	科研費 基盤研究(C)
塩田 清二	スポーツアロマによるマイオカイン分泌促進作用の分子基盤	科研費 基盤研究(C)
田中 怜	内服困難な患者にも使用可能なガバペンチノイド系全身作用型鎮痛外用剤の開発	科研費 基盤研究(C)

2) 茅ヶ崎看護専門学校

①国家試験結果

国家試験全員合格を目指し取り組んできたのだが、結果としては、2024 年度看護師国家試験合格率 93.7% 必修問題学内平均 46/50 点、一般・状況学内平均 177/250 点（全国平均 90.1%。必修 46.2/50 点、一般状況 179.2/250 点）と、合格率は全国平均を上回る結果にはなったが 100%達成とはならなかった。

②休退学防止

今年度は原級留置き者を出さないことを目標に取り組んだ。結果として 15 名（1 年 9 名、2 年 3 名、3 年 3 名）が退学。主な理由は以下 4 点であった。

（1）進路変更（2）体調不良（疾病）（3）精神不安（4）学習意欲喪失

進路変更が 10 名と一番多く、看護師になるという強い職業意識を持ってないまま入学して退学する者が増加傾向にある。今後も、入試での見極め、学校説明会において動機づけを維持していくような取り組みを継続していき、事前に問題に気づき解決する関わり方も再度徹底していく。

③志願者・入学者の確保

社会人の出願者数は 2023 年度 19 名に対し 2024 年度は 9 名と半数以下の結果と推薦入試にいたっては 2024 年度 0 名と、公募推薦に対する高校の指導においても変化が見られていると考えられる。

また、ふれあいグループ勤務者と関係者を対象にした「ふれあい特別推薦入試」からの出願者獲得が 2022 年度より 3 ヶ年連続した入学者の獲得を達成できており、今後も引き続きふれあいグループ医療関係者として資格取得希望者など潜在的にいる対象者の募集活動に努めていく。

看護系希望者が減少とされる背景には、18 歳人口の減少から大学全入とされる社会情勢が大学志向の加速を後押しし、通信・サポート校への進学者増加や公立高校の統廃合も進むなかで学力への不安や分野難易度の敬遠傾向が見られている。そのため、今までの指定校や重点高校だけではなく、通信制・定時制の高校などにも、高校訪問先の拡大を行う必要がある。

AO 入試が 2023 年度 29 名から 2024 年度 32 名と総数が増加したが、実施回数を 2 回から 4 回に増やしているため、1 回平均が 14.5 名から 8 名と大きく減少している。

さらに指定校推薦が 15 名から 7 名と大幅な減数となり、進路決定時期など年度毎の傾向が異なっているが、専門学校との差別化以外にも大学との競合視点も必要となっている。結果 46 名（昨年 68 名）の入学実績であり、今後の学生確保において志望度の高い看護師希望者との接触契機拡

大と、継続フォローによる重点的な個人へのアプローチを強化した募集活動が求められると考える。

④ふれあいグループへの就職促進

ふれあい奨学金受給者は、各学年 40 名を目標とし、ふれあい奨学金受給の説明・採用・受給の対応を支援したが、3 年生 42 名、2 年生 37 名、1 年生 38 名の計 117 名が受給となった。

ふれあいグループ就職者は、80 名定員のうち、60 名（75%）を目標とし、卒業生 65 名中、55 名（84.6%）が就職した。ふれあい奨学金を受給していない 13 名が就職した。

今後も、受給者・就職者共に増加するように支援していく。

3) 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校

①休・退学防止

理学療法学科 18 名（1 年 15、2 年 0、3 年 1、4 年 2）、作業療法学科 4 名（1 年 1、2 年 3、3 年 0、4 年 0）、言語聴覚学科 7 名（1 年 7、2 年 0）計 29 名の退学者を出した。

理学療法学科は、2024 年度は特に 1 年次の退学者が激増した。入学希望者の減少に伴う全入の影響は大きく、学内教育で改善に至らない低学力の学生に対する教育方針の再検討が必要である。学生数が少ないことや 2026 年度生からの募集停止を踏まえ、進級と卒業を第一優先にした学生対応に変更を行う。よって、今後も休退学者数は低く保たれるだろうが、国家試験合格率の低下が懸念される。言語聴覚学科は、2024 年度の 1 年次の休退学者数が大幅に増加した。家庭の事情や本人の体調の問題が主なものであるため防止策を講じることは難しいが、可能な限りクラス運営の中でフォローアップの体制を強化する必要がある。

②国家試験合格率

理学療法学科は 2 年連続の全国平均以上の 98%、作業療法学科は初めての 100%、言語聴覚学科は安定の 80% 台後半と、3 学科とも最低目標である全国平均以上の数字を残すことができた。各科の国家試験対策が毎年改良を重ねて取り組んでいることが功を奏したと考える。また、新年度は、理学療法学科の 62 名中 8 名が留年経験者であることは注意すべき点で、より手厚い指導と管理が必要となる。昨今は個々の学生の気質に合わせたサポートが望まれる中で、出来る限りの指導と適正な評価の実施といった対策を継続する。

③学生募集の強化

コンタクト者数	前年とはほぼ同数で横ばいであったが結果的には来校者が大幅に減少した。
来校者数	大学の設置等に伴う諸問題により募集活動の出遅れが最後まで影響し、来校者数は激減した。医療系全体の人気の翳りをはじめ、予測できなかった要件がいくつかある。
出願者数	前年と比較して、理学療法学科-12 名、言語聴覚学科+1 名 理学療法学科の減少傾向に歯止めがかからない。
出願率	学校説明会に来てくれさえすれば、高い出願率の自信があったが、来校しない限りは歩留まりに結びつかない。大幅な来校者の減少が結果として出願率の大きなマイナスにつながった。

④就職指導(グループへの就職希望者の増大、グループとの連携強化)

令和 6 年度は 46 名(52.9%)の学生をグループに入職させることができた。
グループ施設での臨床実習で卒業生による熱心な指導・活躍する現場を体験しグループの理念に共感し

就職を希望する学生は年々増えている。

一方で入職予定者の中には問題(成績不良・対人能力が低い・合理的配慮が必要等)を抱え、将来の国試合格・臨床現場への適応が懸念される学生もあり、今後は職場への順応・離職防止策として人事課・学校・配属先がこのような学生の情報・対応方法等の共有を効率よくできるシステムをより充実させていく必要がある。

言語聴覚学科は理学療法学科、作業療法学科より就職希望者が少なく、就職説明会・就職面談にて入職の利点をしっかり周知すると共に優秀な人材には早期から積極的に働きかける必要がある。さらに、社会人経験や既婚者の多い学科であることを考慮し、希望勤務地に入職できる工夫をすることも改善策の1つである。

4) 湘南医療大学附属下田看護専門学校

① 入学試験状況

年度	結果	入学者数	充足率	出願者
R 7	定員未達	7	23.3%	10

今年度定員未達となった主な要因は、初動の遅れが最も大きな要因と考える。

また6年連続未達となった要因の1つ目は、少子化・過疎化に伴う少ない新卒者数の減少と考える。

もう一つの逆風が、看護師希望者自体の減少である。全国的に2014年をピークに専門学校の受験者数は約9万5千人から約3万6千人へと約6万人減少した。大学も2019年をピークに減少に転じている。ここ10年で大学数は100校弱増加している中、今年度は2014年実績よりも1万人少ない状況となった。

ここ10年間、大学専門学校の定員は増加してきたが、受験者数は、7万人近く減少している。特に今年は、昨年より高校卒業者が増加しているにも関わらず、前年と比較して2万人も減少しており、看護師希望者の減少は加速している。

次年度以降は、学費減額を行い、ディスアドバンテージが一つ減ることとなる。来年度の効果を期待したい。

② 実習施設との連携

臨地実習指導者会議を活用し、学生のレジネスを共有化し、実習目標の確認・指導要領の確認ができた。同時に、前年度の実習評価から発生した課題への指導方法の確認をすることで、連続性と統一性をもって実習の指導が実施できた。

③ 国家試験の合格率向上(90%以上)を目指す

目標達成は未達となった。

例年同様に教材の十分な活用と学内模試試験を活用したが、合格に至らない学生が11名いた。開校以来2番目に悪い結果となった。准看護師の試験は、全員合格した。不合格の原因としては、当該学年の固有の事情が大きいと考える。クラスの不和、自省の不足、取り組み意識の希薄さなど、この学年が、在学中に解決できなかった課題がそのまま結果につながった。

④ 休退学の防止

休退学を未然に防ぎ、全員卒業を目指していたが、退学者4名が発生し、目標達成は未達となった。

1名は、経済的事情で復学が難しいということで、休学からの退学となった。のこり3名は、看護師を目指していなかったことが主な要因である。それぞれ、自分の新たな進路を見つけそこに進むことを選んだ。今年度も、各学生の個別の事情が大きかったと思われる。

⑤ ふれあいグループへの就職の促進

今年度は、18名／33（54％）がふれあいグループへの入職となった。ふれあいグループへの就職率は、目標未達となった。次年度以降も、奨学金の利用者の減少は、ふれあい就職に影響が見込まれる。

5) 医療ビジネス観光福祉専門学校

① ふれあいグループに有益な人材の供給

介護福祉学科・医療ビジネス学科からグループへ人材を供給することができた。25名のうち14名がグループに入職しており、就職希望者に対して56%となった。

2024年度 ふれあいグループへの就職

介護福祉学科 18名中 9名

医療ビジネス学科 医療事務コース 7名中 5名

次年度も引き続き、各学科とも以下の通りグループへの人材供給を目指す。

介護福祉学科では技術力と実践力を現場実習で磨き、患者・利用者に信頼される介護福祉士の養成を目指す。医療ビジネス学科では必備資格と検定の保有数を増やし、即戦力として活躍できる人材の育成を目指す。

② 休学者・退学者の撲滅

休退学者を出さないために入学前から卒業まで「進学相談」「生活指導」「学習指導」「キャリア指導」を継続的かつタイムリーに実施したが、完全な撲滅には至らなかった。

2024年度 休退学者

2年生 年度当初 47名 退学除籍 0名（うち留学生0名）退学除籍率 0%

1年生 年度当初 68名 退学除籍 4名（うち留学生1名）退学除籍率 5.8%

全体の退学除籍率：3.4%（2023年度 10.8% 2022年度：7.6%）

在籍者総数 115名中、退学除籍者（1、2年合計）4名、うち留学生の退学除籍者が1名

（3.4%）と昨年の 10.8%（2023年度 129名中 14名）よりも減少させることができた

日本人の退学除籍者4名のうち3名が家庭環境及び精神的事由に起因するものであったため、次年度以降はより一層カウンセリング等を活用した休退学防止策を実施する。

③ 魅力ある学校づくり～国家試験、民間資格取得に向けた取り組み

2020年度から引き続き、合格率向上を目標として、ゼミ授業や検定対策及び日々の補習授業や資格直前対策期間を設け、集中的に授業を実施した。その結果、各学科・コースの一人あたりの平均資格取得数と介護福祉試験結果は以下の通りとなった。

学科別平均資格取得数

医療ビジネス学科 平均して 6.9 種

観光学科 平均して 4.2 種

介護福祉学科 介護福祉士試験（国） 18名中 13名合格（合格率 72.2%）

介護福祉学科では、国家試験の結果、13名が合格となり正式に介護福祉士となった。

④ 実習施設との連携

介護福祉学科の施設実習、医療ビジネス学科の病院実習では、多くの施設と連携を取ることが出来、それがグループ施設への入職者数増加にも結び付いたと史料される。

介護福祉学科 連携施設 15 施設

特別養護老人ホーム	ふれあいの森、ふれあいの麗寿、ふれあいの泉 (3 施設)
介護老人保健施設	ヒルズ東戸塚、ふれあいの桜、ふれあいの町田、ふれあいの百合 湘南シルバーガーデン (5 施設)
訪問介護	ふれあい横浜 HP、元町ケアセンター (2 施設)
通所リハビリ	ふれあいの桜、ふれあいの渚 (2 施設)
通所介護	ふれあいの泉、ふれあいの森、元町ケアセンター (3 施設)

医療ビジネス学科 連携施設 12 施設

湘南東部総合病院、茅ヶ崎中央病院、ふれあい東戸塚ホスピタル、ふれあい横浜ホスピタル、ふれあい鶴見ホスピタル、ふれあい平塚ホスピタル、ふれあい鎌倉ホスピタル、さがみ野中央病院、ふれあい町田ホスピタル、湘南さくら病院、康心会汐見台病院、大和成和病院

⑤ カリキュラム再編と指導力向上

全員就職を目標に、エンプロイアビリティを学生に身につけるために全教職員が学生指導に関わり、授業～就職活動～卒業まで一貫した指導内容の充実を図った。

- ・自立した社会人に必要とされる専門スキルと社会人基礎力向上を図り、グループ理念の実践者になるための教育指導を展開した。
- ・学生各人の能力に応じた指導目標を設定し、個別にキャリアカウンセリングを行った上で、就職に活かせる専門技術を身につけさせた。
- ・医療従事者をはじめとする各学科における専門性を身につけるためのカリキュラムと指導を展開し、資格取得対策に力を注いだ。
- ・グループ施設と連携を取り、カリキュラム再編の参考とした。また、指導内容に反映させた。
- ・技術及び能力の顕在化を図った（資格取得、就職先内定など）。

6) 幼保連携型認定こども園みどり幼稚園

○健康 （健康で安全な生活を作り出す視点から捉え、いろいろな状況に思い巡らせ心や体を働かせる）の目標は達成した。

○人間関係 （自立心を育て、人と関わる視点から捉え、他の人々と親しみ思いを巡らせ支えあって生活する）年齢に合わせた取り組みを行った。

○環境 （周囲の環境に好奇心や探究心を持って関わり、生活に取り入れていこうとする視点から捉え、考えたり扱ったりする）自然に触れて生活し、その大きさや美しさ、不思議さなどに気付く。など毎日の保育活動で保育者や友だちの影響を受けて習得することができた。

○言葉 （言葉に対する感覚や言葉で表現する視点から捉え、経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現する）保育者やともだちの言葉、話に興味や関心をもち、親しみを持って聞いたり、話したりする。生活の中で必要な言葉が分かり、使うことができる。親しみを持って日常の挨拶をする。絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。などは日々の園生活の中で培われていった。

○表現 （豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする視点から捉え、感じたことや考え

たことを自分なりに表現する)、作品展などを通して、成果を見ることが出来た。

(教職員)

教職員・保護者と連携・協力をして園児の安全確保に努めた。保育活動や年間行事を計画し、活動や行事を通して園児の成長に繋げた。保育園は毎月、幼稚園は2ヶ月に一回、避難訓練を行い(地震・不審者・火災など)非常時に対応できるよう日頃から危機管理を意識し、日々話し合い、研修などで確認した。ふれあい全体研修会保育部会に参加、専門的知識のスキルアップ、乳幼児の健康管理の対応など再確認、知識を深めた。

湘南医療大学の学生を受け入れ、幼児理解の学習に役立てた。

その他

○ 人事計画及び組織

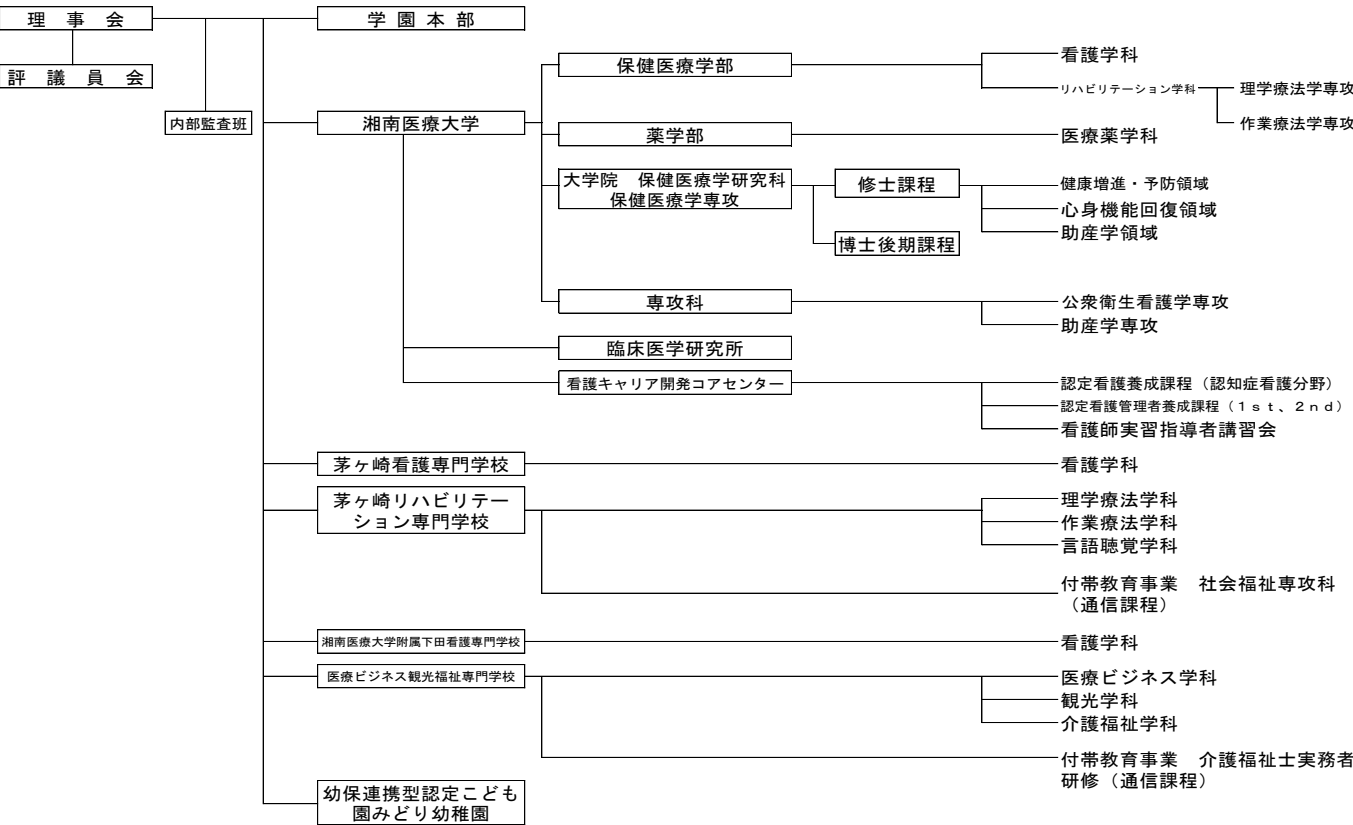
(1) 人事計画

湘南医療大学保健医療学部看護学科は、入学定員増(80名→140名)3年目となった。薬学部は、専任教員の段階的配置計画を踏まえ、教員41名となり、大学全体教員数及び教授数の変更に対応した。また、大学院修士課程に、新領域「医療・マネジメントエグゼクティブ領域」を設置するため、専任教員を1名確保した。さらに、ふれあいグループに介護人材を供給するため、大学に新たに別科介護福祉士学校(2年制)を設置するため、専任教員3名、事務職員1名(2名は現職の異動)確保した。

なお、認定こども園みどり幼稚園及び湘南医療大学附属下田看護専門学校は、慢性的に教員の確保が必要であったため、教員募集サイトの活用及び教員派遣会社への登録を行い、教員の確保に努めた。また、2025年度は、湘南医療大学保健医療学部看護学科専任教員が、湘南医療大学附属下田看護専門学校の複数科目を担当する。

(2) 組織

学校法人湘南ふれあい学園 組織図(2024年度)



○ コンプライアンスの徹底（継続）

- ・学園の規程に則り、理事会、評議員会を実施した。また、各校園での会議、委員会も予定通り開催し、学校運営の充実を図った。
- ・リハビリテーション学科はリハビリテーション教育認証評価を受審し、両専攻とも認証された。
- ・薬学部は、中間認証評価（自己点検評価）が 2025 年度に予定されているため、その準備に向けて、自己評価により達成されていない事項を洗い出して対策を検討した。
- ・各専門学校においては、専修学校各種学校協会の自己点検評価項目に沿って実施し、ホームページに評価結果を公表した。
- ・教職員ハンドブックや職員手帳に基づき、全教職員の入職時に学園の行動指針や行動規範を説明し、コンプライアンスの意識を高めた。

○ 規程の整備

2025（令和 7）年 4 月に施行される私立学校法の改正に合わせ、寄附行為変更認可申請を行い、2025 年 3 月に認可された。また、寄附行為改正に合わせ、他の規程の修正や新規策定を行った。

V 財務状況

（1）決算の概要

①貸借対照表の状況と経年比較

ア）貸借対照表の状況と経年比較

総資産額は、17,447 百万円で前年度に対して 232 百万円の減少、負債総額は 5,516 百万円で前年度に対して 61 百万円の減少となった。負債額の減少は、長期未払金、短期借入金、預り金の減少によるものである。なお、負債額（前受金を除く）の総資産額に占める割合は、23.22%である。

貸借対照表の経年比較

（単位：千円）

科 目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
固定資産	12,825,122	15,182,720	14,606,920	14,339,804	13,888,303
流動資産	4,555,764	3,845,976	3,469,393	3,340,145	3,559,005
資産合計	17,380,887	19,028,697	18,076,313	17,679,950	17,447,309
固定負債	2,724,734	1,037,211	961,887	835,744	3,402,763
流動負債	1,781,642	4,695,303	4,628,069	4,742,365	2,113,565
負債合計	4,506,377	5,732,515	5,589,957	5,578,109	5,516,329
基本金	13,471,970	16,031,469	16,212,351	16,582,127	16,674,687
繰越収支差額	△ 597,461	△ 2,735,287	△ 3,725,994	△ 4,480,286	△ 4,743,707
純資産	12,874,509	13,296,181	12,486,313	12,101,840	11,930,979
負債及び純資産の部合計	17,380,887	19,028,697	18,076,313	17,679,950	17,447,309
減価償却累計額	2,692,263	3,021,632	3,541,795	4,065,098	4,582,184

イ) 財務比率の経年比較

(単位：％)

区 分			2020年度 (R3.3.31)	2021年度 (R4.3.31)	2022年度 (R5.3.31)	2023年度 (R6.3.31)	2024年度 (R7.3.31)
分 類	比 率	算 式 (×100%)					
財 務 状 況	負 債 率	$\frac{\text{総負債} - \text{前受金}}{\text{総資産}}$	18.92%	23.15%	23.17%	23.35%	23.22%
	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総資産}}$	74.07%	69.87%	69.08%	68.45%	68.38%
	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	26.21%	20.21%	19.19%	18.89%	20.40%
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	255.71%	81.91%	74.96%	70.43%	168.39%
	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	82.22%	105.93%	108.62%	110.84%	90.57%
	前受金構成比率	$\frac{\text{前受金}}{\text{現金} + \text{預金}}$	31.69%	38.74%	45.92%	49.72%	47.08%
	前受金保有率	$\frac{\text{現金} + \text{預金}}{\text{前受金}}$	315.59%	258.14%	217.75%	201.14%	212.40%
	繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{負債} + \text{純資産}}$	-3.44%	-14.37%	-20.61%	-25.34%	-27.19%

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(資金収支)

収入：学生生徒等納付金収入は、前年度 2,600 百万円より約 163 百万円の増収で 2,764 百万円となった。また、寄付金収入は、湘南医療大学運転資金の受配者寄付金配布 400 百万、また学校法人の学術研究活動振興、課外活動教育活動振興を目的とする特定公益増進法人に対する寄附 57 百万円を受け、457 百万円であった。補助金収入は、大学経常費補助金等、4 専門学校、幼保連携型認定こども園みどり幼稚園への補助があり、総額として 637 百万円（前年度 590 百万円）であった。前年度繰越支払資金 2,915 百万円により、資金収入合計は 6,991 百万円となった。

支出：人件費 2,222 百万円、教育研究経費 1,085 百万円、管理経費 359 百万円、施設関係支出 38 百万円などとなった。

上記の結果、法人全体として翌年度繰越支払資金は 3,110 百万円となり、期首に比べて 195 百万円増加した。

資金収支の経年比較

(単位：千円)

	科目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
資金収入の部	学生生徒納付金収入	2,261,001	2,261,123	2,447,984	2,600,941	2,764,492
	手数料	43,961	44,294	52,819	43,364	45,420
	寄付金収入	676,072	525,435	100,051	215,008	457,166
	補助金収入	457,065	468,599	519,620	590,207	637,376
	資産売却収入	0	1,474	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	36,140	38,422	36,043	32,302	27,760
	受取利息・配当金収入	113	32	27	23	1,281
	雑収入	65,241	75,994	84,586	101,152	127,814
	小計 ①	3,539,593	3,415,373	3,241,130	3,582,997	4,061,309
	借入金等収入	0	1,000,004	0	0	0
	前受金収入	1,217,746	1,326,957	1,401,488	1,449,276	1,464,637
	その他の収入	280,489	50,204	66,171	63,629	42,931
	資金収入調整勘定	△ 1,243,714	△ 1,273,591	△ 1,373,056	△ 1,443,281	△ 1,492,042
	収入の部合計 A	3,794,114	4,518,947	3,335,733	3,652,621	4,076,835

(単位：千円)

	科目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
資金支出の部	人件費支出	1,533,976	1,753,838	1,945,385	2,060,698	2,222,823
	教育研究経費支出	476,906	542,775	1,019,365	1,025,490	1,085,200
	管理経費支出	333,829	335,597	345,325	334,320	359,098
	借入金等利息支出	37,736	20,282	24,526	20,888	33,589
	借入金等返済支出	303,972	103,968	103,968	81,108	127,002
	施設関係支出	394,593	2,359,282	26,176	210,290	38,576
	設備関係支出	32,781	28,332	100,461	30,941	24,951
	小計 ②	3,113,793	5,144,074	3,565,206	3,763,735	3,891,239
	資産運用支出	0	56	4,130	751	1,509
	その他の支出	471,172	193,083	384,853	295,425	295,425
	資金支出調整勘定	△ 200,556	△ 400,609	△ 244,817	△ 270,566	△ 335,814
	支出の部合計 B	3,384,409	4,936,604	3,709,372	3,789,345	3,852,359

(単位：千円)

	科目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
資金収支差額の部	資金収支差額 (①-②)	425,800	△ 1,728,701	△ 324,076	△ 180,738	170,070
	資金収支差額 (A-B)	409,705	△ 417,657	△ 373,639	△ 136,724	224,476
	翌年度繰越支払資金	3,843,075	3,425,420	3,051,780	2,915,055	3,110,868

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

教育活動による資金収支収入は 4,059 百万円支出は 3,663 百万円で差引 395 百万円の収入超過となった。

施設整備等活動による収入は、0 円、支出は 63 百万円で差引 63 百万円の支出超過となった。

その他活動による収入は 30 百万円、支出は 169 百万円で差引 166 百万円の支出超過となった。

上記の結果、翌年度繰越支払資金は 3,110 百万円となり、昨年度の 2,915 百万円より 195 百万円増加した。

活動区分資金収支計算書の経年比較

(単位:円)

科 目			2020年度	2021度	2022度	2023度	2024度
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	2,261,001,410	2,261,123,972	2,447,984,405	2,600,941,057	2,764,492,471
		手数料収入	43,961,762	44,294,000	52,819,040	43,364,925	45,420,295
		特別寄付金収入	60,000	0	100,000,000	200,000,000	400,000,000
		一般寄付金収入	140,000	10,000	51,000	15,008,000	57,166,000
		経常費等補助金収入	449,437,072	468,599,866	519,620,993	590,207,926	637,376,549
		付随事業収入	36,140,756	38,422,462	36,043,864	32,302,529	27,760,424
		雑収入	65,241,081	75,994,214	83,709,170	99,434,050	126,987,111
		教育活動資金収入計	2,855,982,081	2,888,444,514	3,240,228,472	3,581,258,487	4,059,202,850
	支出	人件費支出	1,533,976,678	1,753,837,941	1,945,385,698	2,060,698,942	2,222,823,793
		教育研究経費支出	476,906,251	542,774,833	1,019,802,815	1,025,490,569	1,085,200,419
		管理経費支出	333,454,364	335,596,811	345,325,706	332,332,357,240	355,949,331
		教育活動資金支出計	2,344,337,293	2,632,209,585	3,310,076,419	3,418,546,751	3,663,973,543
	差引		511,644,788	256,234,929	△ 69,847,947	162,711,736	395,229,307
調整勘定等		△ 50,054,839	130,384,070	126,046,937	44,130,639	29,475,179	
教育活動資金収支差額		461,589,949	386,618,999	56,198,990	206,842,375	424,704,486	
施設整備等活動による資金収支	科 目		金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
	収入	施設設備寄付金収入	675,872,914	525,425,885	0	0	0
		施設設備売却収入	0	1,474,146	0	0	0
		施設設備補助金収入	7,628,000	0	0	0	0
		施設整備等活動資金収入計	683,500,914	526,900,031	0	0	0
	支出	施設関係支出	394,593,455	2,359,282,821	26,176,700	210,290,214	38,576,978
		設備関係支出	32,781,387	28,332,166	100,461,655	30,941,020	24,951,607
		施設整備等活動資金支出計	427,374,842	2,387,614,987	126,638,355	241,231,234	63,528,575
	差引		256,126,072	△ 1,860,714,956	△ 126,638,355	△ 241,231,234	△ 63,528,585
	調整勘定等		15,969,385	178,341,649	△ 181,118,153	△ 13,750,421	678,951
施設整備等活動資金収支差額		272,095,457	△ 1,682,373,307	△ 307,756,508	△ 254,981,655	△ 62,849,634	
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）		733,685,406	△ 1,295,754,308	△ 251,557,518	△ 48,139,280	361,854,852	
その他の活動による資金収支	科 目		金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
	収入	借入金収入	0	1,000,004,000	0	0	0
		貸付金回収収入	0	0	0	120,000	0
		預り金受入収入	13,296,715	2,358,006	11,090,132	15,992,157	0
		仮払金回収収入	313,441	0	0	0	636,305
		その他の固定資産回収収入	0	0	0	0	0
		預託金回収収入	1,570	0	0	10,210	0
		敷金回収収入	20,000	0	0	0	0
		立替金回収収入	173,841	34,423	0	489,920	281,328
		小計	13,805,567	1,002,396,429	11,090,132	16,612,287	917,633
		受取利息・配当金収入	113,817	32,571	27,673	23,697	1,281,740
		過年度修正収入	0	0	877,500	1,717,976	827,417
		収益事業元入金回収収入	4,185,723	0	0	0	0
		その他の活動資金収入計	18,105,107	1,002,429,000	11,995,305	18,353,960	3,026,790
	支出	借入金等返済支出	303,972,536	103,968,536	103,968,536	81,108,505	127,002,840
		貸付金支払支出	0	0	600,000	1,800,000	0
		その他の固定資産支払支出	0	0	0	0	0
		仮払金支払支出	0	0	0	418,805	0
		預託金支出	0	23,220	47,080	8,190	40
		預り金支出	0	0	0	0	3,817,823
		立替金支出	0	0	804,373		
		出資金支出	0	56,445	0	0	0
		収益事業元入金支出	0	0	4,130,978	751,753	1,509,369
		小計	303,972,536	104,048,201	109,550,967	84,087,253	132,330,072
		過年度修正支出	375,000	0	0	1,963,700	3,149,366
		借入金等利息支出	37,736,000	20,282,265	24,526,342	20,888,734	33,589,206
		その他の活動資金支出計	342,083,536	124,330,466	134,077,309	106,939,687	169,068,644
	差引		△ 323,978,429	878,098,534	△ 122,082,004	△ 88,585,727	△ 166,041,854
	調整勘定等		0	0	0	0	0
	その他の活動資金収支差額		△ 323,978,429	878,098,534	△ 122,082,004	△ 88,585,727	△ 166,041,854
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）		409,706,977	△ 417,655,774	△ 373,639,522	△ 136,725,007	195,812,998	
前年度繰越支払資金		3,433,368,922	3,843,075,899	3,425,420,125	3,051,780,603	2,915,055,596	
翌年度繰越支払資金		3,843,075,899	3,425,420,125	3,051,780,603	2,915,055,596	3,110,868,594	

ウ) 財務比率の経年比較

・教育活動資金収支差額比率

(単位：％)

比 率	算式(×100%)	2020年度 (2021. 3. 31)	2021年度 (2022. 3. 31)	2022年度 (2023. 3. 31)	2023年度 (2024. 3. 31)	2024年度 (2025. 3. 31)
教育活動資金収支差額比率	教 育 活 動 資 金 収 支 差 額	6.0	△ 3.0	△ 24.7	△ 10.3	△ 3.5
	教 育 活 動 資 金 収 入 計					

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

教育活動収支差額は、-141 百万円となった。

事業活動収入：学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、事業収入、雑収入等は資金収支計算書収入の部と同様の要因により4,063百万円となり、前年度に対して476百万円の増収となった。

基本金組入額合計は-92 百万円となり、基本金組入前当年度収支差額（帰属収入）は、-170 百万円となった。

事業活動支出：資金収支計算書の支出の部と同様の要因で、4,205 百万円となった。

当年度収支差額：当年度収支差額は、-263 百万円となった。

事業活動収支の経年比較

(単位：千円)

事業活動収支		科目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
教育活動収支	収入	学生生徒納付金	2,261,001	2,261,123	2,447,984	2,600,941	2,764,492
		手数料	43,961	44,294	52,819	43,364	45,420
		寄付金	2,117	3,349	103,730	221,324	461,923
		経常費等補助金	449,437	468,599	519,620	590,207	637,376
		付随事業収入	36,140	38,422	36,043	32,302	27,760
		雑収入	65,247	76,029	84,773	99,451	126,987
		教育活動収入計	2,857,906	2,891,819	3,244,972	3,587,592	4,063,960
	支出	人件費	1,544,267	1,764,677	1,959,789	2,067,716	2,238,636
		教育研究経費	755,260	826,365	1,654,564	1,507,403	1,562,450
		管理経費	385,557	387,781	431,665	382,419	404,273
		徴収不能額等	0	0	0	0	0
		教育活動支出計	2,685,084	2,978,824	4,046,020	3,957,539	4,205,360
		教育活動収支差額	172,821	△ 87,004	△ 801,048	△ 369,947	△ 141,399
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	113	32	27	23	1281
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	113	32	27	23	1281
	支出	借入金等利息	37,736	20,282	24,526	20,888	33,589
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	37,736	20,282	24,526	20,888	33,589
		教育活動外収支差額	△ 37,623	△ 20,249	△ 24,498	△ 20,865	△ 32,307
経常収支差額			135,199	△ 107,254	△ 825,546	△ 390,812	△ 173,707
特別収支	収入	資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	691,175	530,416	15,915	8,839	6,995
		特別収入計	691,175	530,416	15,915	8,839	6,995
	支出	資産処分差額	356	1,490	194	576	1,000
		その他の特別支出	375	0	0	1,966	3,149
		特別支出計	731	1,490	194	2,542	4,149
		特別収支差額	690,444	528,926	15,721	6,296	2,846
基本金組入前当年度収支差額 ③			825,643	421,597	△ 809,825	△ 384,515	△ 170,861
基本金組入額合計 ④			△ 656,459	△ 2,559,498	△ 180,881	△ 369,776	△ 92,559
当年度収支差額 ⑤			169,183	△ 2,137,826	△ 990,707	△ 754,291	△ 263,420
(参考)							
事業活動収入計 ①			3,579,195	3,422,269	3,260,915	3,596,455	4,072,238
事業活動支出計 ②			2,723,551	3,000,597	4,070,740	3,980,971	4,243,099

イ) 財務比率の経年比較

人件費比率、教育研究経費比率、管理経費比率、事業活動収支差額比率、学生生徒等納付金比率、経常収支差額比率等は次の表の通りである。

(单位: %)

區 分			2020年度 (R3.3.31)	2021年度 (R4.3.31)	2022年度 (R5.3.31)	2023年度 (R6.3.31)	2024年度 (R7.3.31)
分 類	比 率	算 式 (×100%)					
經	人 件 費 比 率	人 件 費 經 常 収 入	54.03%	61.02%	60.39%	57.63%	55.07%
	人 件 費 依 存 率	人 件 費 學 生 生 徒 等 納 付 金	68.30%	78.04%	80.06%	79.50%	80.98%
	教 育 研 究 經 費 比 率	教 育 研 究 經 費 經 常 収 入	26.43%	28.58%	50.99%	42.02%	38.43%
	管 理 經 費 比 率	管 理 經 費 經 常 収 入	13.49%	13.41%	13.30%	10.66%	9.94%
	借 入 金 等 利 息 比 率	借 入 金 等 利 息 經 常 収 入	1.32%	0.70%	0.76%	0.58%	0.83%
營	事 業 活 動 収 支 差 額 比 率	基 本 金 組 入 前 収 支 差 額 事 業 活 動 収 入	23.26%	12.32%	-24.83%	-10.69%	-4.20%
	基 本 金 組 入 後 収 支 比 率	事 業 活 動 支 出 事 業 活 動 収 入 額 - 基 本 金 組 入 額	64.76%	5.03%	118.27%	100.37%	101.88%
狀	學 生 生 徒 等 納 付 金 比 率	學 生 生 徒 等 納 付 金 經 常 収 入	79.11%	78.19%	75.44%	72.50%	68.00%
	寄 付 金 比 率	寄 付 金 事 業 活 動 収 入	19.32%	15.60%	3.64%	6.35%	11.49%
	補 助 金 比 率	補 助 金 事 業 活 動 収 入	12.88%	13.69%	15.93%	16.41%	15.65%
	基 本 金 組 入 率	基 本 金 組 入 額 事 業 活 動 収 入	-18.50%	-74.79%	-5.55%	-10.28%	-2.27%
況	減 価 償 却 額 比 率	減 価 償 却 額 經 常 支 出	12.06%	11.08%	12.81%	13.20%	12.27%
	經 常 収 支 差 額 比 率	經 常 収 支 差 額 經 常 収 入	4.73%	-3.71%	-25.44%	-10.89%	-4.27%
	教 育 活 動 収 支 差 額 比 率	教 育 活 動 収 支 差 額 教 育 活 動 収 入 計	6.05%	-3.01%	-24.69%	-10.31%	-3.48%

(2) その他

①有価証券の状況

本学校法人では、有価証券は所有していない。

②借入金の状況

借入先	期末残高 (円)	利率 (%)	返済期限
(株)みずほ銀行 横浜駅前支店	427,411,441	1.820%	2031 年 3 月 31 日
	141,050,000	0.850%	2033 年 10 月 31 日
	2,659,996,000	1.150%	2025 年 3 月 31 日

③学校債の状況

本学校法人では、学校債は発行していない。

④寄付金の状況

【特定公益増進法人】 (単位：円)

特別寄附（一般の方より）	66,000
特別寄附（日本私立看護系大学協会より）	100,000
特別寄附（グループ企業より寄付）	57,000,000

【受配者指定寄付金】

2024 年度中に配布を受けた寄付金

受配者指定寄付金（2023 年度、2024 年度中にグループ企業より寄付）	400,000,000
---------------------------------------	-------------

受配者指定寄付金口座にあるため、2024 年度決算には反映されない寄付金

受配者指定寄付金（グループ企業より）	223,000,000
--------------------	-------------

⑤補助金の状況

湘南医療大学、専門学校には、経常費補助金及び授業料等減免費交付金として、国・県より補助金が交付された。その他、茅ヶ崎看護専門学校、湘南医療大学附属下田看護専門学校には、看護師養成校として養成所補助事業に対する補助金が交付された。認定こども園には、横浜市より、子ども・子育て支援教育・保育給付費等認定こども園運営に関する補助金が交付された。

2024年度 補助金詳細

	本部	茅ヶ崎看護	学校	医療ビジネス校	みどり幼稚園	下田看護	湘南医療大学	合計	
国庫補助金 経常費補助金収入							224,829,000	224,829,000	国庫補助金
国庫補助金 授業料等減免費交付金							64,294,100	64,294,100	国庫補助金
神奈川県 経常費補助金 *申請書別紙		11,548,000	17,529,000	11,334,000				40,411,000	神奈川県
神奈川県・静岡県 看護師等養成所補助事業 *申請書別紙		26,407,000				18,796,000		45,203,000	神奈川県・静岡県
神奈川県 介護福祉士養成施設日本語学習等支援事業費				90,000				90,000	神奈川県
神奈川県 地域開放推進費 補助対象経費(課税)								0	神奈川県
神奈川県・静岡県 結核健康診断及び予防接種 補助対象経費(課税)		20,581	29,358			23,222		73,161	神奈川県・静岡県
神奈川県・静岡県 授業料等減免費交付金		13,589,100	14,686,900	4,870,100		5,451,400		38,597,500	神奈川県・静岡県
神奈川県・静岡県 物価高騰対応支援金 補助対象経費(課税)		160,000	160,000	160,000		600,000		1,080,000	神奈川県・静岡県
神奈川県 調査研究助成金 補助対象経費(課税)								0	神奈川県
横浜市 私立幼稚園等補助金 補助対象経費(課税)					479,000			479,000	横浜市
横浜市 はまっこ広場事業補助金 補助対象経費(課税)					500,000			500,000	横浜市
横浜市 子ども・子育て支援教育・保育給付費					183,220,870			183,220,870	横浜市
横浜市 私立幼稚園等一時預かり保育事業補助金 補助対象経費(課税)					1,402,750			1,402,750	横浜市
横浜市 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策補助金 補助対象経費(課税)								0	横浜市
横浜市・相模原市 結核健康診断及び予防接種 補助対象経費(課税)				24,288				24,288	横浜市・相模原市
横浜市 人事院勧告に伴う公定価格差額分					7,358,990			7,358,990	横浜市
横浜市 横浜市特定教育・保育施設預かり保育事業 補助対象経費(課税)					29,003,500			29,003,500	横浜市
小金井市 小金井市子ども・子育て支援教育・保育給付費等 補助対象経費(課税)					505,390			505,390	小金井市
横浜市 横浜市保育士宿舍借り上げ支援事業補助金					304,000			304,000	横浜市
国庫補助金合計	0	0	0	0	0	0	289,123,100	289,123,100	国
神奈川県・静岡県補助金合計	0	51,724,681	32,405,258	16,454,100	0	24,870,622	0	125,454,661	神奈川県・静岡県
市補助金 合計	0	0	0	24,288	222,269,110	0	0	222,798,788	横浜市他

⑥関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者について下表のとおり イ) 出資会社は該当なし

関連当事者との取引の内容は、次のとおりである。

(単位:円)

属 性	役員、 法人等 の名称	住 所	資本金又 は出資 金	事業内容 又は職業	議決 権の所 有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼 任等	事業上の 関係				
理事長	大屋敷 英志枝	-	-	-	-	-	-	当法人の銀行借入に對 する被保証 *1	516,600,000 *1 *2	-	-
関係法人	医療法人社団 康心会	神奈川県 茅ヶ崎市	170百 万円	病院・老人 保健施設・ 診療所の 経営	-	4名	職員出向 他	職員出向他	49,452,707	未収入金	3,339,964
							健康診 断、実習 謝礼他	健康診断、実習謝礼他	33,421,024 *4	未払金	13,371,523
関係法人	医療法人社団 健齡会	神奈川県 横浜市	45百 万円	病院・診療 所の経営	-	5名	職員出向 他	職員出向他	11,655,484	未収入金	0
							健康診 断、実習 謝礼他	健康診断、実習謝礼他	2,181,950 *4	未払金	2,002,120
関係法人	医療法人回生 会	神奈川県 横浜市	10百 万円	病院の経 営	-	5名	健康診 断、実習 謝礼他	健康診断、実習謝礼他	17,335,455 *4	未払金	808,335
役員及びそ の近親者が 議決権の過 半数を所有 している会 社	㈱フォー ライフ企画 *3	神奈川県 茅ヶ崎市	10百 万円	一般物品 商社	-	-	オープンキャン パス食券	オープンキャンパス食券	101,700	未収入金	0
							リース・医療 材料・事務 用品購入	リース・医療材料・事務用 品購入	549,479,827 *4	未払金	56,341,600
役員及びそ の近親者が 議決権の過 半数を所有 している会 社	㈱エフア ンドエフア イフ*3	神奈川県 茅ヶ崎市	5百万 円	内装工事、 建物保守、 建築・企画 設計	-	-	施設修理 他	施設修理他	151,262,050 *4	未払金	28,926,925
役員及びそ の近親者が 議決権の過 半数を所有 している会 社	㈱メディ カルヘル スケア *3	神奈川県 茅ヶ崎市	3百万 円	不動産管 理会社	-	1名	不動産賃 貸	不動産賃貸	23,793,526 *4	未払金	1,704,200
役員及びそ の近親者が 議決権の過 半数を所有 している会 社	㈱エフエ ムシー *3	神奈川県 茅ヶ崎市	5百万 円	人事管理・ 給与計算・ 経理業務 の請負	-	1名	人事管理・ 給与計算・ 経理業務 委託	人事管理・給与計算・経 理業務委託	42,289,810 *4	未払金	13,010
								当法人の銀行借入に 對する被保証	2,800,000,000		
役員及びそ の近親者が 議決権の過 半数を所有 している会 社	㈱メディ カルフ ース*3	神奈川県 茅ヶ崎市	3百万 円	給食業務 の受託及 び管理	-	1名	食堂食材・ 食堂委託 管理他	食堂食材・食堂委託管 理他	38,986,081 *4	未払金	2,625,199
役員及びそ の近親者が 議決権の過 半数を所有 している会 社	㈱湘南 ふれあ いの園 *3	神奈川県 茅ヶ崎市	5百万 円	有料老人 ホーム経営	-	1名	シニアホテル東 戸塚サウ イグ電気 料他	シニアホテル東戸塚サウ イグ電気料他	20,343,959 *4	未払金	1,374,505
役員及びそ の近親者が 議決権の過 半数を所有 している会 社	㈱リード 商会 *3	神奈川県 茅ヶ崎市	3百万 円	清掃業務、 自動車修 理業務	-	-	清掃管 理、自動 車修理他	清掃管理、自動車修理 他	76,024,667 *4	未払金	6,550,613

注*1 当法人は銀行借入に対して理事長大屋敷英志枝より債務保証を受けている。
なお、保証料の支払は行っていない。

注*2 収益事業に係る取引も含んでいる。

注*3 理事長大屋敷英志枝及びその近親者が議決権の100%を直接所有している。

注*4 市場価格を勘案して一般取引条件と同様に決定している。

⑦学校間財務取引

該当なし

(3)経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

学校法人湘南ふれあい学園の経営状況の分析(過去5年間)、経営上の成果と課題

下記の財務比率は、経営状況、負債の状況、及び将来の備えに対する資産の保有状況の実施結果の分析を示している。将来支出に備える保有資産の状況は、大学平均(78.2%)とより若干低い数値となったが、現在のところ、万一の支出の状況にも充分に耐えるだけの資産を保有している。

資料1	比率名	計算式	R02	R03	R04	R05	R06	R05-R06対比	経営上の成果と課題(自己点検・評価)
① 経営状況									
	事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入	23.3%	12.3%	-24.8%	-10.7%	-4.2%	減少	教育・研究などの事業活動における収支のバランスを示しています。赤字幅が改善し、回復傾向にあり、継続的に収支改善している。
② 負債に備える資産の蓄積状況									
	内部留保資産比率	(運用資産-(総負債))/総資産	3.9%	-4.4%	-5.5%	-15.1%	-13.8%	減少	法人が自己資金として保有する「純資産(=資産-負債)」の割合を示す。R06でやや改善しており、資産の回復や借入の圧縮している。今後も、寄付金、補助金等の獲得を強化して資産の増強を図る。
	運用資産余裕比率(年)	(運用資産-外部負債)/経常支出	27.5%	71.0%	-22.2%	-24.1%	-15.9%	減少	何年分の経常支出に相当する資産的余裕があるかを示す。薬学部設置後、マイナスが続くが、財務改善策が一定程度効果が出ている。経常支出を圧縮し、安定的収入源の確保を行う。
	流動比率	流動資産/流動負債	255.7%	81.9%	75.0%	70.4%	168.4%	増加	短期的な支払い能力を示す。流動資産の増加(現預金の確保)及び流動負債の減少(借入返済等)により、大幅に改善し168.4%に回復した。今後も安定的な流動性管理を維持する。
	前受金保有率	現金預金/前受金	316%	258%	218%	201%	212%	増加	当該年度に収受している翌年度分の授業料や入学金等が、翌年度繰越支払資金たる現金預金の形で当該年度末の保有比率が100%を超えており、問題は無い。
③ 負債水準の状況									
	固定負債構成比率	固定負債/(総負債+純資産)	17.0%	5.9%	5.8%	4.7%	19.5%	増加	施設整備計画や手元資金の状況に比してこの比率が高い場合、経営上の留意が必要となる。
	流動負債構成比率	流動負債/(総負債+純資産)	11.1%	26.7%	28.0%	26.8%	12.1%	減少	当該比率が低い方が好ましい。
	総負債比率	総負債/総資産	18.2%	22.4%	22.3%	31.6%	31.6%	変化なし	当該比率50%以下は、負債総額が純資産を下回っていることを示す。本学園の財務安全性は確保されている。
	負債比率	総負債/純資産	24.6%	32.1%	32.3%	46.1%	46.2%	増加	当該比率が100%以下であるため、他人資金である総負債が自己資金である純資産を下回っている。
④ 将来支出に備える保有資産の状況									
	積立率	運用資産(現金預金+特定資産+有価証券)/要積立額(減価償却累計額+退職給与引当金+第2号基金+第3号基金)	136.4%	108.5%	82.6%	69.0%	65.4%	減少	令和5年度の当該率の大学平均は、71.9%であり、本学園は、平均を下回っている。減価償却累計額はR2年からR6年度末で約7億39百万円増加している。

※総負債には、内部負債である「退職給与引当金」及び「前受金」を算入しないことを原則とした。

資料2 運用資産及び外部負債の金額

下記の表より、運用資産は減少かつ外部負債も増加している。ただし、積立額も大幅に増加しているため、運営が安定していることを示している。

(千円)								
項目	計算式	R02	R03	R04	R05	R06	R02-R06間傾向	
運用資産	現金預金+特定資産+有価証券	3,843,075	3,425,420	3,051,780	2,915,055	3,110,868	-322,501	減少
外部負債	総負債-(退職給与引当金+前受金)	3,163,240	4,269,327	4,037,835	3,971,181	3,878,227	453,879	増加
積立額	減価償却累計額+退職給与引当金+第2号基金+第3号基金	2,817,654	3,157,862	3,692,429	4,222,750	4,755,649	2,275,313	増加

資料3 総資産基本金組入前当年度収支差額比率関連指標 (百万円)

総資産	17,447
事業活動収入	4,072
基本金組入前当年度収支差額	-170
総資産基本金組入前当年度収支差額比	-1.0%
基本金組入前当年度収支差額比	23.3%
総資産回転率	0.2 回転

VI 施設・設備報告

2025 年 3 月現在 学校法人所有施設の所在等、主な施設設備の状況は次のとおりである。

校地

	所 在 地	計 ㎡
湘南医療大学	神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番49	7,921.62 ㎡
	神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番5 他	18,872.36 ㎡
	神奈川県横浜市中区山手町27番1 他 ※	10,973.00 ㎡
	計	37,766.98 ㎡
みどり幼稚園	神奈川県横浜市戸塚区汲沢二丁目1682番 他	2,306.00 ㎡
	神奈川県横浜市戸塚区汲沢二丁目1703番1	623.00 ㎡
茅ヶ崎看護専門学校	神奈川県茅ヶ崎市今宿字生神場383-4 他	1,477.64 ㎡
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	神奈川県茅ヶ崎市南湖一丁目3690-4 他	3,752.04 ㎡
医療ビジネス観光福祉専門学校	神奈川県相模原市南区上鶴間本町三丁目2850-1 他	1,106.50 ㎡
湘南医療大学附属下田看護専門学校	静岡県下田市柿崎字腰越288-1 他	3,498.57 ㎡
	静岡県下田市柿崎腰越289	717.35 ㎡
	計	4,215.92 ㎡
湘南医療大学附属下田看護専門学校学生寮	静岡県下田市柿崎字孫ノ段736-4 他	1,322.86 ㎡
合計		50,264.94 ㎡

校舎

	所 在 地	構 造	計 ㎡
湘南医療大学	神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16番地48 16番地15	鉄筋コンクリート造 陸屋根・合金メッキ鋼板ぶ き9階建他	13,588.09 ㎡
	神奈川県横浜市中区山手町 27番地1 27番地16 47番地2 47番地1 神奈川県横浜市中区元町五丁目 220番地4	鉄筋コンクリート造陸屋根 地下1階付5階建	9,296.80 ㎡
	小計		22,884.89 ㎡
	神奈川県横浜市戸塚区汲沢二丁目 1670-2	鉄骨造合金メッキ 鋼板ぶき2階建	443.46 ㎡
幼保連携型認定こども園 みどり幼稚園	神奈川県横浜市戸塚区汲沢二丁目 1702-1 1682 1682-3 1670-6	鉄筋コンクリート造陸屋根地 下1階付2階建	733.23 ㎡
	小計		1,176.69 ㎡
茅ヶ崎看護専門学校	神奈川県茅ヶ崎市今宿字生神場 385番地1 384番地1 386番地1 387番地3 390番地	鉄骨造陸屋根4 階建	2,893.32 ㎡
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	神奈川県茅ヶ崎市南湖一丁目 3690番地5	鉄骨造垂鉛メッキ 鋼板葺3階建	4,490.96 ㎡
	神奈川県茅ヶ崎市南湖一丁目 4617番地1	鉄骨造陸屋根・垂 鉛メッキ鋼板葺3階 建	1,234.58 ㎡
	小計		5,725.54 ㎡
医療ビジネス観光福祉専門学校	神奈川県相模原市南区上鶴間本町 三丁目2850番地1 2856番地3	鉄骨鉄筋コンクリート 造陸屋根地下1 階付14階建	4,360.56 ㎡
湘南医療大学附属 下田看護専門学校	静岡県下田市柿崎字腰越289番地 静岡県下田市柿崎字吉ノ上1188番地1 静岡県下田市柿崎字寺ノ上1192番地 1193番地12 1～3階部分	鉄筋コンクリート造 瓦葺3階建	2,846.76 ㎡
	静岡県下田市柿崎289番地 講堂	鉄筋コンクリート造 コンクリート屋根 平屋建	361.37 ㎡
	静岡県下田市柿崎字孫ノ段 736番4 737番6 静岡県下田市柿崎字矢合1084番地11	鉄筋コンクリート造 陸屋根5階建	1,773.99 ㎡
			42,023.12 ㎡

Ⅶ 生涯学習事業報告

湘南医療大学看護キャリア開発コアセンターでは、看護師実習指導者講習会、認定看護管理者（ファーストレベル、セカンドレベル）を開講した。

また、地域医療、福祉系への協力事業としては、介護系では、介護福祉士実務者研修、介護福祉士国家試験対策講座、福祉系では、社会福祉士国家試験対策講座、社会福祉士実習指導者講習会を開講した。

Ⅷ 収益事業の状況

（収益事業会計）

貸 借 対 照 表

2025年 3月 31日 現在

（単位：円）

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
[流 動 資 産]	4,740	[流 動 負 債]	781,564
前払費用	4,740	一年内返済長期借入金	617,728
		前受金	137,000
		未払金	26,836
[固 定 資 産]	61,633,911	[固 定 負 債]	3,088,559
(有形固定資産)	61,633,911	長期借入金	3,088,559
建物	28,862,890		
土地	32,771,021	負 債 の 部 合 計	3,870,123
		純 資 産 の 部	
		[元 入 金]	344,074,642
		[利 益 剰 余 金]	△ 286,306,114
		繰越利益剰余金	△ 286,306,114
		純 資 産 の 部 合 計	57,768,528
資 産 の 部 合 計	61,638,651	負債・純資産の部合計	61,638,651

IX 監査報告

2024 年度は、下記の監査対象校の内部監査及び監事監査を以下の通り実施した。

【業務監査】

監査対象校	内部監査	監事監査	結果
湘南医療大学	2024 年 9 月 25 日	2025 年 3 月 28 日	適性な運営であることが確認された。
茅ヶ崎看護専門学校	2024 年 7 月 29 日	2025 年 3 月 28 日	適性な運営であることが確認された。

※監事監査はオンラインにて実施。

【会計監査】

2025 年 5 月 15 日 公認会計士より監事 2 名が 2024 年度の予算執行状況等の説明を受け、適切な運営であることが説明された。

監 査 報 告 書

2025 年 5 月 15 日

学校法人 湘南ふれあい学園
理事会 御中

学校法人 湘南ふれあい学園

監 事 金 井 清 吉

監 事 竹 俣 耕 一



私たちは、学校法人湘南ふれあい学園の監事として、私立学校法第 52 条第 3 項及び学校法人湘南ふれあい学園寄附行為第 29 条に基づき、学校法人湘南ふれあい学園の 2024 年度（2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで）の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況について監査しました。

私たちは監査にあたり、理事会、評議員会及びその他重要な会議に出席し必要に応じ意見を述べた他、理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するとともに、会計監査人と連携し、計算書類について検討するなど必要と思われる監査手続きを実施しました。

監査の結果、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類すなわち資金収支計算書、事業活動収支計算書及び貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む）は、会計帳簿の記載と合致し、学校法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務もしくは財産の状況並びに理事の業務執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上

監 査 報 告 書

2025 年 5 月 15 日

学校法人 湘南ふれあい学園
評議員会 御中

学校法人 湘南ふれあい学園

監 事 金 井 清 吉

監 事 竹 俣 耕 一



私たちは、学校法人湘南ふれあい学園の監事として、私立学校法第 52 条第 3 項及び学校法人湘南ふれあい学園寄附行為第 29 条に基づき、学校法人湘南ふれあい学園の 2024 年度（2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで）の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況について監査しました。

私たちは監査にあたり、理事会、評議員会及びその他重要な会議に出席し必要に応じ意見を述べた他、理事から業務報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するとともに、会計監査人と連携し、計算書類について検討するなど必要と思われる監査手続きを実施しました。

監査の結果、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類すなわち資金収支計算書、事業活動収支計算書及び貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む）は、会計帳簿の記載と合致し、学校法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務もしくは財産の状況並びに理事の業務執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上

監 査 報 告 書

2025 年 3 月 28 日

学校法人 湘南ふれあい学園
理事長 大屋敷 芙志枝 様

監事 金井 清吉



監事 竹俣 耕一



学校法人湘南ふれあい学園監事監査規程第 4 条に基づき、下記のとおり監査結果を報告
します。

記

- 1 監査種別 業務監査
- 2 対 象 理事会
- 3 監査項目

	チェック内容	適/否
1	理事会の運営における事実認識の重要かつ不注意な誤りがないか	適
2	意思決定過程の合理性、法令、寄附行為等を遵守しているか	適
3	理事会の意思決定に際し、善管注意義務がはたされているか	適
4	理事会の意思決定内容が本学校法人の利益を第一として検討されているか（理事本人または第 3 者の利益となっていないか）	適
5	理事会における内部統制が構築されているか	適

- 4 実 施 者 金井 清吉、竹俣 耕一
- 5 監査意見 監査の結果、適性と認められた。

以上

監 査 報 告 書

2025 年 3 月 28 日

学校法人 湘南ふれあい学園
理事長 大屋敷 芙志枝 様

監事 金井 清吉



監事 竹俣 耕一



学校法人湘南ふれあい学園監事監査規程第4条に基づき、下記のとおり監査結果を報告
します。

記

- | | |
|---------|------------------|
| 1 監査種別 | 業務監査 |
| 2 対 象 | 湘南医療大学、茅ヶ崎看護専門学校 |
| 3 実 施 日 | 2025 年 3 月 28 日 |
| 4 実 施 者 | 金井 清吉、竹俣 耕一 |
| 5 監査意見 | 監査の結果、適性と認められた。 |

以上

湘南医療大学 2024 年度卒業時アンケート

アンケートの概要

○実施日：2025 年 2 月中旬

○回答者の属性について

1) 学科専攻

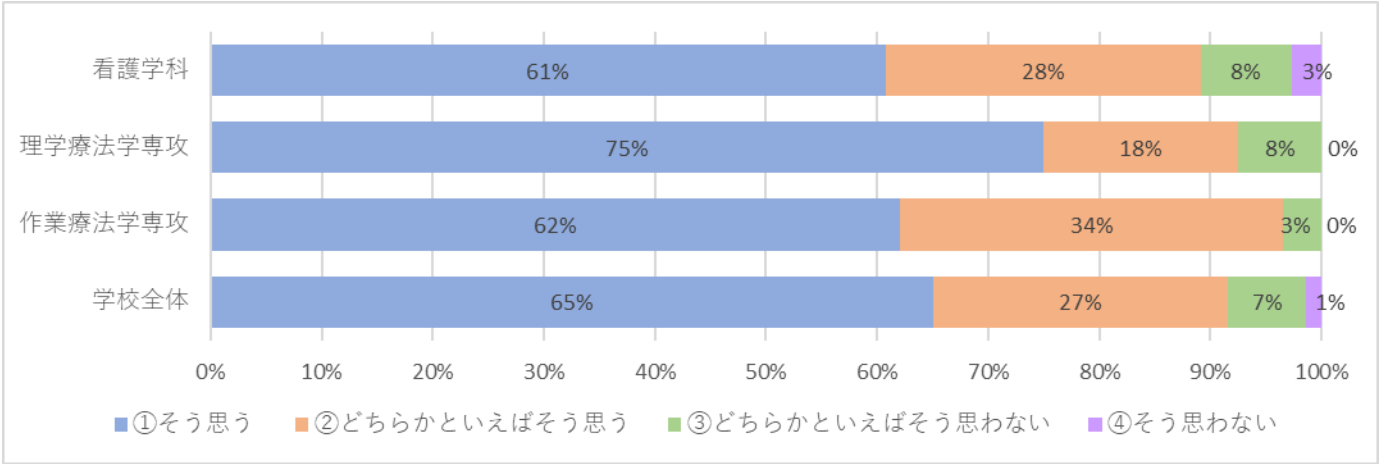
学科専攻名	回答数	卒業生数
看護学科	74	74
理学療法学専攻	40	44
作業療法学専攻	29	31
学校全体	143	149

2) あなたの本学受験時の入試区分を選んでください。

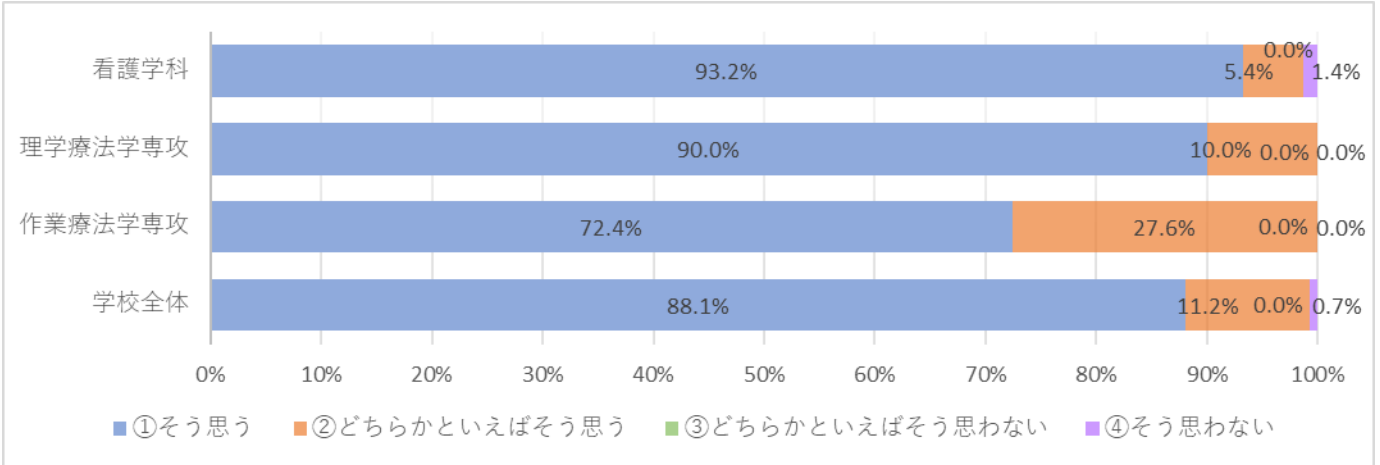
	①総合型 選抜(旧 AO 入試) Ⅰ期	②総合型 選抜(旧 AO 入試) Ⅱ期	学校推薦型選抜 (旧推薦入試)		一般入試			大学入学共通テスト利用選抜 (旧センター試験利用入試)		⑩ 第2志望
			③Ⅰ期	④Ⅱ期	⑤Ⅰ期	⑥Ⅱ期	⑦Ⅲ期	⑧Ⅰ期	⑨Ⅱ期	
看護学科	20	17	23	4	6	3	3	1	0	2
理学療法学専攻	14	4	15	4	1	4	0	0	1	3
作業療法学専攻	10	1	8	1	6	1	1	2	0	0
学校全体	44	22	46	9	13	8	4	3	1	5

I 入学時の期待

3) 本学は入学を希望していた大学でしたか。

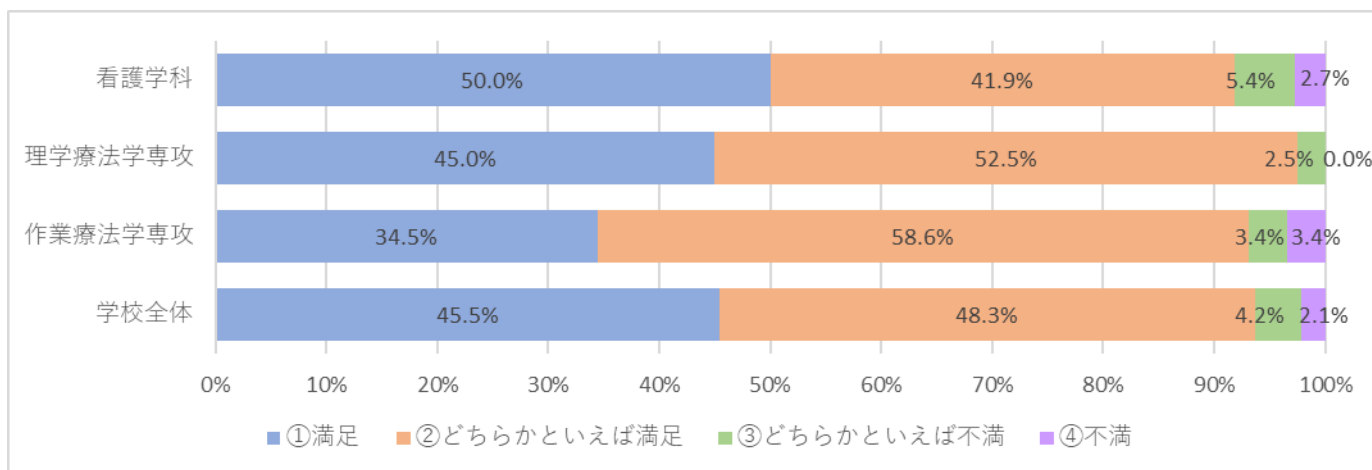


4) 学部学科専攻は希望通りでしたか。

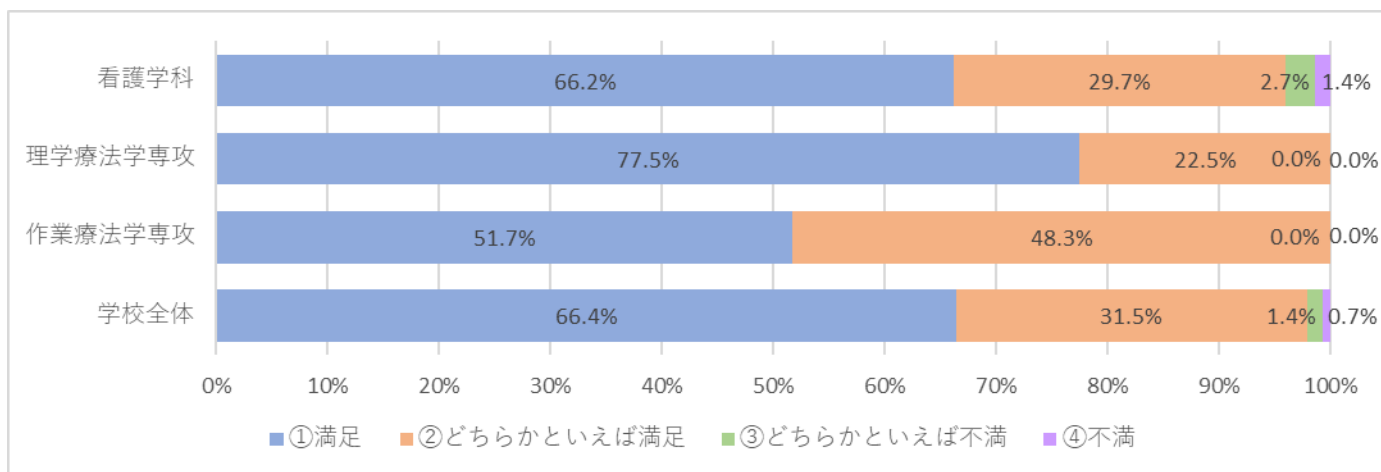


Ⅱ 本学における教育内容について

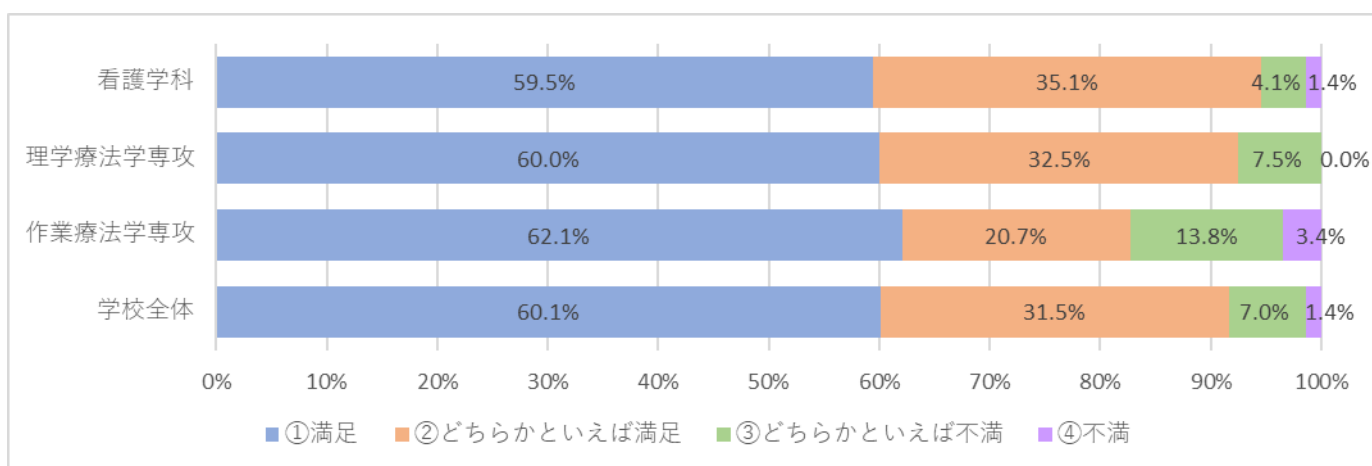
5) 共通教育科目（1年次の語学【英語Ⅰ等】や人文科学系【心理学・物理学・倫理学等】の基礎科目）について



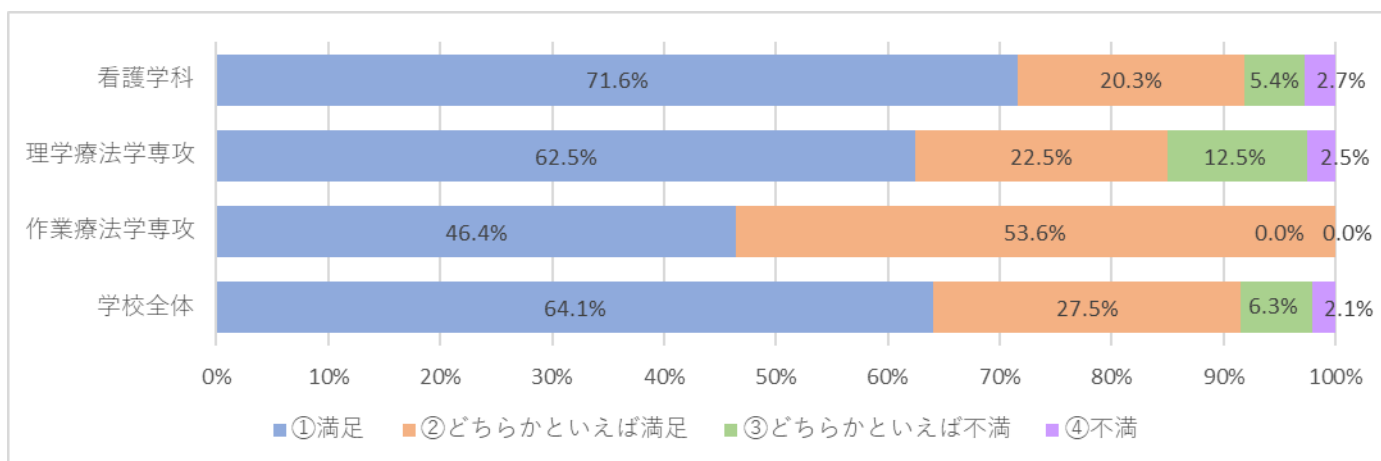
6) 学科専攻の専門科目について



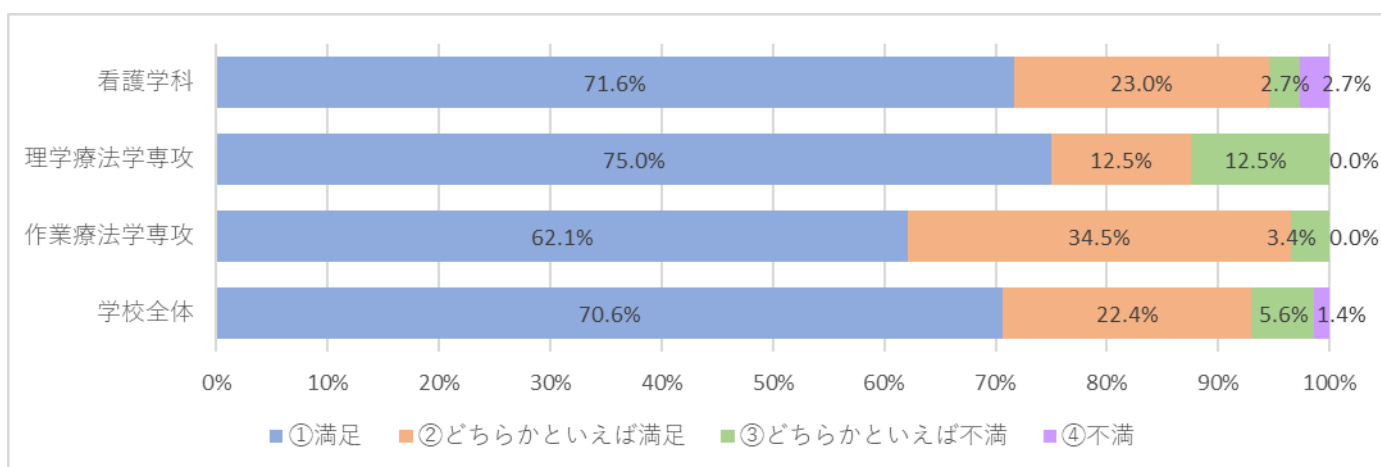
7) 臨床実習について



8) 卒業研究／看護研究について

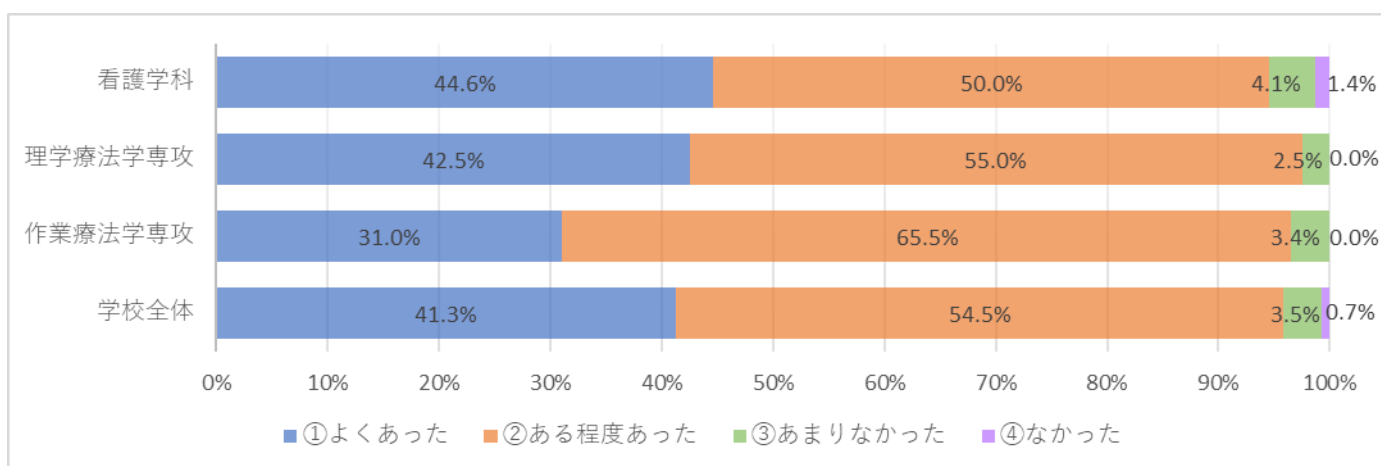


9) 国家試験対策について

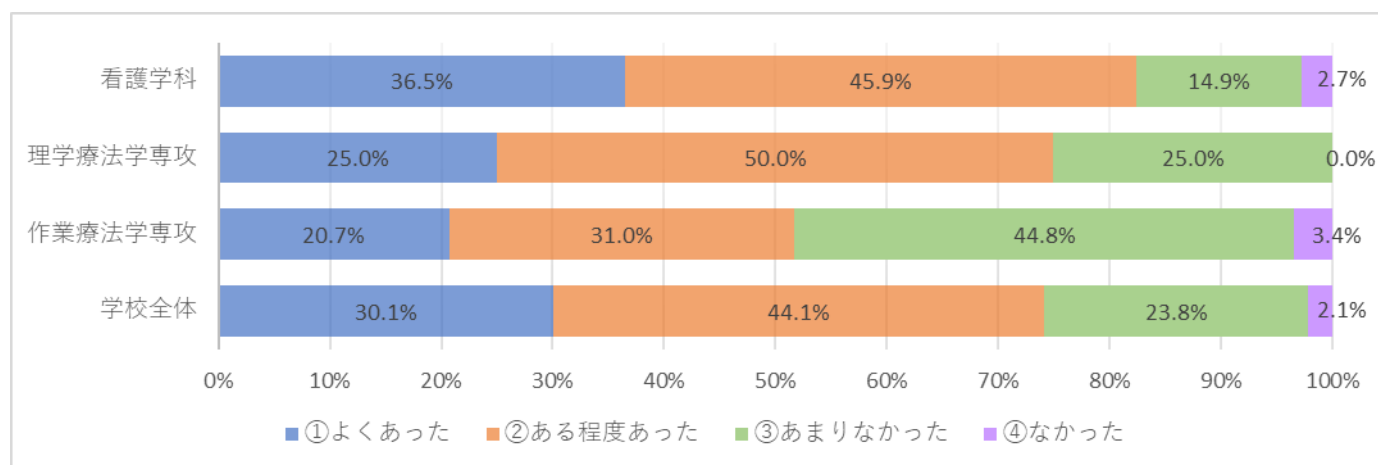


Ⅲ 大学に入ってから受けた授業について

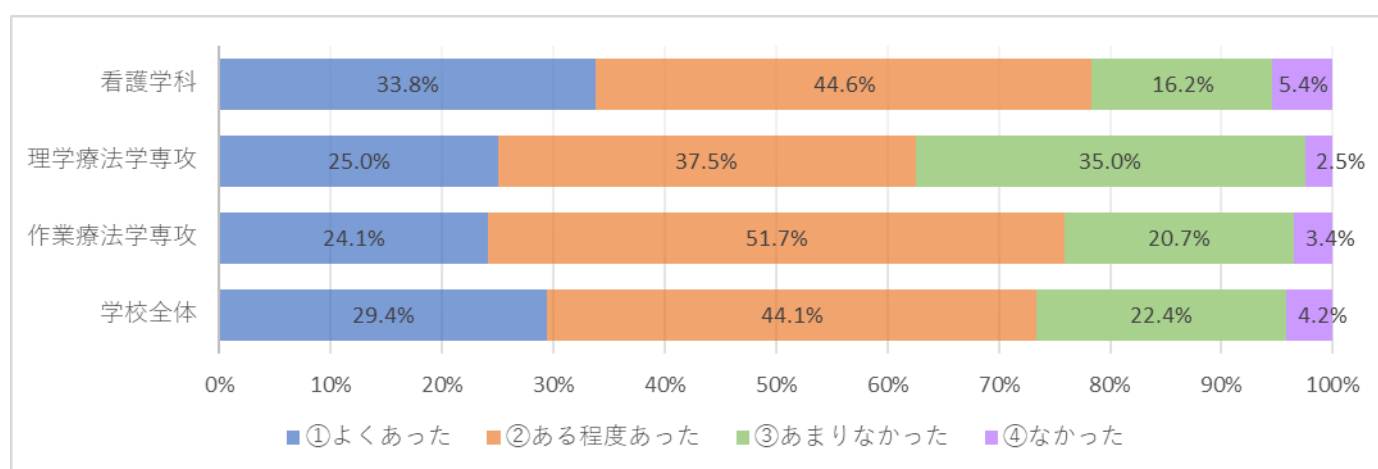
10) 理解がしやすいように教え方が工夫されていた。



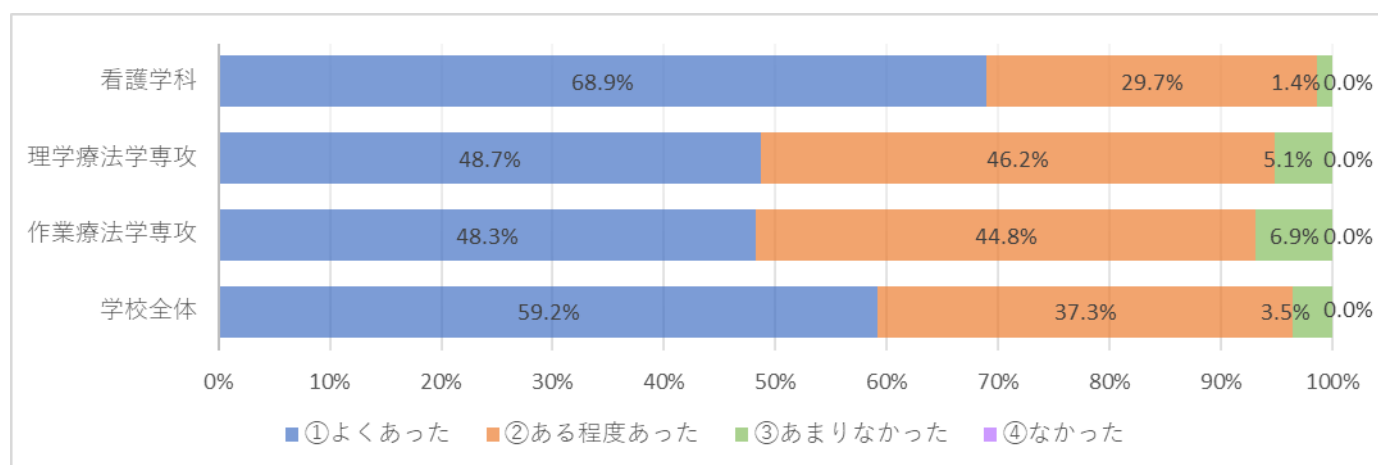
11) 予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される。



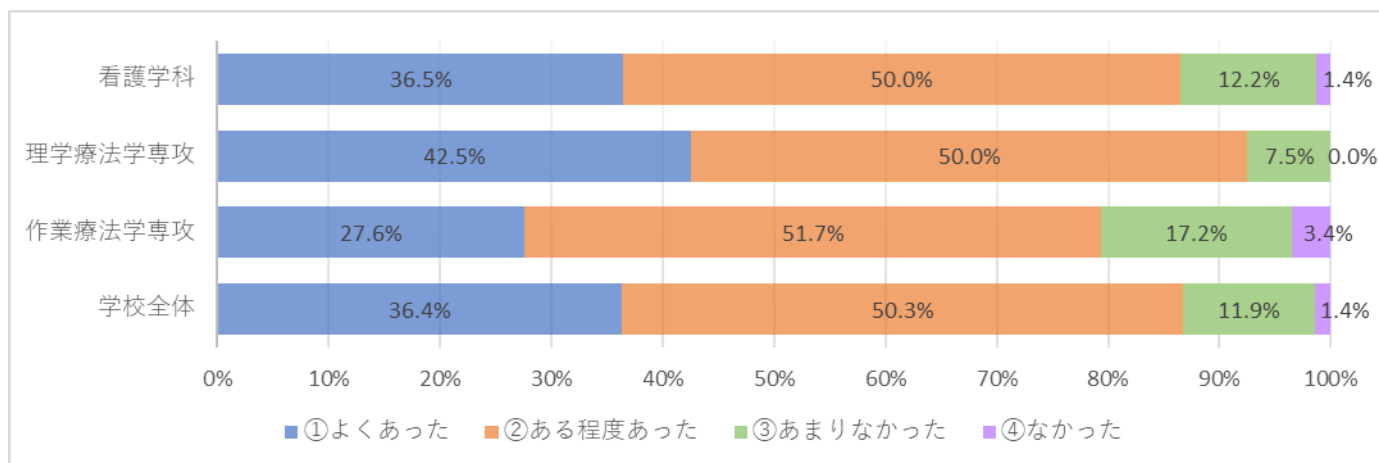
12) 課題等の提出物に適切なコメントが付さられて返却される。



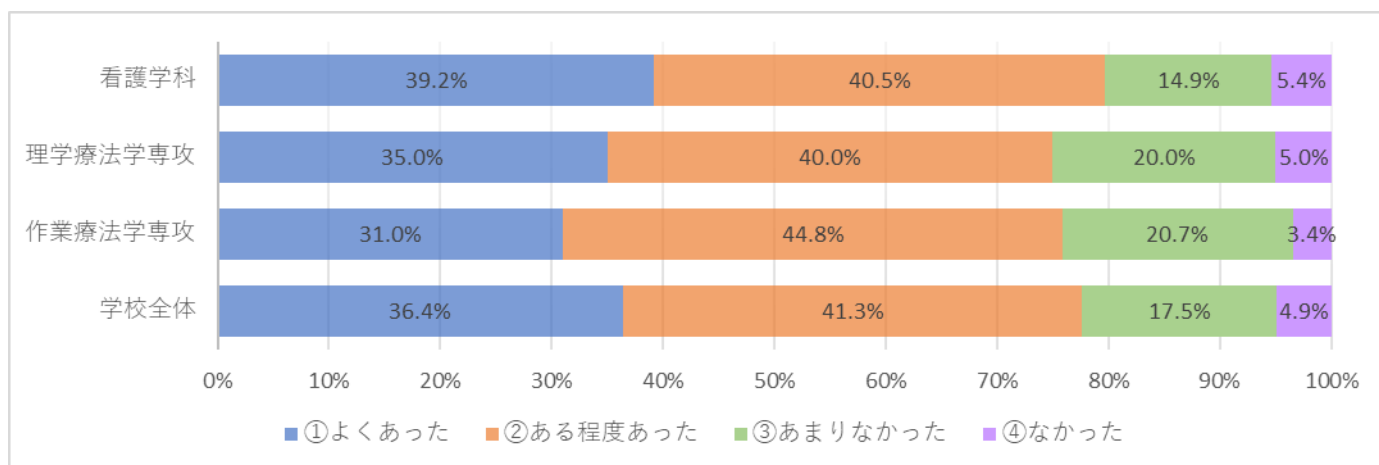
13) グループワークやディスカッションの機会がある。



14) 質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある。

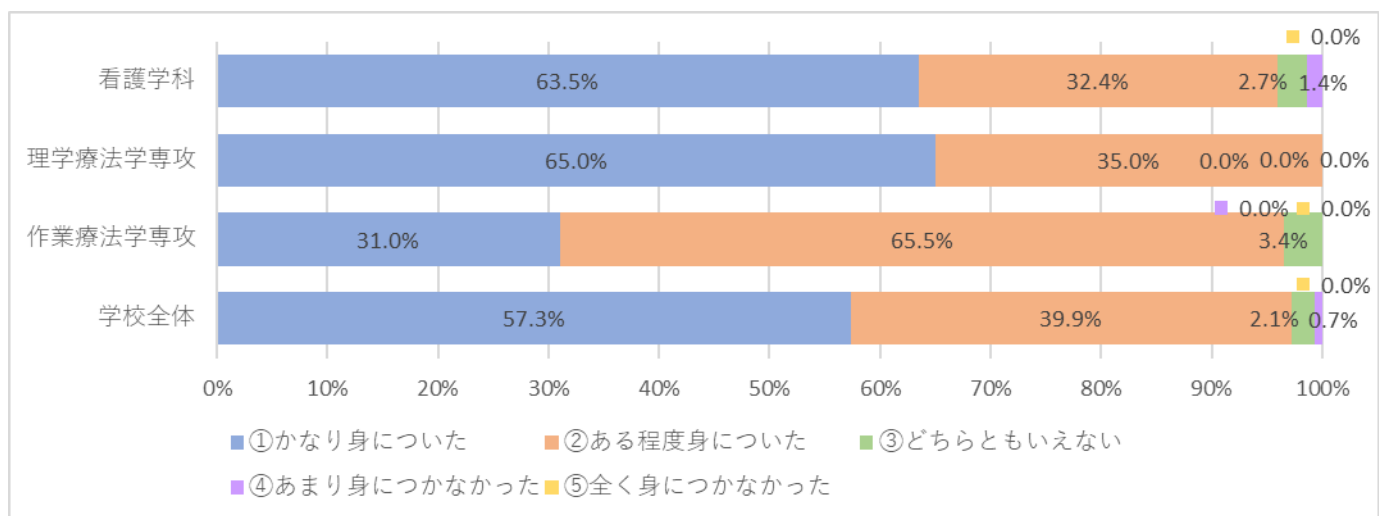


15) ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある。

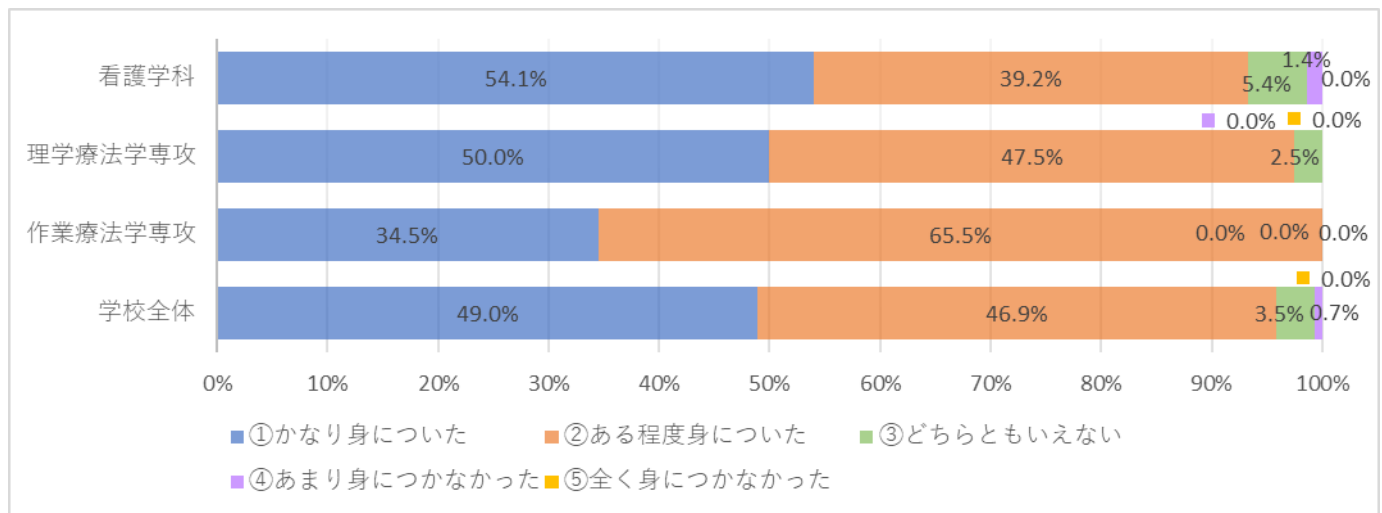


Ⅳ 在学中の成長

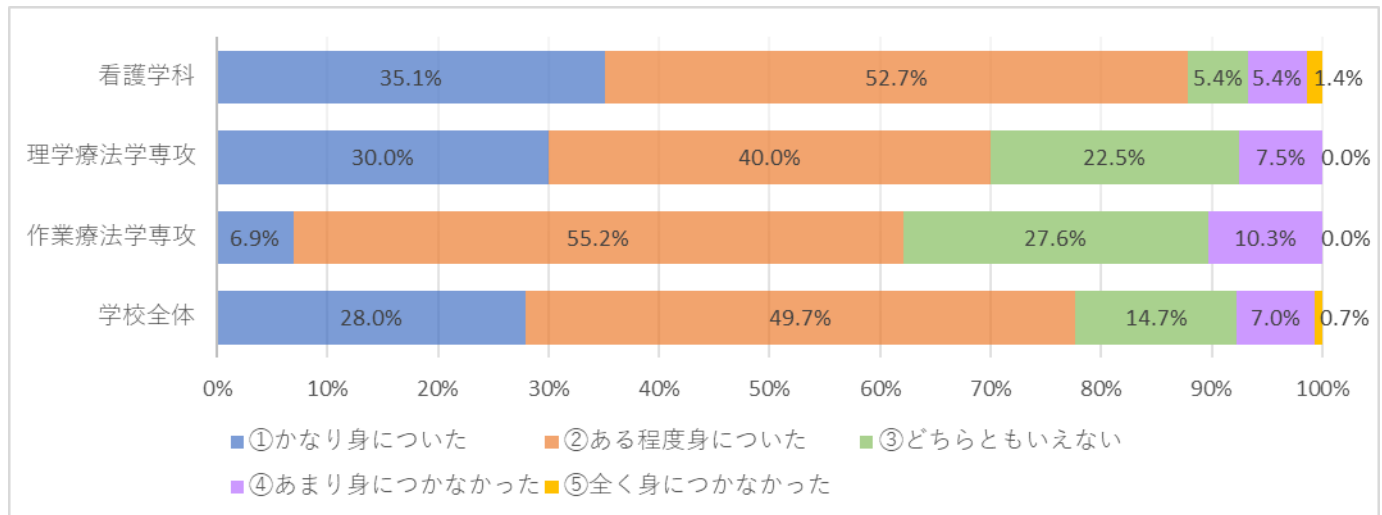
16) 所属学科専攻に直結する専門職の知識技術について



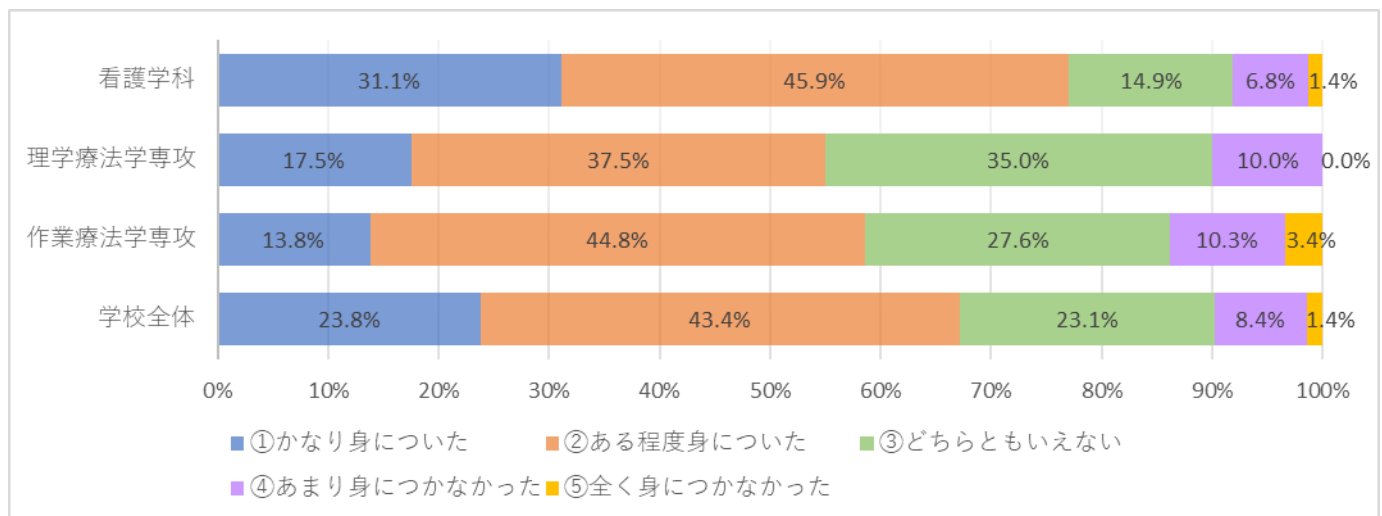
17) 将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観について



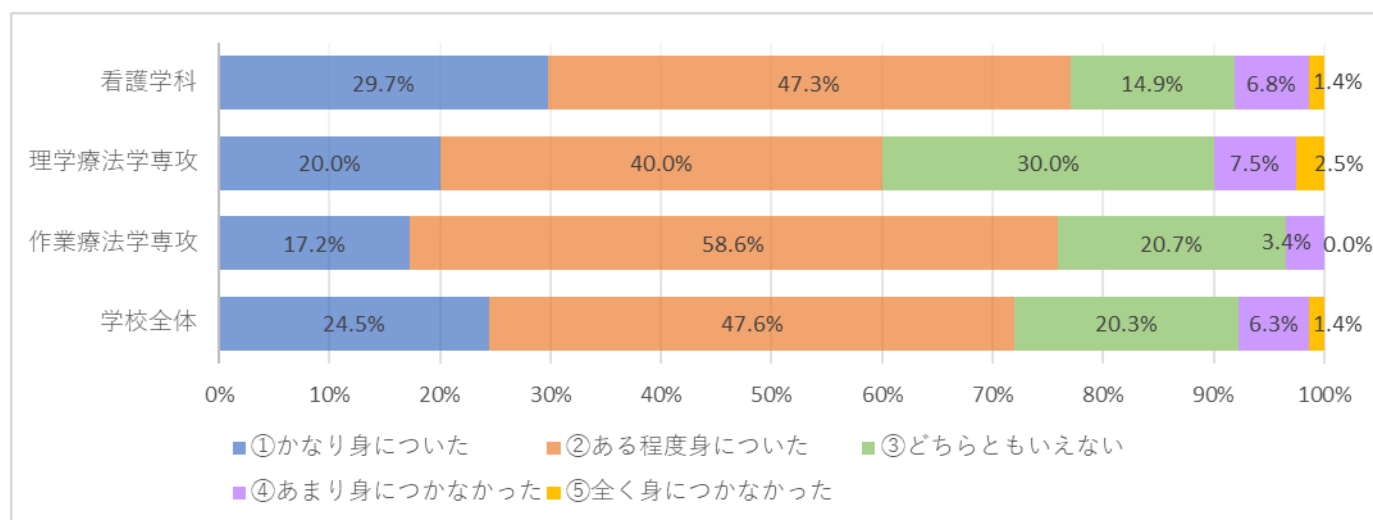
18) 文献・資料を収集・分析する力について



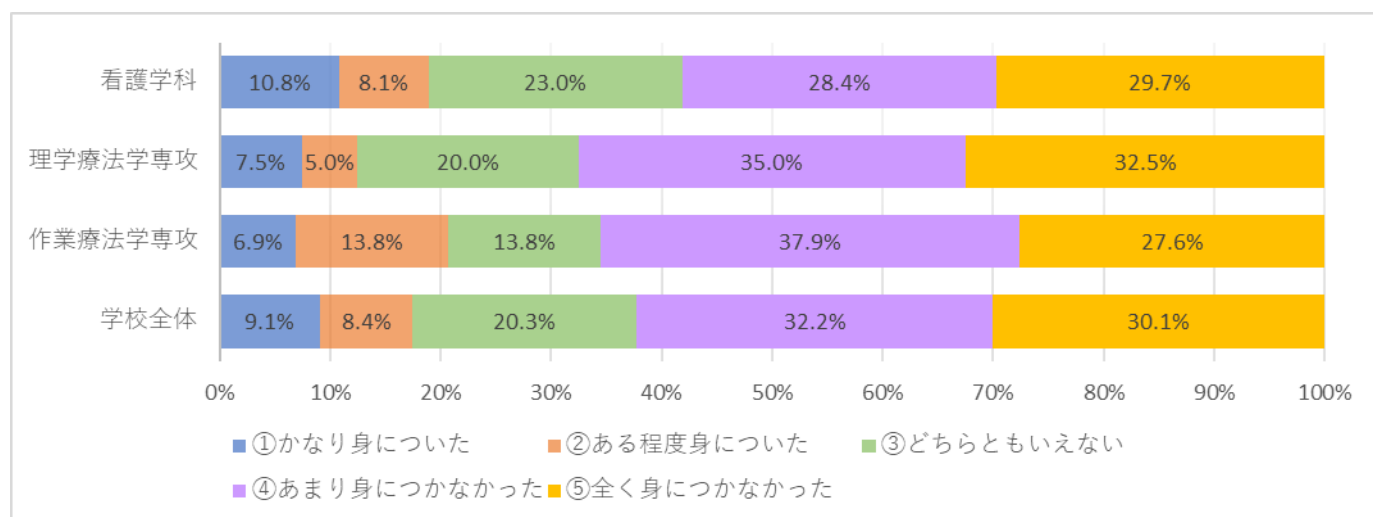
19) 論理的に文章を書く力について



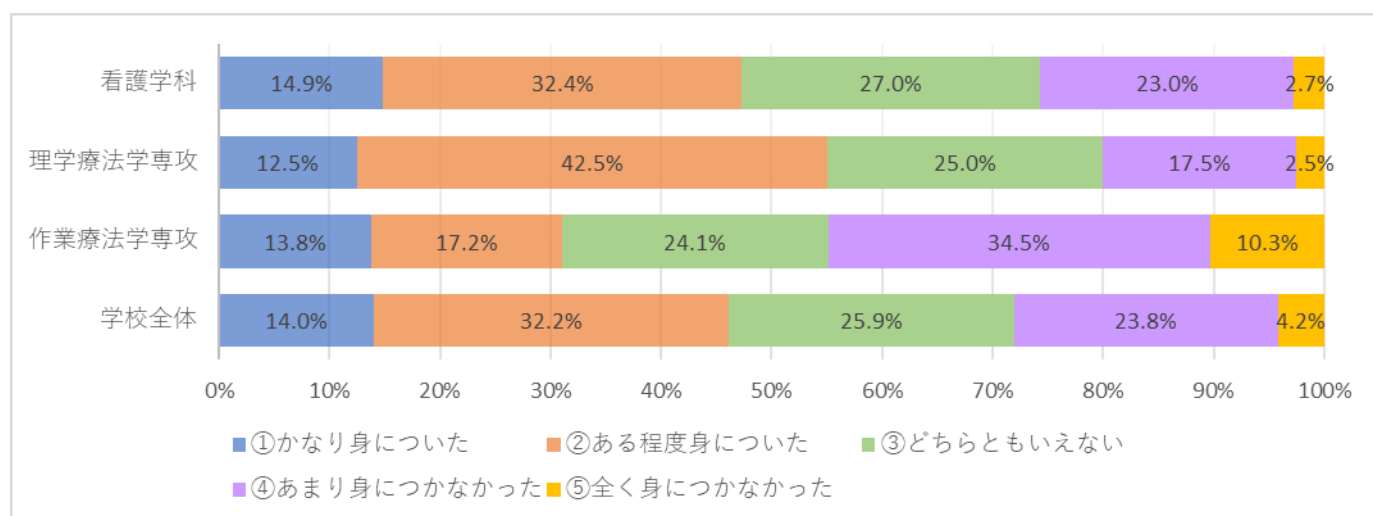
20) 人に分かりやすく話す力について



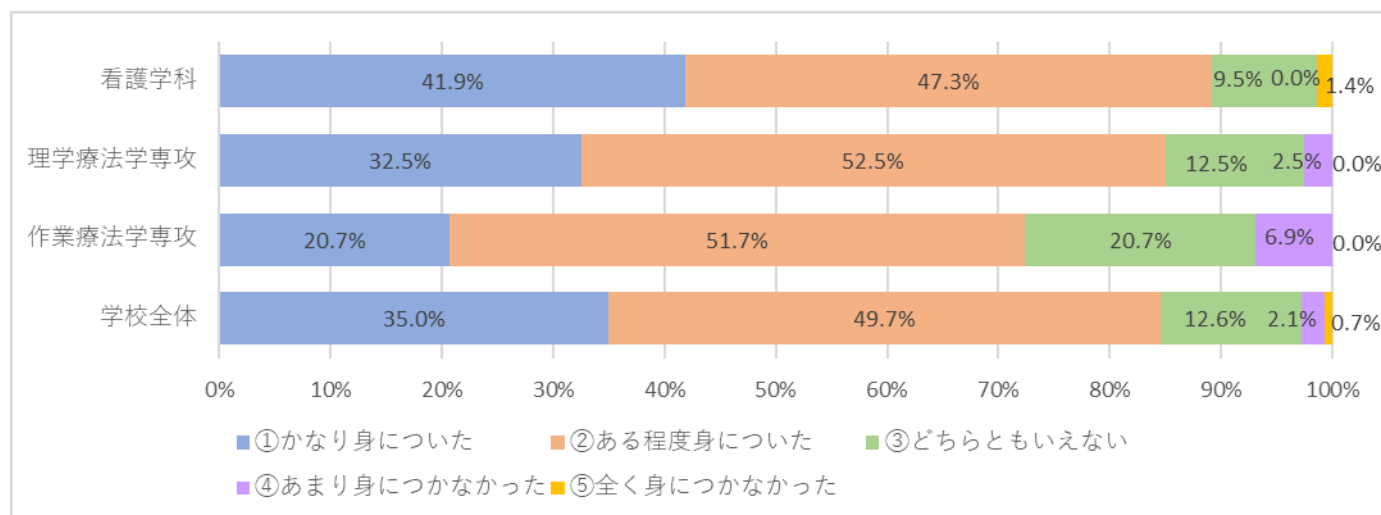
21) 外国語を使う力について



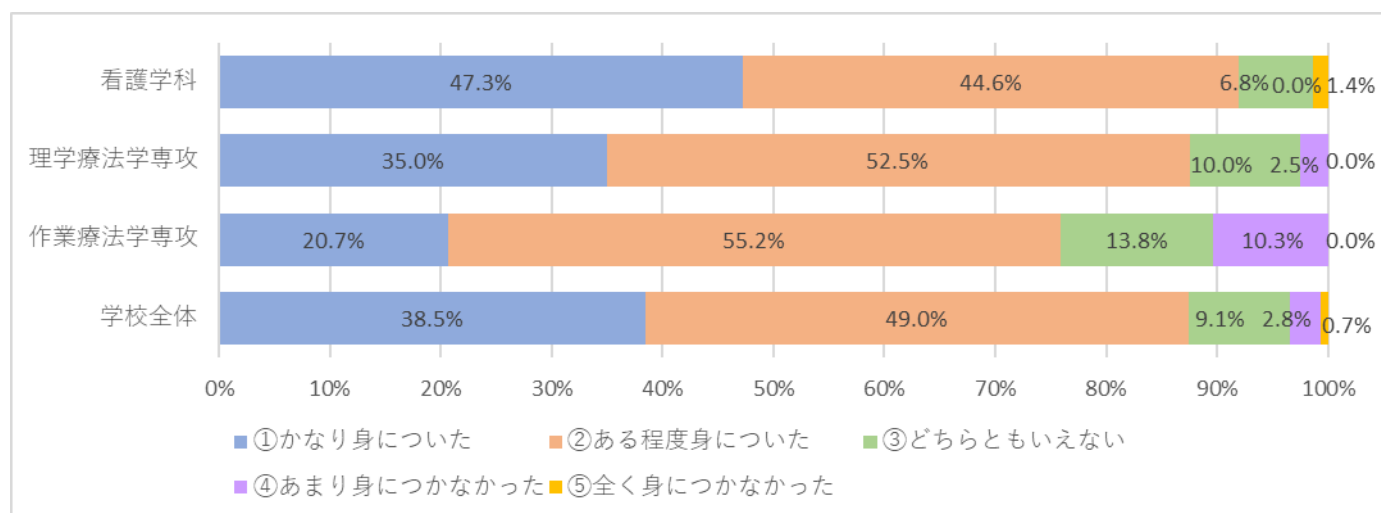
22) 数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能について



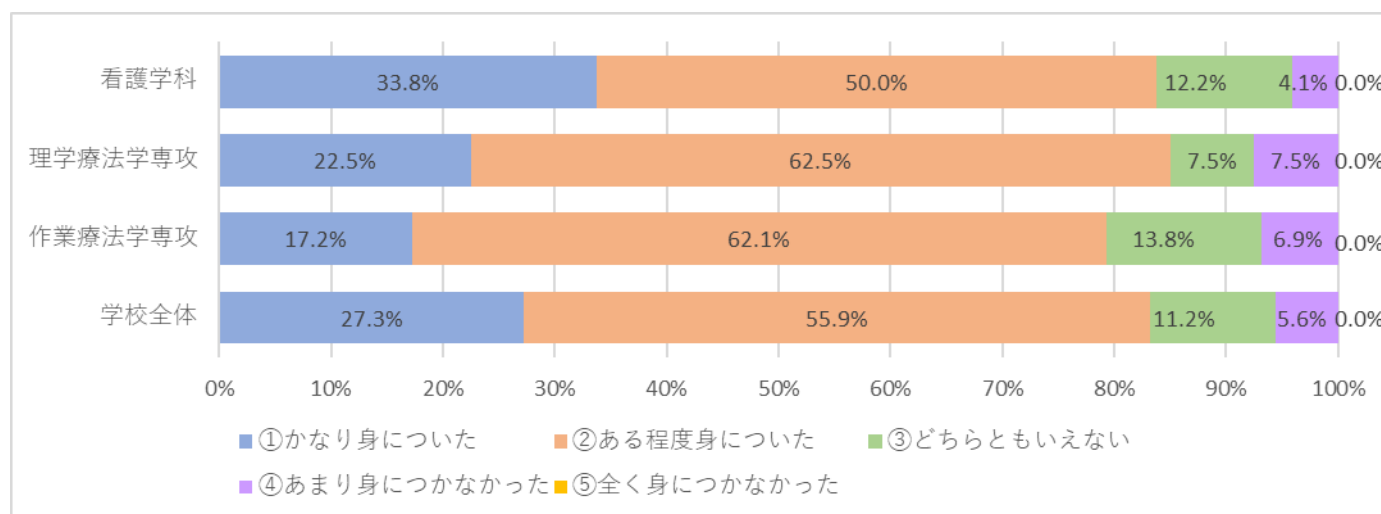
23) 問題や課題に対して自ら行動する力（主体性）について



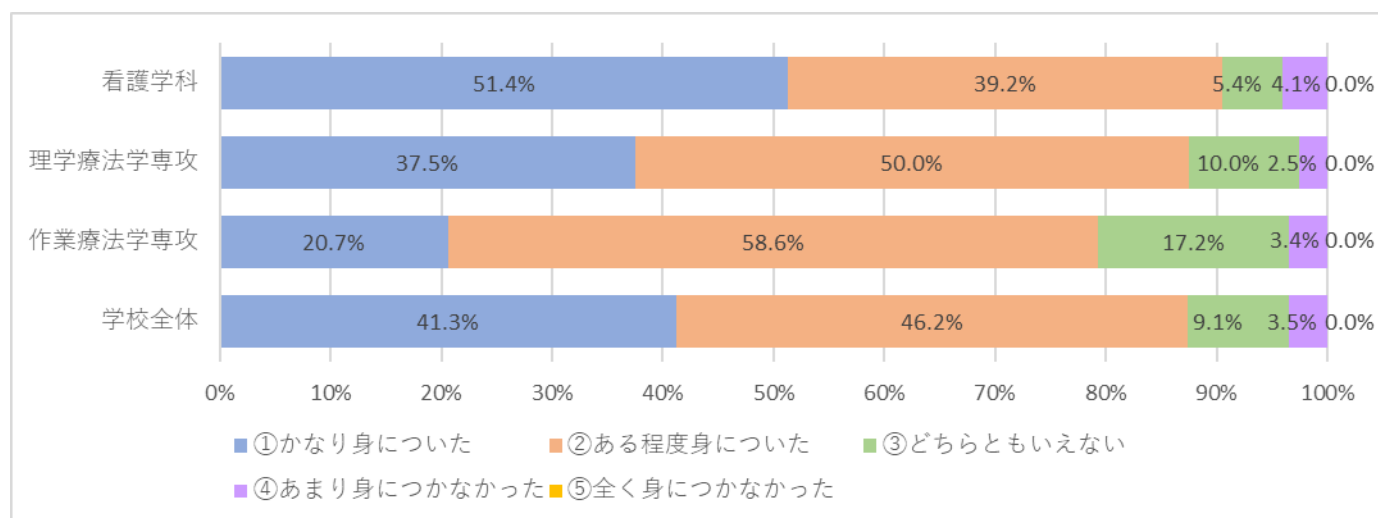
24) 科学的根拠（学んだ知識）に基づき問題解決に取り組む姿勢について



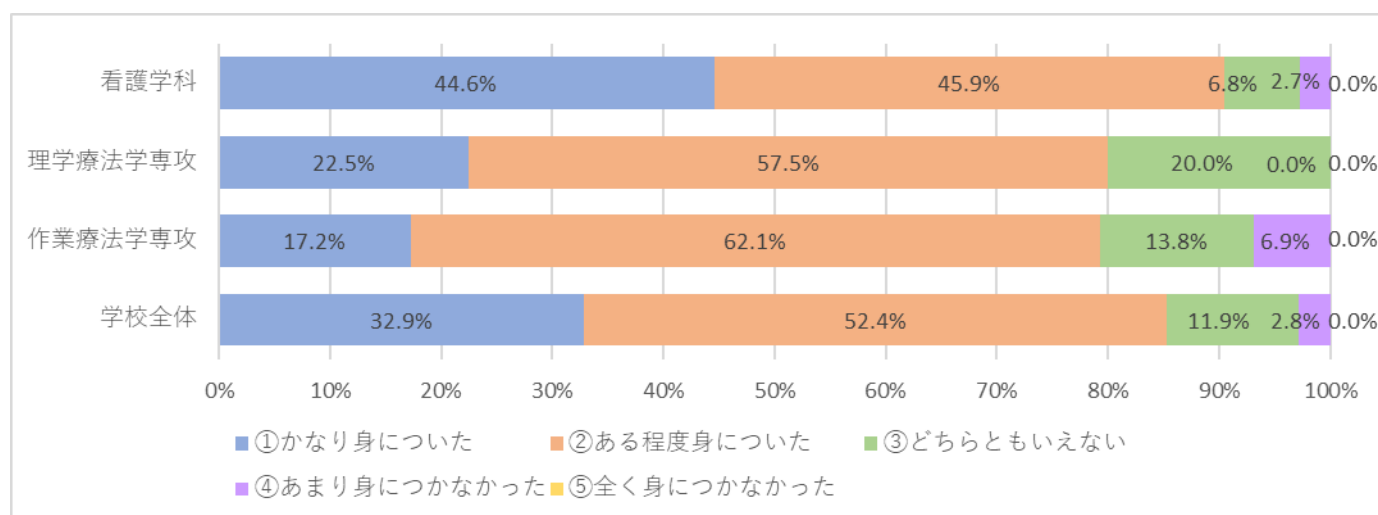
25) 他の職種と連携して取り組む力について



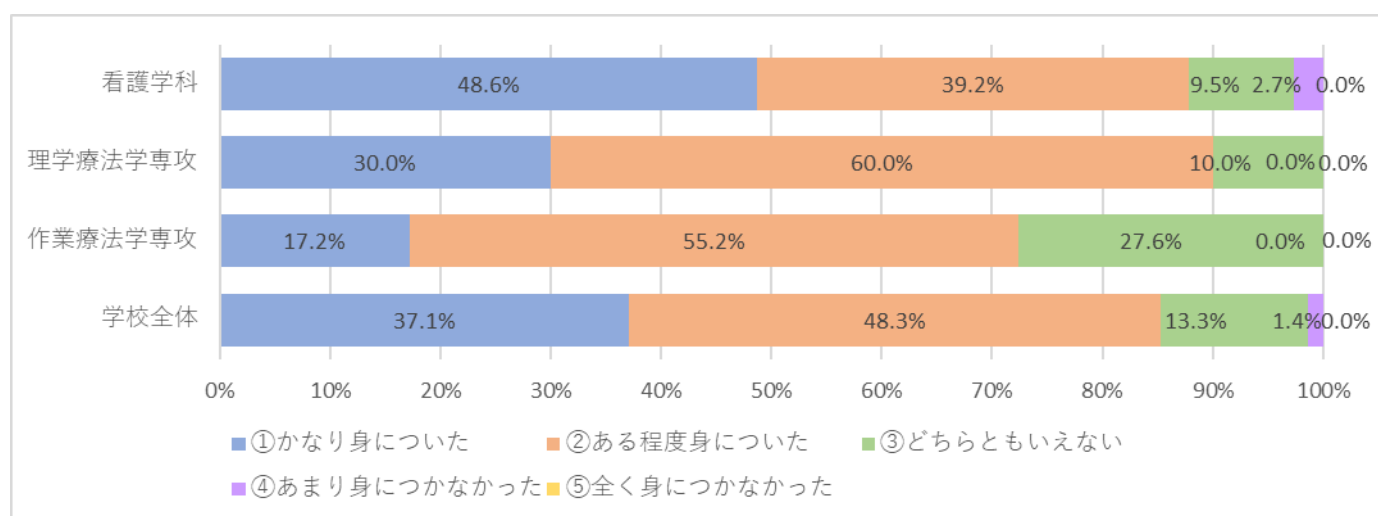
26) 様々な他者とのコミュニケーションを通じ良好な関係を築く力について



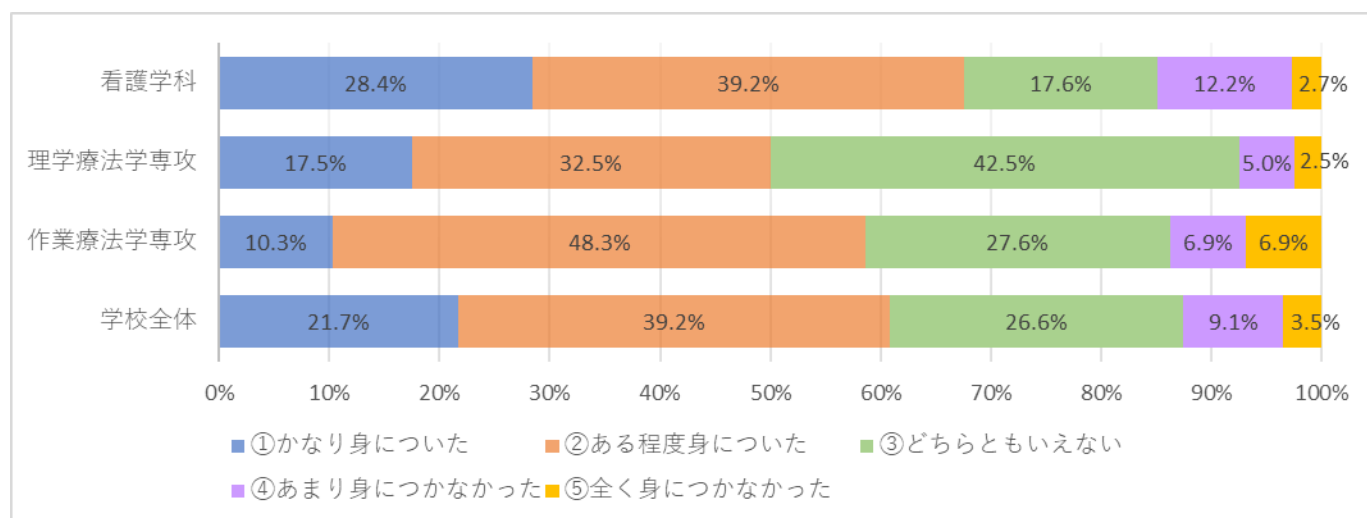
27) 幅広い教養について



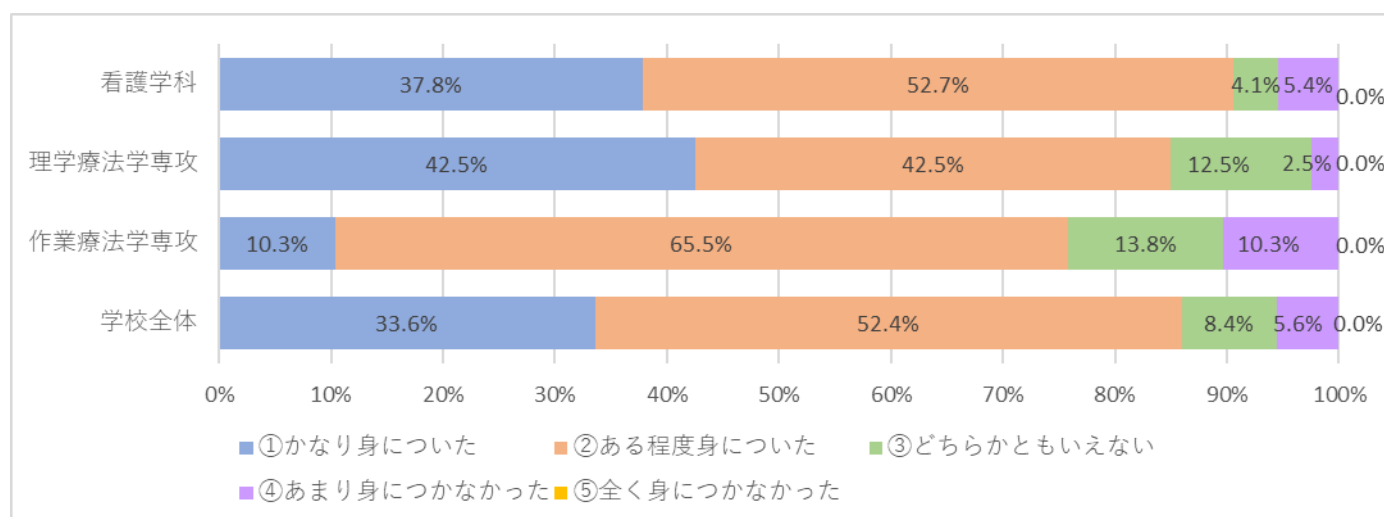
28) 高い倫理観（社会生活を送る上での決まりごとや守るべき道理）について



29) 異なる文化に関する知識・理解について

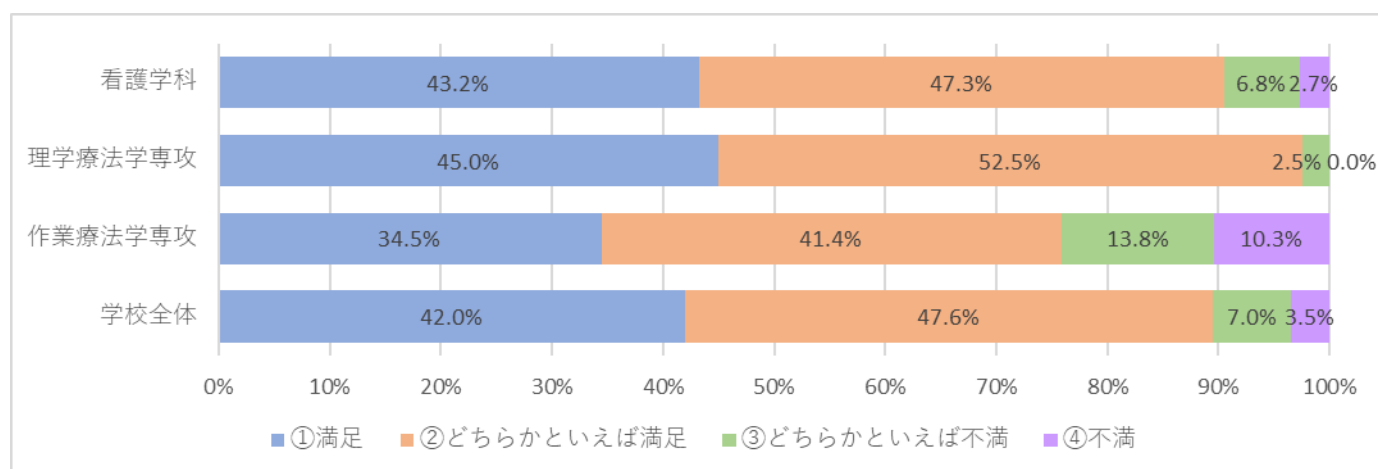


30) 専門職就職後にも自己研鑽に努める覚悟や姿勢について

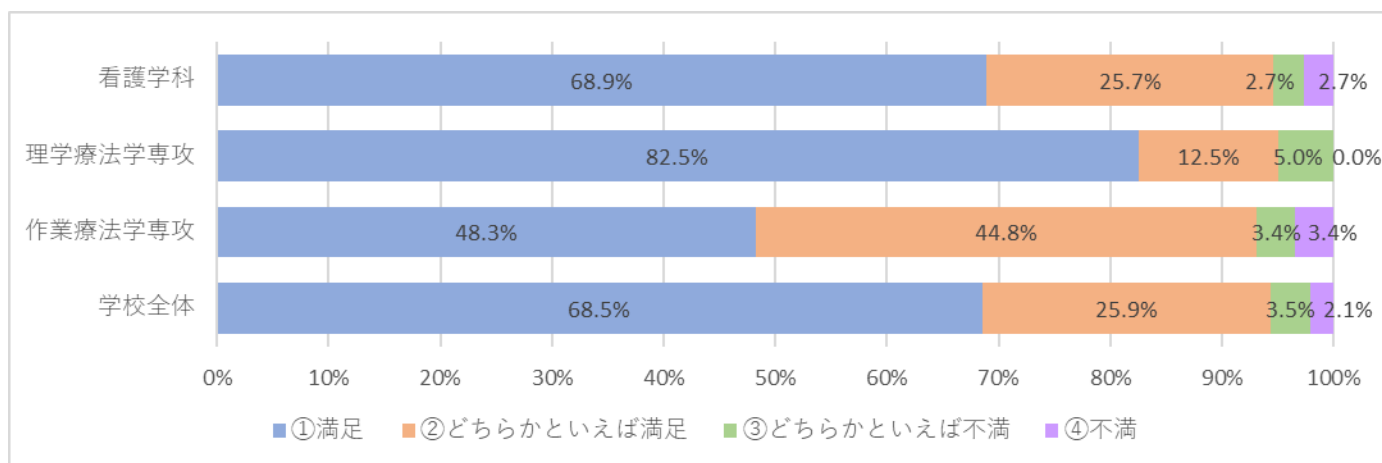


V 本学における就職支援について

31) 就職支援に満足していますか。

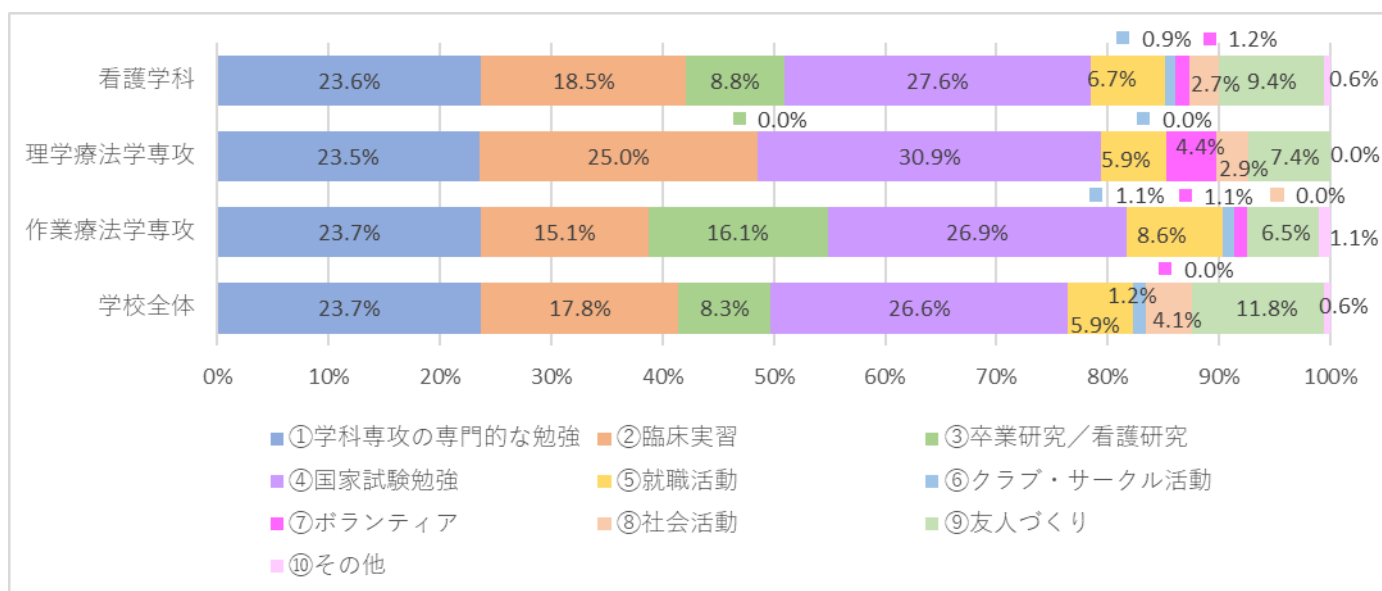


32) 最終的な卒業後の進路（就職・進学等）に満足していますか。

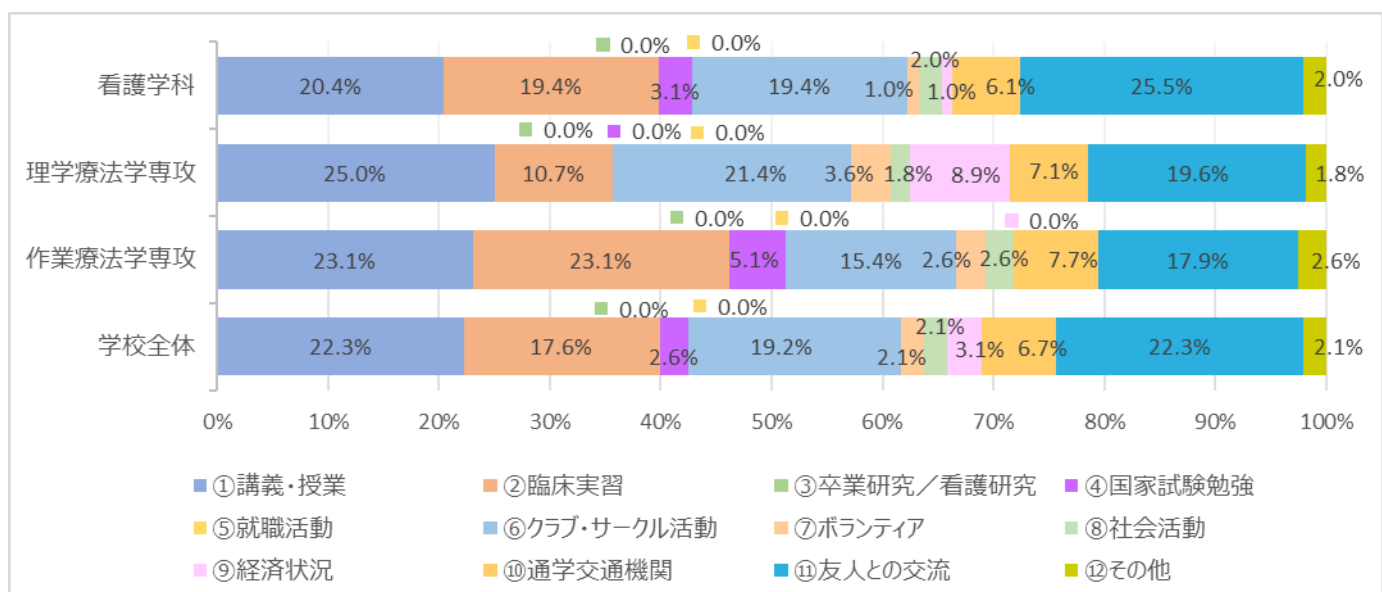


VI キャンパスライフについて

33) 本学在学中、力を入れた活動を選んでください。（複数回答可）

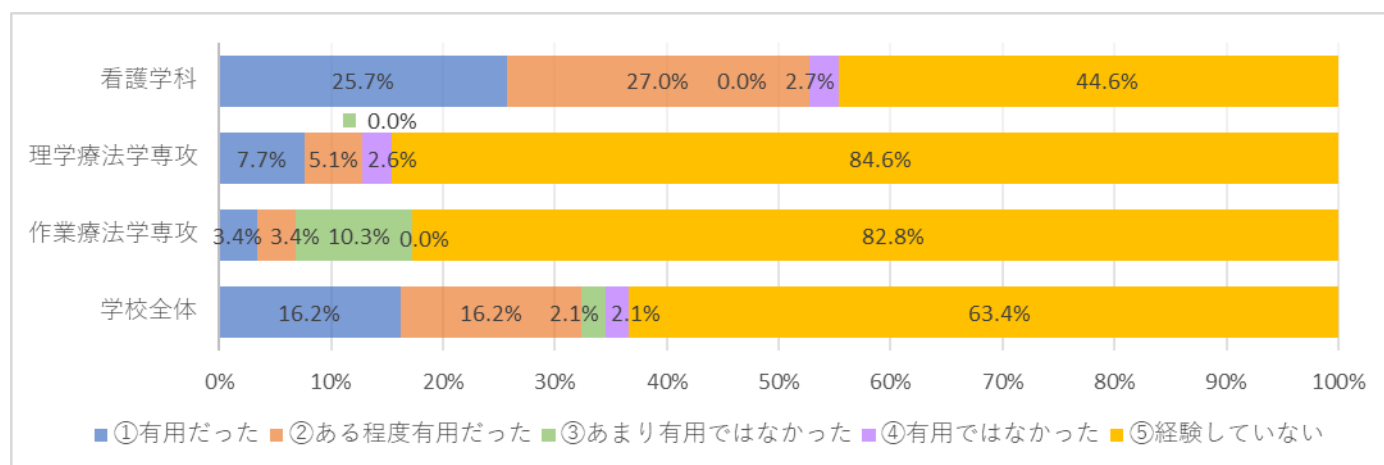


34) コロナ禍の中、あなたにとって大きな影響を受けたものを選んでください。（複数回答可）



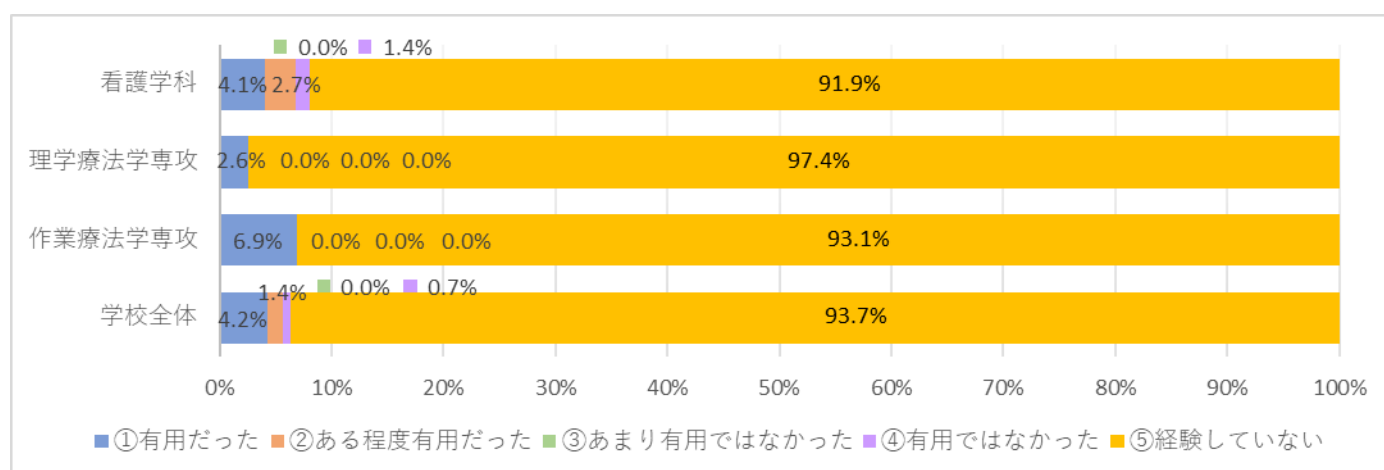
35) 本学在学中に経験したことについて

・インターンシップについて（5日間以上）



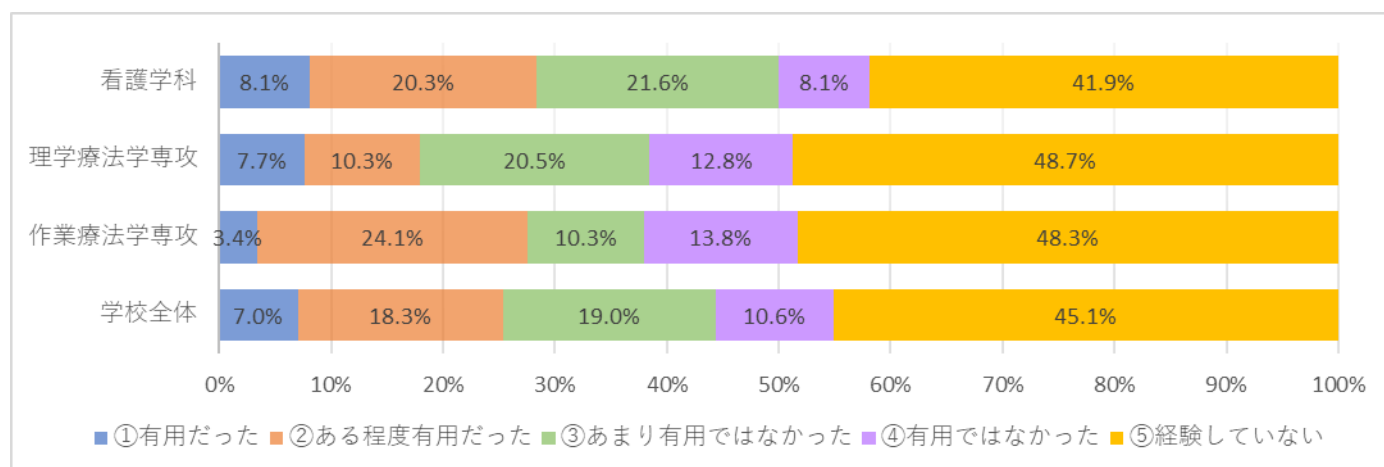
36) 本学在学中に経験したことについて

・海外留学・海外研修（短期も含む）

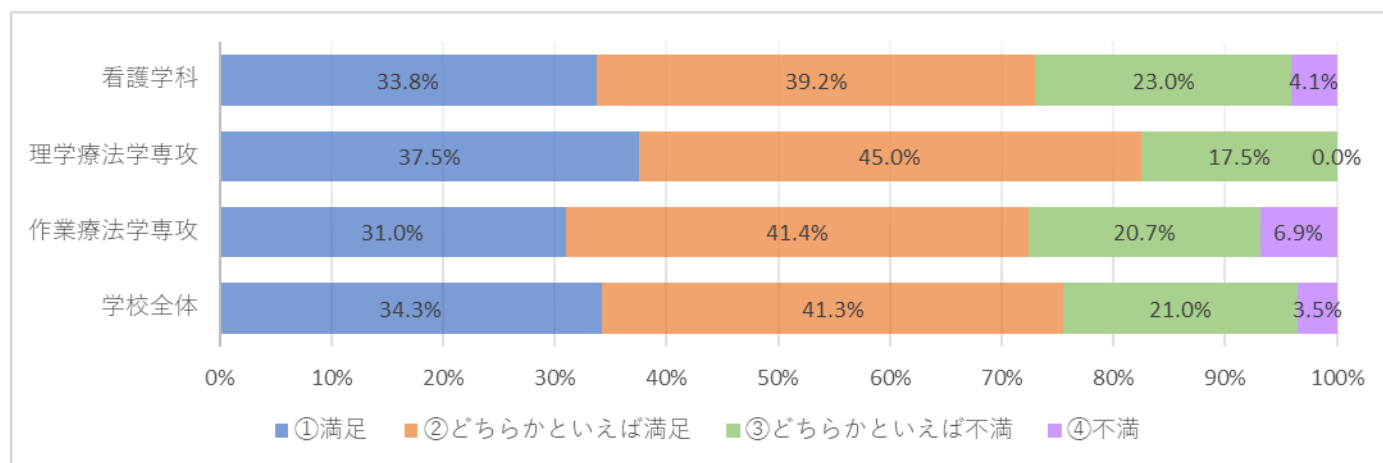


37) 本学在学中に経験したことについて

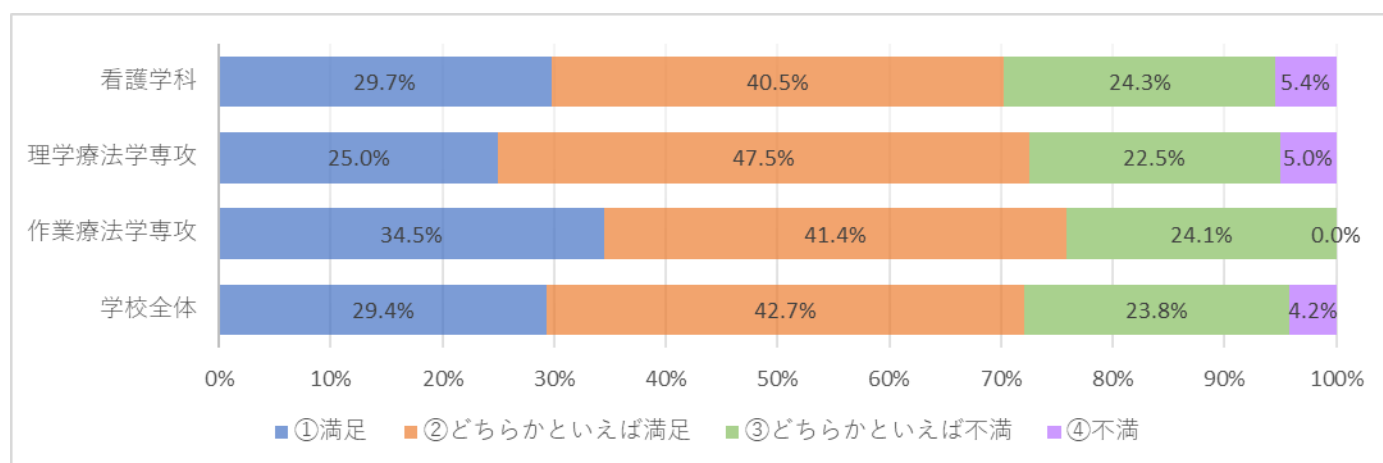
・主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）



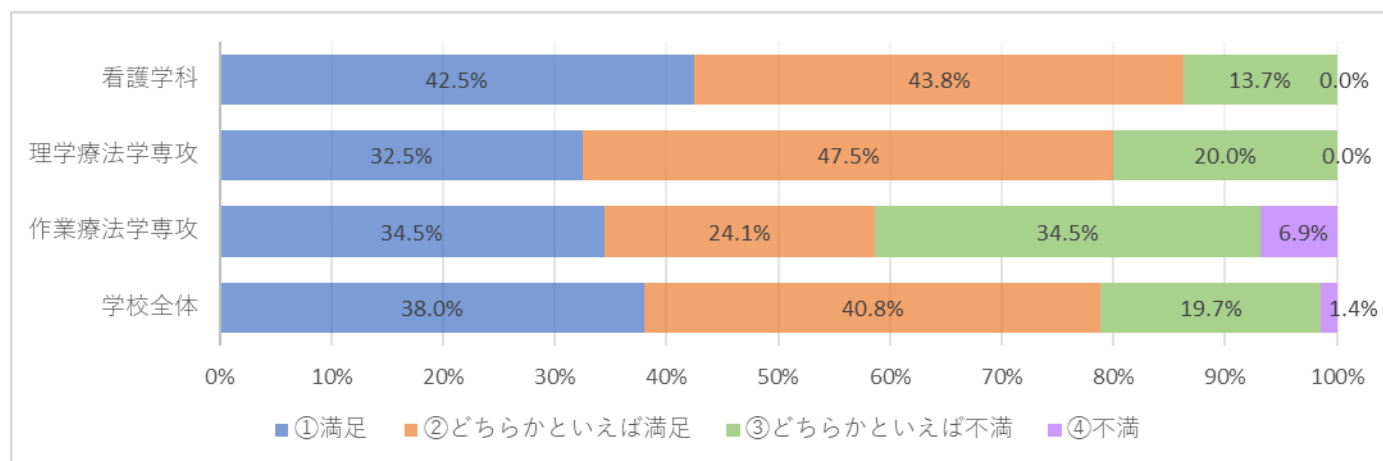
38) 食堂について



39) 売店について

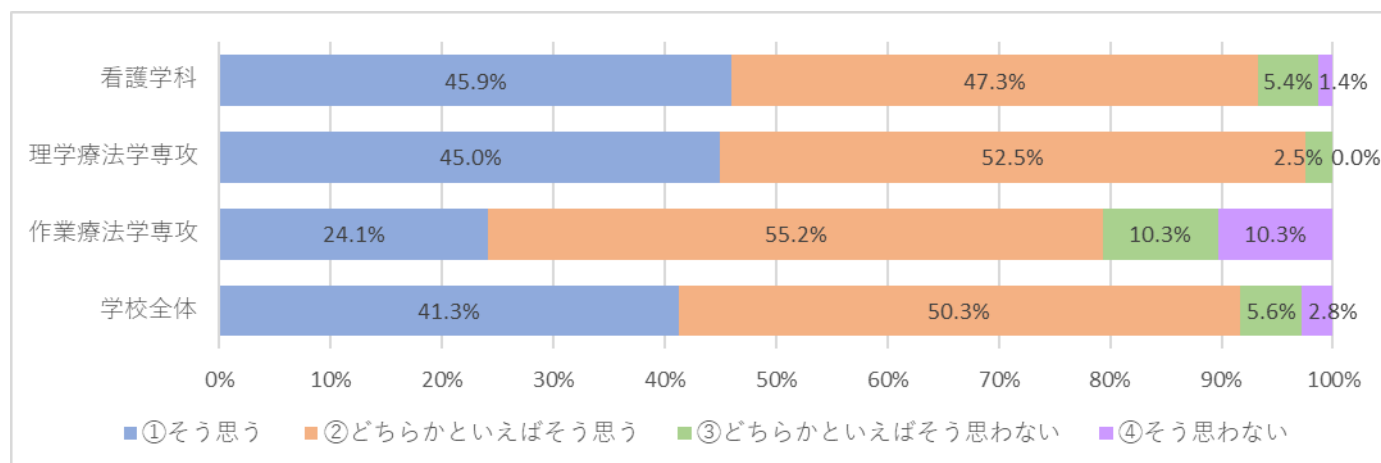


40) 自動販売機について



Ⅶ 総合的な評価について

41) 入学前と比較して『湘南医療大学は良い大学だ』という思いは強まりましたか。



42) あなたが4年間で『専門職に就く覚悟やモチベーション』が最も高まった科目は何ですか。

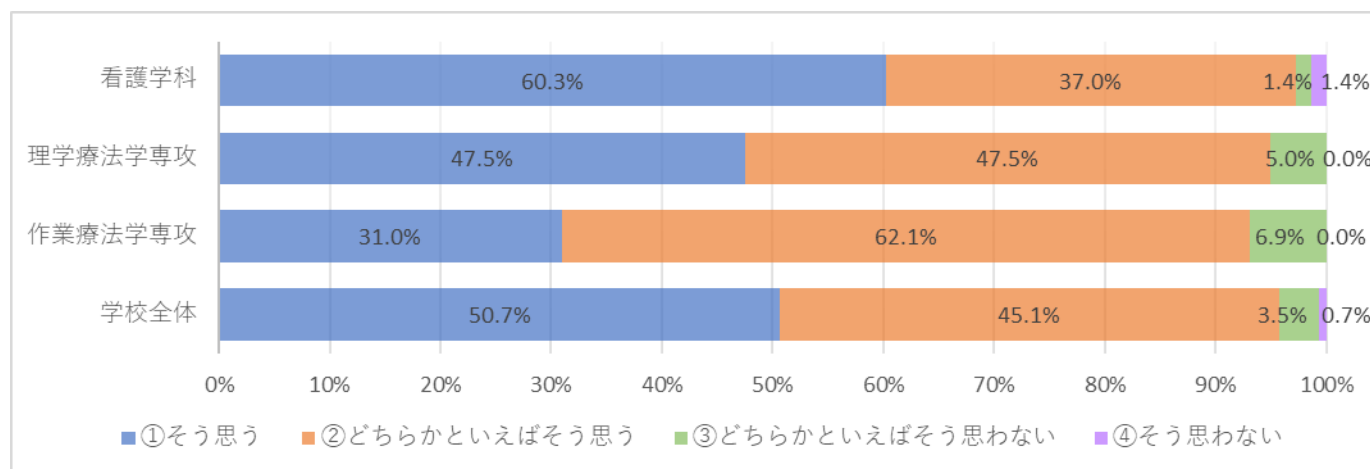
看護学科		理学療法学専攻		作業療法学専攻	
科目名	件数	科目名	件数	科目名	件数
臨地実習	15	臨床実習	8	臨床実習	7
成人看護学実習	8	総合臨床実習	6	解剖学	5
統合実習	7	解剖学	5	司法精神科作業療法	3
チーム医療論	4	検査測定学	2	作業技術学Ⅱ(陶芸・織物)	1
成人看護学	4	評価学実習	2	コミュニケーション論	1
人体の構造・機能	2	理学療法特論Ⅰ	2	倫理学	1
母性看護学	2	総合臨床実習Ⅰ	2	総合臨床実習	1
老年看護学	2	解剖学実習	1	作業技術学	1
基礎看護学	2	ウーマンズヘルスケア	1	OT専門科目	1
看護倫理	1	徒手療法	1	生命倫理学	1
小児看護学	1	基礎運動学	1		
看護過程	1	先生方のそれぞれの専門科目	1		
小児看護学概論	1	呼吸・循環系理学療法学	1		
実践看護論Ⅰ(がん看護)	1	物理療法学	1		
看護学概論	1	理学療法特論	1		
特筆すべきものは無し	1				
基礎看護学実習	1				
精神看護学実習	1				

43) あなたが4年間で『湘南医療大学でこの科目を受講できて良かった』と思う科目は何ですか。

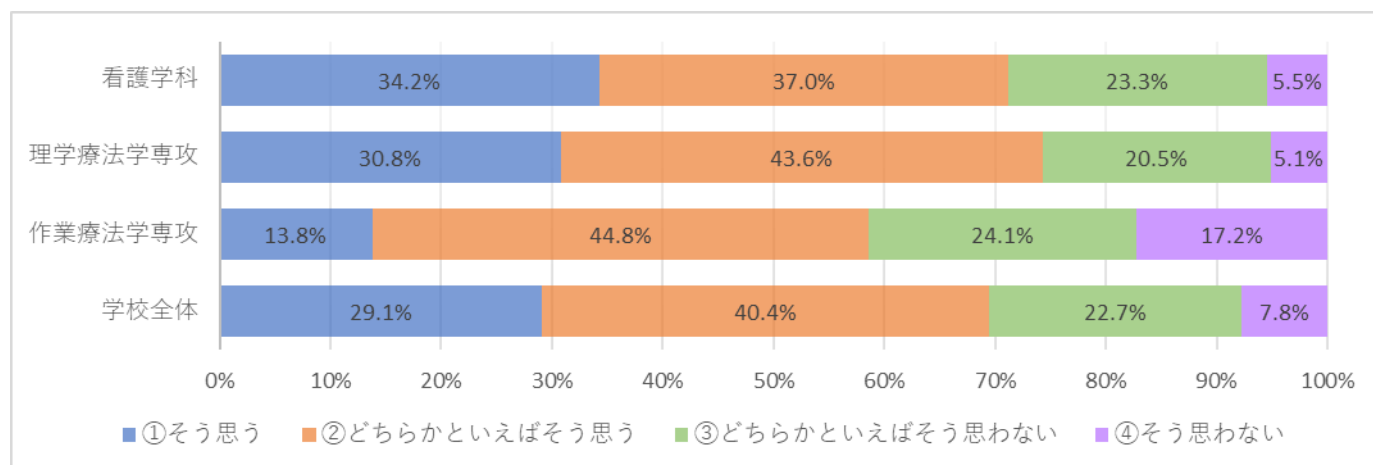
看護学科		理学療法学専攻		作業療法学専攻	
科目名	件数	科目名	件数	科目名	件数
人体の構造・機能	14	解剖学	7	司法精神科作業療法	5
臨地実習	8	臨床実習	4	臨床実習	3
チーム医療論	4	チーム医療論	4	解剖学	3
基礎看護学	3	検査測定学	3	倫理学	2
レクリエーションスポーツ	3	スポーツ理学療法学	2	作業療法学総合講義	1
統合実習	3	解剖学実習	2	義肢装具学	1
母性看護学	3	徒手療法	1	障害者スポーツ	1
看護研究	3	理学療法特論Ⅱ	1	生命倫理学	1
倫理学	2	リハビリテーション工学	1	解剖学実習	1
障害者スポーツ	1	呼吸・循環系理学療法学	1	実習前に校内で模擬実習	1
成人看護学実習	1	脳神経外科学	1		
哲学	1	義肢装具学Ⅰ	1		
老年看護学実習Ⅰ	1	義肢装具学	1		
看護倫理	1	整形外科学	1		
その他（補完療法）	1	卒業研究	1		
心理学	1	総合臨床実習Ⅰ	1		
実践看護論Ⅳ（ウィメンズヘルス）	1	理学療法特論Ⅰ	1		
看護基礎ゼミ	1	臨床薬理学	1		
病態学	1				
地域看護学実習	1				
成人看護学	1				
成人看護学実習(急性期)	1				
老年看護学	1				
国試対策	1				
精神看護学実習	1				
実践看護論Ⅰ（がん看護）	1				

Ⅷ 大学での学び全体の振り返り

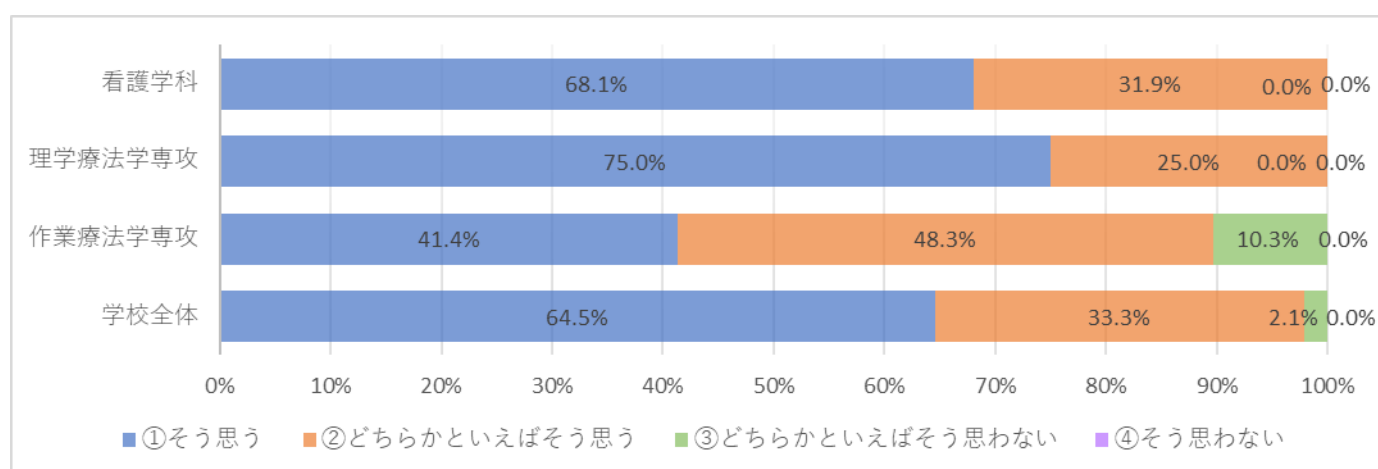
44) 卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している。



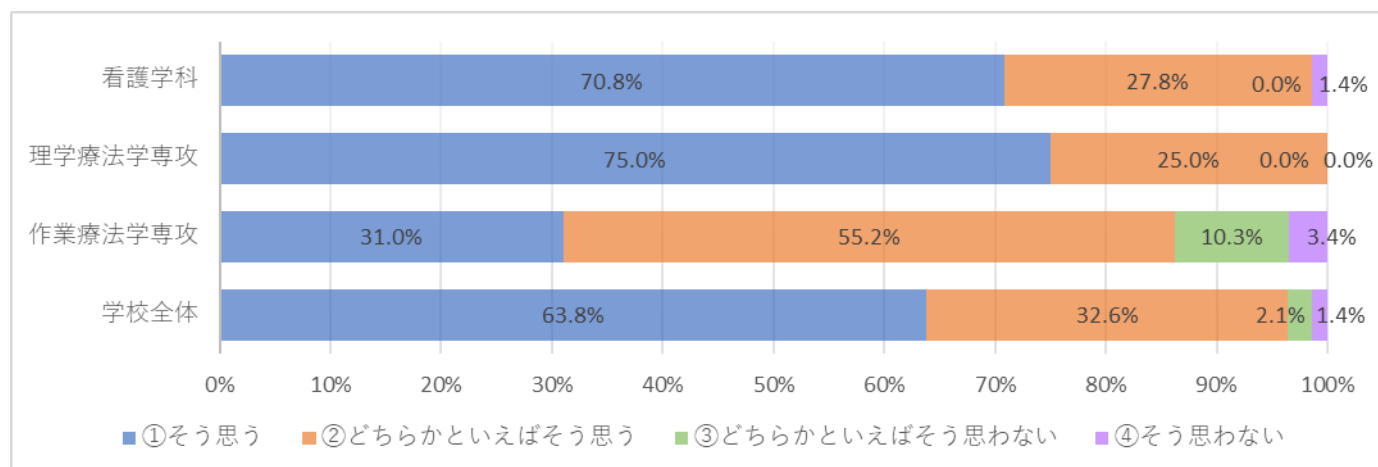
45) 授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。



46) 教職員が熱心に教育に取り組んでいる。



47) 大学の学びによって成長を実感している。



48) 本学に対するご意見や改善点があれば具体的にご記入ください。(自由書式)

意見	件数
事務からの連絡を早くして欲しい。	2
トイレの手洗い場の反応が悪いです。直して欲しいです。	2
就職支援をもっとしっかりやってほしい。	1
併願の有無などチューター間で統一してほしい。無理にふれあいを勧めすぎないで欲しい。チューターが気にかけてくれる先生とそうでない人と差が激しい。	1
先生たちが優しくてこの学校でよかったです。	1
前年度のスケジュールや連絡予定日など教えてほしい。	1
維持費が高いのに勉強環境や設備が全然維持できていないと感じる。	1
昼休みに利用できる場所、椅子や机を増やすといいとおもいました。	1
事務が伝えたことを一切改善してくれない。3.4 回言いに行かないと動いてくれない。	1
売店の食品の種類がなさすぎる。	1
4 年間いろんな先生方にお世話になりましたが、4 年生が一番多くの先生の世話になったと思っています。4 年間ありがとうございました。	1
椅子の背もたれが壊れすぎていて危ないです。	1
夕方以降の図書室が少し暗くて勉強ににくいです。	1
エアコンが自動で切れるため、冬場国試対策で勉強して集中している時に寒くて集中が途切れることがかなりストレスでした。	1
教員間での伝達、学生への伝達を早くして頂きたい。	1
暖房の導入を早めて頂き、また、温度をあげられるようにして欲しい。昨今、気温が下がっているためあまりにも寒い。床がタイルであることから冷えやすい。	1
全体的に教員の態度が悪い部分もあると思います。生徒が主体で動くことも大切だと思いますが、4 年生の国家試験の対策時には、生徒が聞きに行ったりしない限りほとんど放置です。(一部の教員のみ) ストレスの溜まる環境と成りかねないため改善した方がいいと思う。	1
給水機をもっと置いて欲しい。	1